

令和8年度
(令和7年度事業分)

益田市教育委員会
点検・評価報告書

益田市教育委員会

令和8年8月

《目次》

1 益田市教育委員会の事務に関する点検・評価について	1
（1）趣旨	
（2）点検及び評価の対象	
（3）点検及び評価の方法	
（4）益田市教育委員会外部評価委員会委員	
（5）益田市教育委員会外部評価委員会開催状況	
2 益田市教育委員会事務事業の点検・評価の概要	3
（1）評価対象事務事業	
（2）評価の観点	
（3）評価結果の概要	
（4）重点項目別評価	
3 点検・評価に対する外部評価委員からの意見	16
志々田 まなみ 氏（文部科学省国立教育政策研究所生涯学習政策研究部総括研究官）	
村 上 護 氏（元益田市立小学校長）	
豊 田 美 絵 氏（保護者代表）	
中 野 純 氏（元益田市教育委員）	
4 外部評価委員会を終えて	21

資料編

- 【資料1】 令和7年度益田市教育委員会事務事業別点検・評価シート
- 【資料2】 令和8年度益田市教育委員会事務事業別点検・評価シート
- 【資料3】 令和8年度 益田市の教育の概要

1 益田市教育委員会の事務に関する点検・評価について

(1) 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正（平成20年4月1日施行）に基づき、教育委員会は毎年その権限に属する事務管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を公表することとされています。

益田市教育委員会では、益田市「教育に関する大綱」に掲げた重点項目及び「令和7年度の施政方針」に掲げた重点項目について点検及び評価を行い、この報告書を作成しました。これを公表し、市民の皆さんに現時点における益田市の教育の現状に対するご理解をいただくとともに教育行政の一層の推進を図ってまいります。

(2) 点検及び評価の対象

点検及び評価の対象とする事務事業は、令和3年3月に策定した「第6次益田市総合振興計画」に定める基本施策を踏まえ、6つの重点項目を掲げ、関係教育機関との連携を密にしながら、広く市民の理解と協力を得て、教育行政を総合的に推進してまいりました。この6つの重点項目にかかる教育行政の推進上重要な事業について、令和7年度の事業実績を基に点検及び評価を行うことといたします。

- 重点項目1 次代を担う人を育てる教育環境の充実（評価対象事業 8）
- 重点項目2 地域・世代を超えた学習機会の創出（評価対象事業 2）
- 重点項目3 歴史・文化の保存・継承・調査・活用や芸術活動の推進（評価対象事業 1）
- 重点項目4 食と農への理解の促進（評価対象事業 1）
- 重点項目5 生涯スポーツ社会の実現（評価対象事業 1）
- 重点項目6 人権の尊重の推進（評価対象事業 1）

(3) 点検及び評価の方法

- ① 点検及び評価にあたっては、上記の6つの重点項目に位置付けている事業について、事務事業別点検・評価シートに改善事項又は課題や今後の取組みの方向性を記載し、各事業の評価点を自己採点し、その評価点を次の基準に照らして自己評価しています。

自己評価	評価対象事業に対する達成状況の基準
A	目標どおりの成果があった
B	目標には届かないが高い成果があった
C	一定の成果があった
D	期待した成果が認められなかった
E	見直しの必要性がある

- ② 各評価対象事業の実績を踏まえ、それぞれの効果や執行状況等を点検及び評価し、その結果を取りまとめた報告書（本書）を作成します。また、報告書の作成にあたっては、益田市教育委員会外部評価委員会の知見を活用し、評価の妥当性などについて意見を求め、次年度の教育行政に反映させるとともに事務事業の計画、実施に反映させます。

（４）益田市教育委員会外部評価委員会委員

志々田 まなみ 氏 （任期：令和 8 年 4 月 1 日 ～ 令和10年 3 月 31日）

村 上 護 氏 （任期：令和 8 年 4 月 1 日 ～ 令和10年 3 月 31日）

豊 田 美 絵 氏 （任期：令和 8 年 4 月 1 日 ～ 令和10年 3 月 31日）

中 野 純 氏 （任期：令和 8 年 4 月 1 日 ～ 令和10年 3 月 31日）

（５）益田市教育委員会外部評価委員会開催状況

月 日	場 所
令和 8 年 7 月 1 7 日	益田市役所本庁 第一会議室
令和 8 年 8 月 1 9 日	益田市立保健センター大ホール

2 益田市教育委員会事務事業の点検・評価の概要

(1) 評価対象事業

令和7年度においては、次の6つの重点項目に14の評価対象事業を設けました。

重点項目1 次代を担う人を育てる教育環境の充実

- ① 地域ぐるみでの教育の推進（保護者と連携したメディアコントロールの取組）
- ② 確かな学力の向上を目指した教育の推進
- ③ 確かな学力の向上を目指した教育の推進と子どもの可能性を伸ばす、個別最適化の推進
- ④ 子どもの可能性を伸ばす、個別最適化の推進（いじめ未然防止の組織的な取組）
- ⑤ 益田市型中高一貫教育の推進
- ⑥ ふるさとを愛し、誇りを持つ心を育てる教育の推進
- ⑦ 教育環境の整備・活用
- ⑧ ライフキャリア教育の推進による生きる力の育成

重点項目2 地域・世代を越えた学習機会の創出

- ⑨ 地域間、団体間の連携による多様な学習機会の創出と指導者のネットワーク化
- ⑩ 社会教育の推進と活動拠点づくり

重点項目3 歴史・文化の保存・継承・調査・活用や芸術活動の推進

- ⑪ 豊かな歴史・文化資源の保存・継承・調査・活用

重点項目4 食と農への理解の促進

- ⑫ 安心・安全な食の提供

重点項目5 生涯スポーツ社会の実現

- ⑬ スポーツ環境の充実

重点項目6 人権の尊重の推進

- ⑭ 人権・同和教育と人権啓発の推進

(2) 評価の観点

上記の評価対象事業については、「令和7年度益田市教育委員会事務事業別点検・評価シート」（別紙資料1）に基づき事業目標を立て、その実績により評価点をそれぞれ自己採点したうえで、その点数で自己評価を行いました。

(3) 評価結果の概要

【評価対象事業の自己評価の集計】

重点項目	自己評価				
	A	B	C	D	E
次代を担う人を育てる教育環境の充実	⑥⑧	①②③④	⑤	⑦	
地域・世代を越えた学習機会の創出		⑨⑩			
歴史・文化の保存・継承・調査・活用 や芸術活動の推進			⑪		
食と農への理解の促進			⑫		
生涯スポーツ社会の実現		⑬			
人権の尊重の推進		⑭			

各重点項目における各々の具体施策の自己評価を集計した評価結果は次のとおりです。【資料1】

「令和7年度益田市教育委員会事務事業別点検・評価シート」にある各項目の目標値及び令和7年度実績などと比較しながら整理しています。

A評価（目標どおりの成果があった）・・・2事業

⑥「ふるさとを愛し、誇りを持つ心を育てる教育の推進」

歴史文化を教材として扱う社会科教員の研修会において文化振興課職員が講師となることで、地域の歴史を授業に取り入れる方法が充実し、実際に中世の益田など本市の歴史文化を題材とした授業が実践されるなど、子どもたちの地域の歴史文化に対する解釈、関心や理解が深まった結果を評価しています。他にも、益田糸操り人形に触れる出前公演、雪舟を学ぶ墨絵出前授業や郷土の偉人に関する出前授業、益田市歴史文化交流館（れきしーな）の企画展への社会科見学支援など、実物を見たり触れたりする機会の提供に取り組んでいることが、目標値を上回る結果につながったと評価しています。

⑧「ライフキャリア教育の推進による生きる力の育成」

公民館活動やつらうて子育て協議会などの取組により、地域を活動拠点とした体験教室や交流事業などを通じて市内全域で学校の学びを地域に活かす取組が実施できたところです。特にライフキャリア教育に関わる大人の数が前年度を上回るなど、非常に活発な活動が見られたことにより、子どもたちが多様な価値観に触れる機会を多く確保することができたことなどを評価しています。

B評価（目標には届かないが高い成果があった）・・・8事業

①「地域ぐるみでの教育の推進（保護者と連携したメディアコントロールの取組）」

各校で情報リテラシー育成教室の実施や、情報リテラシー向上推進協議会研修会を通して、児童生徒、保護者、地域住民等へ理解啓発を図りました。益田市児童生徒意識調査「平日、1日当たり4時間以上

テレビゲームをしている」の割合では、小学生、中学生ともに目標値に達成することができていません。

「平日、1日当たり4時間以上携帯電話やスマートフォンを使用する」の割合では、小学生は目標値を上回っています。中学生も目標値に近い数値となっており、メディアコントロール、情報リテラシーに関する意識が少しずつ浸透してきたことを評価しています。

②「確かな学力の向上を目指した教育の推進」

全国学力・学習状況調査では、小学校6年生国語、小学校6年生算数、中学校3年生国語、中学校3年生数学すべてにおいて県平均を下回っています。しかし、全国学力・学習状況調査質問紙「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができている」の割合が小学生80%、中学生86%と目標値を上回る結果となったところです。また、経年比較からも、児童生徒の多くが対話による気づきの広がりや深まりを実感できていることが見受けられたことを評価しています。

③「確かな学力の向上を目指した教育の推進と子どもの可能性を伸ばす、個別最適化の推進」

幼小連絡協議会研修会において、子どもの発達段階を見通したこれまでの接続期の取組を継続・充実させながら、架け橋期へと広げる意義と取組について理解・啓発を図ってきました。幼小連携協議会研修会におけるアンケートでは、「幼児・児童個々の発達の特徴に応じた環境構成とかがわりができた」の肯定的回答が目標値を上回り、幼小連携の理解が進んでいます。また、中学校区において小中相互授業交流を行い、授業参観、意見交流を実施しました。各校が課題解決を図るために交流の必要性を高く認識していることを評価しています。

④「子どもの可能性を伸ばす、個別最適化の推進（いじめ未然防止の組織的な取組）」

令和6年度より益田市では、「かかわりあう集団づくり」「いじめ未然防止教育を重視した対応」「社会的自立に向けた不登校支援」の3つを合言葉に、生徒指導推進プランに取り組んでいます。不登校及び不登校傾向の児童生徒と関係機関との連携実績は、昨年度よりもやや減少しています。しかし、全国学力・学習状況調査質問紙における「先生はあなたの良いところを認めてくれている」「学校に行くのは楽しいと思う」における肯定的回答において、小学生、中学校ともに目標値を上回っていることを総合的に評価しています。

⑨「地域間、団体間の連携による多様な学習機会の創出と指導者のネットワーク化」

公民館やつらうて子育て協議会、放課後子ども教室（ボランティアハウス）を中心に、野外体験活動や放課後の地域交流、高齢者や小中高大学生などの異年代、異校種の交流活動を展開することができたところです。また、NPO法人やスポーツ団体などとの連携により、それぞれの専門性や強みを活かしながら、多世代の交流を意識したプログラム等の構築、充実が図られていることなどを評価しています。

⑩「社会教育の推進と活動拠点づくり」

公民館職員スキルアップ研修参加者数については、益田市公民館職員研修プログラム実施要綱に基づき、研修会を計画的に取り組んだことや公民館長連絡会等を通じ、積極的に周知を行ったことから参加者数の増加に繋がっています。ふるさと・ひとつなぎコーディネーター（旧社会教育コーディネーター）が関わった世代間交流については、定期的にコーディネーター会を実施し、情報共有や活動支援を行っていることや地域でのコーディネーターの活動が普及し、公民館や地域住民等との連携が図られるようになり、取組数の増加に繋がっていることを評価しています。

⑬「スポーツ環境の充実」

スポーツ施設年間利用者数については、人口減少等により、利用者数が減少し、令和6年度実績を下回る結果となりました。「親子いきいき元気プログラム」については、参加者アンケートの結果を踏まえ、プログラム内容等を工夫したことにより、参加者数の増加に繋がっています。また、益田市スポーツ協会を中心として、スポーツ交流やスポーツ体験を実施し、スポーツの楽しさや体を動かすことの爽快感を教える機会を提供することができたことなどを考慮して評価しています。

⑭ 人権・同和教育と人権啓発の推進」

各地区における人権・同和教育研修会については、高齢化等による交通手段の確保など課題がある中で参加者が減少し、令和6年度の実績を下回る結果となりました。しかし、小中学校や地域の団体等と連携し、様々な人権課題に関する活動に取り組んだ結果、目標値に近い実績となったことから、一定の成果に繋がっているものと評価しています。

C評価（一定の成果があった）・・>3事業

⑤「益田市型中高一貫教育の推進」

中高連携学力育成推進事業の参加者アンケートでは、「自ら進んで学習する意識が高まった」の肯定的回答が目標数値を下回ったものの、概ね8割近くの参加者が肯定的回答を示しています。また、理系人材の育成並びに学びに向かう児童生徒の育成を図るために「算数・数学パワーアップ教室」を年3回開催し、実施後の児童生徒アンケートにおいて、「難しい問題にもチャレンジしたい気持ちが、参加する前よりも強くなった」、「大学生や学生に対するあこがれが強くなった」の肯定的回答が、昨年度の実績を下回りましたが全体的に一定の成果があったことなどを評価しています。

⑪「豊かな歴史・文化資源の保存・継承・調査・活用」

「益田市文化財保存活用地域計画」の関連事業として、若年層を主な対象に美濃地屋敷や萬福寺の歴史的建造物における民俗芸能の上演や舞台芸術の提供に取り組みました。訪問機会の少ない歴史的建造物の周知だけでなく、舞台として活用ができることの認知も進んでおり、民間団体が活動・活用の場として歴史的建造物を利用する動きも広がりを見せてきています。こうした歴史文化を活かした地域活性化の取組が民間主導・官民連携で進んでおり、協働件数も増加しています。また、身近な遺跡からの出土品を直接見たり触れたり、実際に遺跡を見学したり、座学だけでは学ぶことのできない地域の歴史を体感する機会の提供も進んでいます。

一方で、「文化財の保存・継承・活用に関する市民の満足度」は、指標とした島根県政世論調査の「文化財が保存・継承され、また活用されていると思いますか。」との問いに対する回答の選択肢が「思う、どちらかといえば思う、思わない」から「保存・継承され、活用もされている。保存・継承はされているが、活用はされていない。保存・継承されず、活用もされていない。」に変更され、また、「保存・継承はされているが、活用はされていない」を肯定的意見として変更後もこれまで集計してきましたが、令和7年度から「活用されていない」を重視し、集計から除外することとしました。このことから、肯

定的意見が減少する結果となり、目標値を大きく下回る結果となっています。とくに文化財の保存・継承は図られているものの、活用に課題があることが示されています。

本市の歴史文化の保存・継承に関する普及啓発が進む一方で、活用をより一層推進する必要がある状況を踏まえ総合的に評価しています。

⑫「安心・安全な食の提供」

給食における地産地消の取組としては、昨年度に引き続き国の財源や農林水産課の事業を活用し、益田産の果物、野菜等を積極的に食材として使用し、気象状況や生産者の減少などから地場産物の調達に苦慮しましたが前年より増加の結果となりました。また、新たな取組として、関係者の協力により高津川産の鮎を使用した鮎飯の提供を行うなど、児童生徒が地元産物の味覚に触れる機会を提供できました。児童生徒の献立作成参加校数については、前年度を下回る結果となったことを踏まえ評価しています。

D評価（期待した成果が認められなかった）・・・>1事業

⑦「教育環境の整備・活用」

学校施設の洋便器化については、高津中学校1階は国補助の交付決定が遅れたことにより令和8年度への繰越、また東陽中学校2階は国補助不採択により取りやめとしたため、令和7年度内の改修は未実施となりました。遊具・教具の更新については、豊川小学校は校庭の土壌改良工事の追加実施、また天候不順により校庭の整備が遅れ、年度内の完了は困難となったため、令和8年度へ繰越となりました。益田小学校および戸田小学校は年度内に工事着手、納期等に時間を要したため令和8年度へ繰越となりましたが、この2校については年度内に着手したことを踏まえて評価をしています。

（4）重点項目別評価

重点項目1 次代を担う人を育てる教育環境の充実

【取組方針】・良好な学校施設環境を整えるとともに、地域の資源を活かし、地域に開かれた教育環境の中で学校教育と社会教育の往還（学校の学びを地域活動に活かす取組）を進めることで、子どもたちが地域を知り、地域を誇りに思う教育を推進します。

・一人ひとりに着目した教育施策を充実させ、目指す18歳像を明らかにしながら、一人の子どもを校内・校外の双方で伸ばす仕組み（横のつながり）、保幼小中高が連携して伸ばす仕組み（縦のつながり）を構築します。

① 評価対象事業「地域ぐるみでの教育の推進（保護者と連携したメディアコントロールの取組）」

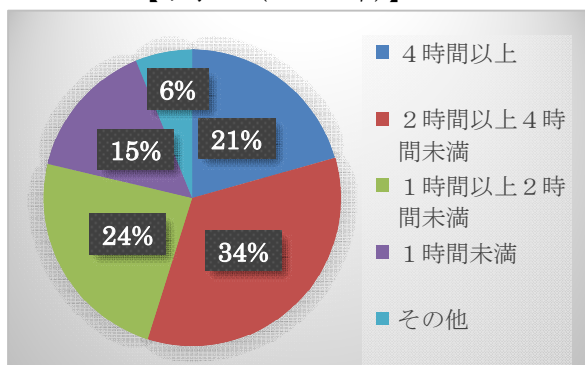
この事業は、児童生徒、保護者などが正しい情報活用能力を身に付けられるよう、メディアコントロール、情報リテラシーに関する取組を強化することを目的としています。

評価対象事業目標として3項目を挙げており、それぞれ次のような結果となっています。

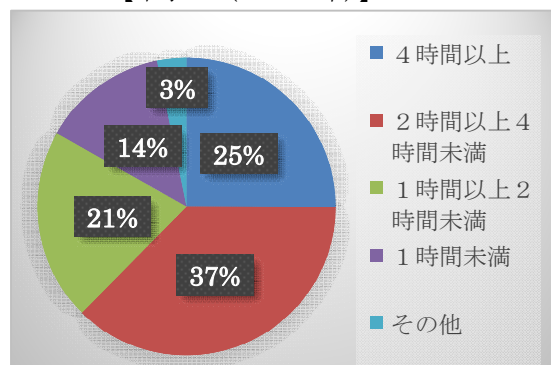
1つ目は、益田市児童生徒意識調査で、「平日、1日当たり4時間以上テレビゲームをしている」割合についてです。目標値は小学生20%以下、中学生15%以下としていますが、達成状況は小学生が21%、中学生が25%と共に目標値を下回る結果となっています。

平日1日当たりのテレビゲームをする時間別児童生徒の割合

【小学生（4～6年）】



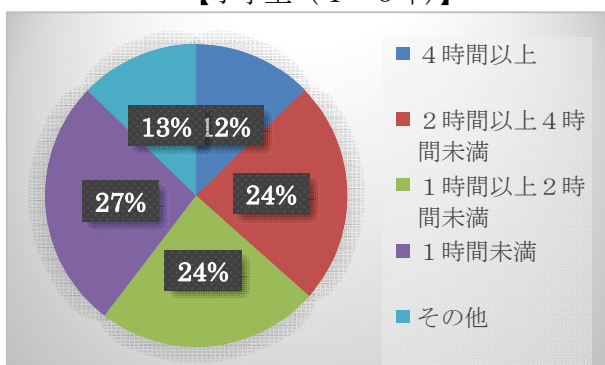
【中学生（1～3年）】



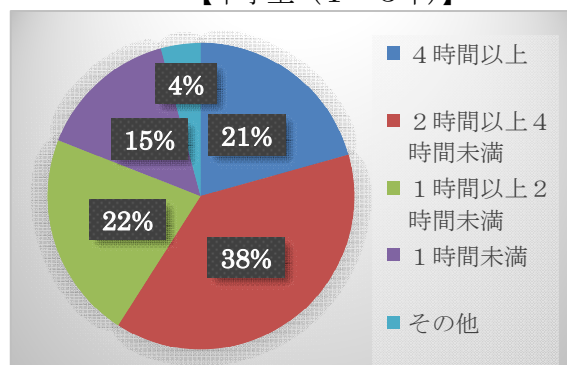
2つ目は、「平日、1日当たり4時間以上携帯電話やスマートフォンを使用する」割合についてです。目標値は小学生15%以下、中学生20%以下としていますが、達成状況は小学生が12%で目標値を上回り、中学生が21%で目標をわずかに下回っています。

平日1日当たりの携帯電話やスマートフォン使用時間別児童生徒の割合

【小学生（4～6年）】



【中学生（1～3年）】



3つ目は情報リテラシー向上推進協議会研修会のアンケート（保護者）にて、「研修内容を今後の子どもとの関わりや取組等に活かしていきたいと思う」割合についてです。目標値は肯定的回答95%以上とし、達成状況は100%で目標値を達成しています。しかし、各校で実施しているメディアコントロールの取組実施期間中は、各家庭で意識して取り組まれているものの、実施期間が終了すると意識が低下し、メディアコントロールに継続して取り組めていない実態は継続しています。子どもを支える大人の意識向上も併せて図っていくため、各校で行っている情報リテラシーや情報モラルの授業に、保護者や地域住民も一緒に参加できるように計画していきます。また、様々な機会を捉え、大人への理解啓発を図っていきます。

② 評価対象事業「確かな学力の向上を目指した教育の推進」

この事業は、「主体的・対話的で深い学び」の視点から「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視した授業の実践を全ての小中学校で行うこととしています。

評価対象事業目標として4項目を挙げており、それぞれ次のような結果となっています。

1つ目は、全国学力・学習状況調査質問紙「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができている」割合についてです。目標値は小学生80%以上、中学生85%以上としていますが、達成状況は小学生80%、中学生86%とそれぞれ目標値を上回っています。

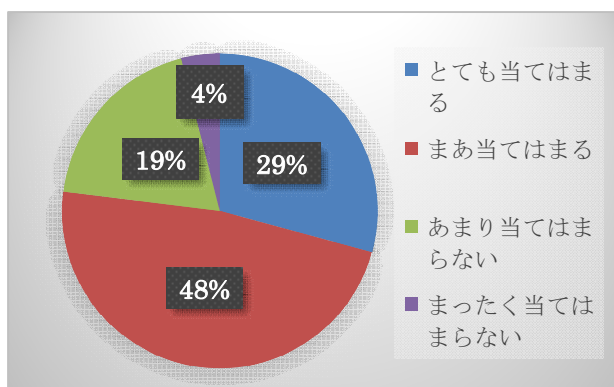
2つ目は、全国学力・学習状況調査質問紙「国語の勉強が好きだ」「算数・数学の勉強が好きだ」割合についてです。目標値は小学生55%以上 中学生65%以上としていますが、達成状況は小学校47%、中学校57%とそれぞれ目標値を下回っています。

3つ目は、「国語の授業がよくわかる」「算数・数学の授業がよくわかる」割合についてです。目標値は小学校78%以上 中学校77%以上としていますが、達成状況は小学校72.5%、中学校71%とそれぞれ目標値を下回っています。

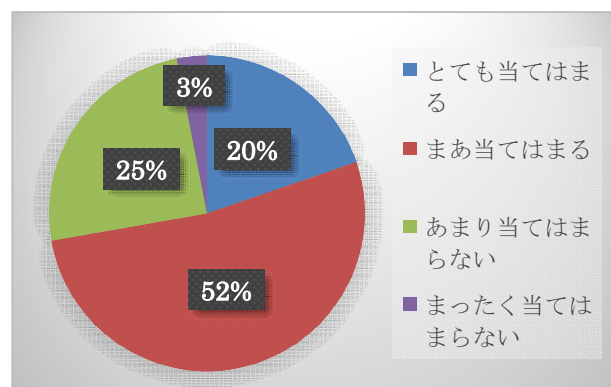
4つ目は、益田市児童生徒意識調査「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか」における割合についてです。目標値は小中学生ともに80%以上としていますが、達成状況は小学生77%、中学生72%とそれぞれ目標値を下回っています。

難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している児童生徒の割合

【小学生（4～6年）】



【中学生（1～3年）】



現在、「気付きと対話」のある授業づくりを推進し、学校訪問や授業公開・研究協議を行っています。今後も、対話による学びを通して、気付きが広がり、学びの深まりへとつながる授業づくりに取り組むことで、児童生徒が主体的で対話的で深い学びの実現をめざしていきます。

「気付きと対話」のある授業づくり

- ①指定校を選定し、授業づくりの研修会を行う（小4校、中3校）
- ②確かな学力育成PJTの設置
- ③端末活用の推進 その他校長会と連携した小中相互授業交流会

③ 評価対象事業「確かな学力の向上を目指した教育の推進と子どもの可能性を伸ばす、個別最適化の推進」

この事業は、電子黒板や一人一台端末等、ICT機器を活用した新しい学びの推進や校種間連携等の多様な取組を通して、子どもの学力向上を図ることや保幼小中高のつながりを一層深め、各年代の教育の充実を図ることを目的としています。

評価対象事業目標として3項目を挙げており、それぞれ次のような結果となっています。

1つ目は、全国学力・学習状況調査質問紙「授業におけるICT機器の1日1回以上活用している教員」割合についてです。達成状況は小学校100%、中学校88.9%となっており、前年に比べ小学校は増加しましたが、中学校は減少しています。今後も児童生徒、教員における機器の活用が進んでいくことを注視して必要があります。

2つ目は、幼小連携協議会研修会におけるアンケート「幼児・児童個々の発達の特徴に応じた環境構成とかわりができた」割合についてです。目標値は肯定的回答90%以上としており、達成状況は95%と目標値を上回っています。文部科学省が示した「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」の中では、幼小接続の状況をステップ0から4で表しています。ステップ3は「授

業、行事、研究会などの交流が充実し、接続を見通した課程や計画の編成・実施が行われている」、ステップ4は「接続を見通して編集・実施された課程や計画について、実施計画を踏まえ、更によりよいものとなるように検討が行われている」となっています。益田市においては小学校15校中14校がステップ4ないし3となっており、充実した交流活動等が取り組まれています。

3つ目は、各中学校区相互授業交流に参加した教員の振り返り「取組は有意義であった」割合についてです。目標値は肯定的評価90%以上としていますが、達成状況は86%となっています。今年度から教科・領域を問わず中学校区で授業公開を実施し、小中の教員全員で研究協議を行い、中学校区での授業改善を進めています。その中で、小中を通した目指す子ども像を共有し、授業改善を行いながら、子どもたちの学力育成を更に推進していきます。

④ 評価対象事業「子どもの可能性を伸ばす、個別最適化の推進（いじめ未然防止の組織的な取組）」

この事業は、子どもの可能性を伸ばす個別最適化に向け児童生徒への個別支援に丁寧に取り組むこと、いじめの未然防止の基盤となる児童生徒と教職員の信頼関係を確認することを目的としています。

評価対象事業目標として3項目を挙げており、それぞれ次のような結果となっています。

1つ目は、全国学力・学習状況調査質問紙「先生はあなたの良いところを認めてくれている」割合についてです。目標値は小学生、中学生ともに90%以上としていますが、調査結果は小学生91.1%、中学生92.8%と目標値を上回っています。

2つ目は、全国学力・学習状況調査質問紙「学校に行くのは楽しいと思う」割合についてです。目標値は小中学生ともに80%以上としていますが、調査結果は小学生80.1%、中学生81.9%と目標値を上回っています。

3つ目は、不登校及び不登校傾向児童生徒と関係諸機関との連携実績の割合についてです。目標値は95%以上としていますが、調査結果は85%と目標値を下回っています。全国学力・学習状況調査質問紙「先生はあなたの良いところを認めてくれている」、「学校に行くのは楽しいと思う」の割合が、小学生、中学生ともに目標値を上回っていることから、教員と児童生徒との人間関係作りと信頼関係の醸成が図られていると感じています。

今後も、生徒指導推進プランに沿った取組を推進し、かかわりあう人間関係を主体的につくりながら、自らの行動を決断し、実行できる児童生徒の育成をめざしていきます。

⑤ 評価対象事業「益田市型中高一貫教育の推進」

この事業は、確かな学力の育成等を中軸として、中学校と高等学校との合計6年間を通じた教育を行うことであり、市内のすべての子どもたちのそれぞれの段階での卒後の選択肢を充実させる取組です。この取組を通じて子どもたちの将来の可能性を拡げることが目的としています。その具体的な取組として、これまでも取り組んできた①中高連携学力育成推進事業、②理系人材育成協働事業、③市内高校連携推進事業の3つの事業を柱として推進しています。

評価対象事業目標として3項目を挙げており、それぞれ次のような結果となっています。

1つ目は、中高連携学力育成推進事業における参加者アンケート「自ら進んで学習する意識が高まった」割合についてです。目標値は85%以上としていますが、達成状況は78.6%と目標値を下回っています。

2つ目は島根大学と協働実施する「算数・数学パワーアップ教室」実施後の児童生徒アンケートにおいて、「難しい問題にもチャレンジしたい気持ちが、参加する前よりも強くなった」の割合です。目標値は95%以上としていますが、達成状況は88%と目標値を下回っています。

3つ目は、「算数・数学パワーアップ教室」実施後の児童生徒アンケートにおいて、「大学生や学生に対するあこがれが強くなった」割合です。目標値は95%以上としていますが、達成状況は83%と目標値を下回っています。

中高連携学力育成推進事業「ドリカム教室」については、引き続き事業実施状況に関して定期的な小中学校との情報共有・意見交換を通じ、事業受託高校との連携のあり方を確立していきます。

「算数・数学パワーアップ教室」については、年々参加者が増加しており、複数回参加している児童生徒の参加理由の中には「学生に会いたい」と回答するものも多く、学生との交流から「学生へのあこがれ」へとつながっていることを確認することができます。参加した学生にとっても満足度は高く、引き続き島根大学等と連携しながら、参加者の確保に努めます。

⑥ 評価対象事業「ふるさとを愛し、誇りを持つ心を育てる教育の推進」

この事業は、日本遺産などの本市の重要な歴史・文化資源について、子どもたちが関心を持ち、さらに理解を深めるために社会科見学の受入れや出前授業などの学習支援を継続し、ふるさとに誇りを持てる地域教育の実践に向け取り組むことを目的としています。

評価対象事業目標として、「益田市の歴史文化は魅力的で誇りに思う」との問いに対する回答で小中学生ともに目標値80%に対して、小学生86.2%、中学生78.6%と、小学生では目標を上回ったものの、中学生では未達成の結果となっています。歴史文化を教材として扱う社会科教員の研修会において、地域の歴史文化の素材提供による教材研究が進み、授業での実践も進んでいます。こうした継続した学習支援により、子どもたちの地域の歴史文化に対する解釈、関心や理解が深まった結果と考えます。一方で、地域の歴史文化は時代や種類も幅広く、継続した地域の歴史文化に触れ、学ぶ機会の充実に継続する必要があります。

また、市内小中学校の社会科見学の受入れや出前授業の件数における目標値30件に対して、社会科見学15件、出前授業27件の合計42件と目標を上回る成果を得ることができました。郷土の偉人を知る出前授業では、高津出身の囲碁棋士岩本薫や美都出身の医学者秦佐八郎の顕彰に努め、雪舟を知るための墨絵授業も実施しています。また、益田糸操り人形の出前公演や古墳など遺跡の見学など実物を見たり触れたりする機会の提供にも取り組んでいます。令和8年度には雪舟の郷記念館がリニューアルオープンを迎えることから、幅広く歴史文化や文化芸術に触れる機会を拡充でき、今後においても、歴史文化の普及啓発を推進するために学校と連携して、社会科見学や出前授業等の学習支援を継続して行うこととしています。

⑦ 評価対象事業「教育環境の整備・活用」

この事業は、児童・生徒が安心して学校生活を送れるよう「益田市学校施設整備計画」などにに基づき、施設の耐震化や老朽化の進む施設の計画的な整備を行うことを目的としています。

評価対象事業目標として2項目を挙げており、それぞれ次のような結果となっています。

高津中学校1階及び東陽中2階の学校トイレ洋便器化については、高津中学校に対する国補助の交付決定が遅れたことにより令和8年度へ繰越、また東陽中学校は国補助不採択による取りやめとしたため、目標達成には至りませんでした。（なお、中学校の統廃合により令和7年度末の小中学校洋便器化率は57.2%となりました。）遊具・教具の更新については、豊川小学校は校庭の土壌改良工事の追加実施、また天候不順により校庭の整備が遅れ、年度内の完了は困難となったため、令和8年度へ繰越となりました。益田小学校および戸田小学校については年度内に工事着手、器具の納期等に時間を要したため令和8年度へ繰越となりましたが、この2校については年度内に着手したことを踏まえて評価を行っています。

今後も引き続き良好な児童生徒の学校施設環境を整えるために、計画的な完成を目指して取り組んでいきます。

⑧ 評価対象事業「ライフキャリア教育の推進による生きる力の育成」

この事業は、「益田市ひとづくり協働構想」に基づき、多様な人との対話によるロールモデルとの出会いや、生き様・価値観に触れることで、自分の人生を能動的に生きていくことができる力を養うライフキャリア教育を推進し、子どもたちの生きる力の育成を図ることを目的としています。

評価対象事業目標として3項目を挙げており、それぞれ次のような結果となっています。

学校の学びを地域活動に活かす取組の実施地区数を20地区とした目標値やライフキャリア教育に関わる大人の数を1,000人とした目標値に対して、いずれも目標値を大きく上回る結果となりました。また、昨年に引き続きライフキャリア教育プログラムに多くの大人が関わったことで、様々な場面で多様な価値観に触れる機会を創出することができました。これにより「対話プラス」や「益田版・職場体験」に参加した子どもたちのアンケート結果からも意識変容が確認されています。

- ・益田には魅力的な大人が多い
（「高校対話プラス」実施前73.7% → 実施後90.4%）
- ・益田市には魅力的な事業所があると思う
（「益田版・職場体験」実施前82.8% → 実施後88.7%）
- ・全国学力・学習状況調査質問紙「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」
（目標値：小中学生70%以上 → 実績：小学生75%、中学生81%）

引き続き、各地域において、公民館活動やつろうて子育て協議会などの取組を推進するとともに、ライフキャリア教育の充実を図るため、益田市未来の担い手コンソーシアムにおいて協働的な取組の展開を図っていくこととしています。

＜益田市未来の担い手コンソーシアム＞

益田市の未来の担い手を育成するための官民連携の共同事業体で、保幼小中高特大大などの教育機関、PTA、商工会議所、青年会議所、行政などで構成し、関係者が連携して市が取組むライフキャリア教育を推進します。

＜対話プラス＞

中学・高校生と益田の大人、小学生と高校生が1対1で向き合い、対話することで、「これまでの自分、今の自分、そしてこれからどんな人でありたいか」など自分自身の生き方について考える授業

＜益田版・職場体験＞

仕事体験にとどまらず、生徒たちとそこで働く”ひと”や”生き方”との出会い、対話を大切にしたい職場体験。生徒たちが働く大人たちの考えや価値観に触れることで、どのような”ひと”になりたいかを考える機会になっています。

重点項目2 地域・世代を越えた学習機会の創出

【取組方針】各地域の多様な活動組織の連携を深め、知識や技術を持った人の能力を活かし、地域・世代を越えた学習機会と活動づくりを進めます。

⑨ 評価対象事業「地域間、団体間の連携による多様な学習機会の創出と指導者のネットワーク化」

この事業は、各地区の公民館やつろうて子育て協議会、放課後子ども教室（ボランティアハウス）、地域の任意団体や中間支援組織が、地域の特性やそれぞれの専門性を活かしながら多世代が関わる学習プログラムをつくり、多様な活動や学習機会を提供することを目的としています。

評価対象事業目標として4項目を挙げており、それぞれ次のような結果となっています。

まず、公民館などの活動の参加者数やこの参加者数のうち高校生以下の人数については、放課後子ども教室（ボランティアハウス）の実績を加えたため、令和6年度の実績を上回りましたが、目標値には及ばない結果となっています。しかしながら、公民館、つろうて子育て協議会、放課後子ども教室（ボランティアハウス）を中心とした野外体験活動や放課後の地域交流など、高齢者や小中高大学生などの

異年代、異校種の子ども同士の交流活動は展開することができています。これにより、公民館などが多世代に関わることを意識した他団体との連携数や学習プログラム実施数について、目標値を大きく上回る結果となっています。引き続き、公民館やつらうて子育て協議会が中心となり、地域団体や親子活動団体と連携した取組を進め、新たな人材・団体の育成・発掘を行っていきます。

また、公民館事業の充実を図るため、他の公民館の成功事例を情報共有しながら、地域の特性や専門性を活かした取組を実施し、地域・世代を越えた学習機会と活動づくりを推進していきます。

⑩ 評価対象事業「社会教育の推進と活動拠点づくり」

この事業は各地区の公民館が、ひとつづくりや地域づくりの拠点となるよう、活動を牽引する人が必要とするスキルの習得をサポートするとともに、公民館の運営を支える体制づくりを行うこととしています。また、ふるさと・ひとつなぎコーディネーター（旧社会教育コーディネーター）の配置を継続し、未来の担い手育成を意識した世代間交流の取組の充実を図ることなどを目的としています。

評価対象事業目標として3項目を挙げており、それぞれ次のような結果となっています。

公民館職員スキルアップ研修参加者数については、益田市公民館職員研修プログラム実施要綱に基づき計画的に研修を実施したことや公民館長連絡会等を通じ、積極的に周知を行ったことにより、目標値を大幅に上回る結果となっています。ふるさと・ひとつなぎコーディネーター（旧社会教育コーディネーター）配置数については、同コーディネーターの応募者が少ない状況が続いており、目標値を下回っています。コーディネーターが関わった世代間交流の取組数については、派遣社会教育主事との月1回のコーディネーター会の実施や同主事が現場における活動支援を行っていること、またコーディネーターの活動が普及し、公民館や地域住民等との連携も図られていることなどから、目標値及び昨年度実績を大幅に上回る結果となりました。

今後は、公民館職員の研修を推進する上で、市独自の研修の他、島根県社会教育研修センター等が実施する研修も活用しながら、経験年数に応じて必要な研修を履修できるよう計画することとしています。また、ふるさと・ひとつなぎコーディネーター（旧社会教育コーディネーター）の人材確保については、ウェブサイト等を活用して広く公募するとともに、大学生のインターン等を通じて、情報発信に努めることとし、その活動については、引き続き地域の特色を踏まえ、公民館とも連携し地域住民や学生等を巻き込んだ取組を進めて行くこととします。

重点項目3 歴史・文化の保存・継承・調査・活用や芸術活動の推進

【取組方針】地域の歴史や文化の保存と調査研究を進めるとともに、その成果や日本遺産などの本市の重要な歴史・文化資源を活用することで、将来へ継承していく機運を醸成します。

⑪ 評価対象事業「豊かな歴史・文化資源の保存・継承・調査・活用」

この事業は、地域の歴史や文化の保存と調査研究を進めるとともに、その成果や日本遺産などの本市の重要な歴史・文化資源を活用することで、将来へ継承していく機運を醸成することを目的としています。

評価対象事業目標として3項目を挙げており、それぞれ次のような結果となっています。

まず、市と民間団体等が協働して歴史文化を活かした取組を実施した件数の達成状況については、目標値20件／年に対し、25件／年の実績がありました。「益田市文化財保存活用地域計画」関連事業として、若年層を主な対象に美濃地屋敷や萬福寺の歴史的建造物における民俗芸能の上演や舞台芸術の提供に取り組み、歴史的建造物の価値を周知するだけでなく、舞台として活用ができることの認知も進み、民間団体が活動・活用の場として歴史的建造物を利用する動きも広がりを見せてきています。こう

した歴史文化を活かした地域活性化の取組が民間主導・官民連携で進んでおり、協働件数も増加しています。

次に、島根県政世論調査に基づく「文化財の保存・継承・活用に関する市民の満足度」については、目標値70%に対し43.1%と、目標値を大きく下回る結果となっています。この結果は、指標とした島根県政世論調査において、「文化財が保存・継承され、また活用されていると思いますか。」との問いに対する回答の選択肢が「思う、どちらかといえば思う、思わない」から「保存・継承され、活用もされている。保存・継承はされているが、活用はされていない。保存・継承されず、活用もされていない。」に変更され、また、「保存・継承はされているが、活用はされていない」を肯定的意見として変更後もこれまで集計してきましたが、令和7年度から「活用されていない」を重視し、集計から除外することとしました。このことから、肯定的意見が減少する結果となり、集計結果に影響が生じたためです。文化財の保存や継承については図られているとの回答が多いものの、活用の取組に関する評価が低い傾向にあります。このことから、今後の取組として、引き続き市民が歴史文化に触れる機会や学ぶ機会の提供を充実させるとともに史跡等に訪れる機会を創出し、史跡を知ってもらう賑わい事業など歴史文化に関係する団体などと連携を強化し、地域の歴史文化の活用を図ることとしています。

岩本薫記念益田杯決勝戦大盤解説会は、益田市高津町出身の囲碁棋士岩本薫を顕彰するとともに益田市の全国的な知名度の向上、囲碁文化の普及啓発と地域間交流を目的に開催された大会であり、その決勝戦が島根県立芸術文化センター「グラントワ」で行われ、大盤解説会も同小ホールで開催されました。会場参加者数を目標に掲げ、目標値200人に対し150人の参加という目標を下回る結果となりましたが、会場を訪れることができない人向けに大盤解説会の様子を同時に動画配信も行っており、その視聴者数は約300人となりました。目標の設定や運営の在り方にも課題があったものと評価しています。

引き続き地域住民が史跡や歴史文化に触れる機会を創出し、史跡のことを知ってもらう普及啓発事業や歴史文化に関係する団体などと連携して協働の取り組みを進めることにより、文化財の活用を進めます。また、リニューアルオープンする雪舟の郷記念館において、充実した日本遺産に関する情報や文化芸術に関する発信を強化していきます。

重点項目4 食と農への理解の促進

【取組方針】食への感謝の気持ちを醸成するとともに、地域の食文化への認識を高め、食の安心・安全と地産地消に関する理解促進のため、啓発活動などに取り組みます。

⑫ 評価対象事業「安心・安全な食の提供」

この事業は、市場関係者などと連携を深めながら、地元食材を活用した学校給食の提供による地産地消に取り組むことを目的としています。

評価対象事業目標として3項目を挙げており、それぞれ次のような結果となっています。

高津学校給食センター及び美都学校給食共同調理場における地産地消比率それぞれ40%と60%の維持を目標値とした達成状況については、昨年度に引き続き国の財源や農林水産課の事業を活用し、益田産の果物や野菜等を積極的に学校給食の食材として使用、気象状況の変化や地元生産者の減少といった厳しい調達環境に苦慮する場面はあったものの、地場産物の使用量は前年度より増加となりました。特に、関係者の協力により高津川産の鮎を使用した鮎飯の提供などを新たに取り組み、児童生徒が地元の豊かな産物に触れる貴重な機会となりました。物価高騰により食材費が高騰し続ける状況ではありますが、関係者との連携や食材を扱う業者との調整を継続し、地元食材の利用に努めていく必要があります。

また、栄養教諭及び学校栄養士の食育指導を通じた児童生徒の学校給食献立作成への参加校に関する目標値の達成状況については、学校からの積極的な献立作成に繋がらず目標に達しませんでした。しかし、令和7年度末で閉校となる小野中学校から参加があり、閉校の記念行事として、生徒が主体となって地域の方々を招いての給食会を開催する発展的な取組となり、生徒だけでなく地域にとっても特別な思い出づくりに繋がりました。

今後は、栄養教諭等による食の指導とともに献立作成に繋がる授業展開に取り組み、また生産者と触れ合う機会などを通じて食への関心を一層高める努力を継続して実施していくこととします。

重点項目5 生涯スポーツ社会の実現

【取組方針】各施設を活用したスポーツ活動を推進し、地域間交流の機会を創出します。

⑬ 評価対象事業「スポーツ環境の充実」

この事業は、生活に潤いをもたらすスポーツが日々の暮らしの中に取り入れられるように、多様な参加機会の拡充を図り、誰でも参加できる体制づくりを行うことやスポーツ分野における中間支援組織として、一般社団法人益田市スポーツ協会の機能強化を図ることを目的としています。

評価対象事業目標として3項目を挙げており、それぞれ次のような結果となっています。

スポーツ施設年間利用者数においては、大会数の減少等により、利用者数が減少し、令和6年度実績を下回る結果となりました。親子いきいき元気プログラムの目標値の達成状況については、参加者アンケートの結果を踏まえ、プログラム内容等を工夫したことにより、前年度実績を上回っています。一般社団法人益田市スポーツ協会の実施事業数については、昨年度を上回る結果となりました。

今後は、令和12年度開催の「島根かみあり国スポ・全スポ」に伴う施設改修と併せ、必要な施設修繕を行い、更なるスポーツ環境の充実を図ります。また、引き続き、スポーツ活動を推進し、スポーツを通じた市民の健康づくりや地域間交流を進めていきます。

重点項目6 人権の尊重の推進

【取組方針】人権や男女共同参画に対する意識を高め、個性や多様性を認め合うことで、差別や偏見をなくし、誰もが平等に社会参画できる環境をつくります。

⑭ 評価対象事業「人権・同和教育と人権啓発の推進」

この事業は、学校教育と社会教育との連携により、同和問題を始めとした様々な人権問題についての学習会、講演会などを学校や地域、職場において実施し、広く市民の人権問題に対する理解と認識の醸成を図ることを目的としています。

評価対象事業目標として2項目を挙げており、それぞれ次のような結果となっています。

まず、各地区における人権・同和教育研修会等への参加者数に対する目標値の達成状況については、小中学校や地域の団体等と連携し、様々な人権課題に関する学習会、講演会や人権啓発展示、地域行事に併せた人権啓発活動に取り組んだところですが、高齢化が進む中、参加者が減少しており、わずかながら目標値に達していない結果となっています。また、人権・同和问题研修会への参加者数の目標値の達成状況については、益田市差別のない人権尊重の社会づくり条例制定記念事業の講演会や幅広い人権課題をテーマに取り上げたことにより、目標値を上回る結果となったところです。

今後も、令和6年に制定した益田市差別のない人権尊重の社会づくり条例の周知を図るとともに、各地区人権・同和教育推進協議会事業、人権・同和问题研修会を実施し人権教育・啓発に努め、市民の様々な人権問題に対する理解と認識の醸成を図っていくこととします。

3 点検・評価に対する外部評価委員からの意見

志々田 まなみ（文部科学省国立教育政策研究所生涯学習政策研究部総括研究官）

今回で令和3年に策定された「第6次益田市総合振興計画」に基づく事務事業の点検及び評価は最後となり、令和8年度分からは新たな「益田市教育に関する大綱」・「益田市教育ビジョン」に沿って行われることになります。この間、新型コロナウイルス感染症の拡大によって生活や教育の環境が制限された影響に対する懸念が強く、こどもたちの学びや育ちについて、敏感にならざるを得ませんでした。そのため、本委員会による点検・評価の取組も、注視すべき課題についての話題を多く取り上げ、慎重に進めて参りました。今回の意見書では次期への期待も込めて、令和7年度分の点検・評価結果のうち、今後の益田市教育行政の推進のポイントになると感じた2点についてコメントをまとめさせていただきました。

一つ目は、B評価（目標には届かないが高い成果があった）となった②「確かな学力の向上を目指した教育の推進」です。全国学力・学習状況調査の教科テストの平均正答率でもって学力向上を判断しようとする自治体が多い中、「主体的・対話的で深い学び」の視点から「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視した授業づくりに着目している点は、先進的だと感じます。その具現化のための事業として、益田市オリジナルの教育事業が拡充されている点も、高く評価したいと思います。とくに、対話による学びを通して、気付きが広がり、学びの深まりへとつながる授業づくりを拡充する『気付きと対話』のある授業づくり推進事業や、中学・高校生と益田の大人、小学生と高校生が1対1で向き合い、対話することで、「これまでの自分、今の自分、そしてこれからどんな人でありたいか」など自分自身の生き方について考える授業「対話プラス」の成果に期待したいと思います。

二つ目は、総合的な判断からC評価（一定の成果があった）にとどまっているものの、⑪「豊かな歴史・文化資源の保存・継承・調査・活用」の取組は、よい形で展開しているように思います。民間団体が活動・活用場として歴史的建造物を積極的に利用するなど、歴史文化を活かした地域活性化の取組が民間主導・官民連携による取組に成功している自治体は多くはなく、貴重な実践が展開されているように感じます。しかも若年層にとって魅力的に映るよう工夫したり、囲碁文化といった益田らしい分野に焦点を合わせたり、美濃地屋敷や萬福寺といった有形文化財と民俗芸能演や舞台芸術といった無形文化財とのコラボレーションをプロデュースするなど、新たなチャレンジが次々と展開できている点に、将来性も強く感じます。保存・継承・調査といった基本的な業務に留まることなく、普及・啓発にも前向きに取り組んでいる点や、行政のパートナーとなる歴史文化に関係する民間団体の成熟にも力を入れている点についても、「ひとが育ち 輝くまち 益田」らしい文化行政の姿だと感じました。

点検・評価に関する意見

村上 護（元益田市立小学校長）

【総括】

平成26年6月に策定された益田市教育に関する大綱から、次代に向けた新しい大綱が示され、第2次益田市教育ビジョンが策定された中、今年度は節目となる点検・評価の年度でした。

益田市の特徴を生かした事業と特徴や結果を表しにくい事業もある中、全体的には概ね十分な点検・評価がなされていると思われます。

それらが示すものは、ひとのつながりを大切にした益田市の取組が、十分誇れるものであるということです。

次年度以降は、残された課題解決に向けて、益田市の魅力ある教育環境がより整備され、この節目となる点検・評価が一層活かされることを望みます。

【各論】

1、IT時代の子どもたちの環境について

先頃、国立病院機構久里浜医療センター（神奈川県横須賀市）の調査によると10～29歳の若年層でゲーム行動症と疑われる数が、10%以上にもなることが報告されました。また、SNSを通じた犯罪への勧誘、生成AIの活用等についても課題は多い状況です。このような中で情報教育リテラシーの育成は、大変重要であると思われます。

情報リテラシーの内容を理解できても、メディアコントロールの行動化は難しいものです。実態をしっかりと把握した取組が、より一層重要になってくると思われます。

2、多様性を尊重する社会に向けて

インターネット上での差別事象等、差別者が匿名化される時代において、多様性を認め、共生する社会の実現のために、児童生徒を含め、親世代がどのような意識を持っているかを把握することは、施策を決定する上で重要と思われます。

単に研修会参加者数の推移を指標とするのではなく、引き続き実態把握に向けた計画的な取組と点検・評価について検討していただければと思います。

点検・評価に対する意見

豊田 美絵（保護者代表）

○ 総 括

今年度も引き続き保護者代表として外部評価委員を務めることとなりました。昨年度同様に保護者の観点と母親の観点の両面から市教育委員会事業にかかる点検・評価に対して気づいた点を意見として述べさせていただきます。

令和7年度実施分事務事業に関しては、益田市「教育に関する大綱」に掲げた重点項目及び「令和7年度の施政方針」に掲げた重点項目を踏まえ、目標に掲げた14の評価対象事業に関し、外部評価委員会を通じて何点か感じたことを申し述べることにします。

また、令和8年度からは、あらたな計画を基に、多くの成果が見られていくことを期待しています。

○ 各 論

1 「地域ぐるみでの教育の推進（保護者と連携したメディアコントロールの取組）」

教職員における働き方改革が進められ、学校終了時間が以前より早くなっており、子どもたちが自宅で過ごす時間が必然的に伸び、それによりメディアに触れる時間も増加している状況があると感じています。また、学童を希望しても入れないなどもあると思います。現代の子どもたちにメディアを使わせないことは困難であり、一方で時代に取り残される面もあると思います。未来を担う子どもたちのためには、何が良いのか、私たち保護者、学校、地域など大人たちが考えていかなければならないと感じました。

2 「地域間、団体間の連携による多様な学習機会の創出と指導者のネットワーク化」

地域における公民館活動の実績については、地域差が大きいと感じています。市中心部と山間部、また関わる団体数などによって活動内容にも差があるのではないかと思います。今後、さらなる人口減少により地域差は大きくなるかもしれません。市中心部でも山間部でも魅力ある活動が継続できるよう関係者や公民館同士などで情報などの連携が図られ、活動が継続されることを期待します。

3 「部活動の地域展開」について

部活動の地域展開は、学校の負担を軽減するだけでなく、子どもたちが地域の中で多様なスポーツ・文化活動に触れる機会を生み出す、前向きな取組と感じています。しかし、保護者の立場としては、子どもが活動する場所への送迎や費用負担など不安な気持ちもたくさんあります。市が進めようとしている新しい部活動のあり方について、より丁寧な情報提供や説明を行っていただくと保護者として安心できると思います。これからも、子どもたちが安心して活動できる環境整備に向け、具体的な情報共有と建設的な対話を続けていただけることを願っています。

点検・評価に対する意見

中野 純（元益田市教育委員）

○ 総 括

益田市教育委員会は平成 27 年 6 月に策定した益田市教育に関する大綱に基づき 6 つの重点項目に 14 の評価対象事業を設けておられ、事務事業点検・評価シートに各事業目標を立てられています。また第 6 次益田市総合振興計画との関連性を踏まえ基本施策の基、取組方針が示され具体的な施策を実施しています。10 年間の積み重ねとなる令和 7 年度は相応の成果が得られたものと考えられます。

次年度以降、10 年振りに見直しされた新たな益田市教育に関する大綱「わたしの学びが、ひととまちの未来を拓く」の基、つながり、ひろがり、ひととまちの 3 本柱を掲げられ教育行政が示す各ビジョンが実施され、益田市の教育がまさに夢と希望をもたらす明るい未来に向かうよう期待をしています。

○ 各 論

重点項目 1 次代を担う人を育てる教育環境の充実

8 つの評価対象事業について A 評価 2 事業、B 評価 4 事業、C 評価 1 事業、D 評価 1 事業と実績の積み重ねにより目標達成、高い成果があったように感じます。特に重点項目 1 について益田市教育委員会が力を注いだ表れだと感じております。

重点項目 2 地域・世代を越えた学習機会の創出

公民館を活動拠点とし異世代、他団体との事業や活動が事業成果を拝見すると良い方向に進んでいると思います。各地区の公民館やつろうて子育て協議会が野外活動や放課後の地域交流を活発に行っていることが伺えます。しかしながら課題や改善事項などもあるので、より情報発信を工夫しながら参加しやすい、取り組みやすい機会を創出する必要があるのだと感じました。

重点項目 3 歴史・文化の保存・継承・調査・活用や芸術活動の推進

市と民間団体等が協働して歴史文化を活かした取組が前年度より大幅に増え工夫を凝らした様々な活動があったものと察します。若年層が芸術活動の推進について文学、音楽、美術、演劇、舞踊、映画、メディア芸術など広く捉え、関りが持てるように取り組んでいただけたらと思います。

重点項目 4 食と農への理解の促進

地産地消比率について高津学校給食センター、美都学校給食センターともに昨年度よりも実績が向上しています。物価高騰などにより食材費、エネルギー費に影響が出ているものの教育委員会をはじめそれぞれの学校給食センターの現場の皆様の御尽力によるものと思います。引き続き地産地消の維持をお願いするとともに残食量などを減らし食への感謝の気持ちを醸成できるように努めていただければと思います。

重点項目 5 生涯スポーツ社会の実現

3つの評価対象事業について①、②は利用、参加者の減少など目標を下回る結果となっていますが、一方で習い事やクラブ活動、日々の健康促進やレクリエーションで子供たちから大人まで暮らしの中で取り入れられていることも多いと感じています。

なかなかデータに示されていない部分もありますが、生涯を通じてスポーツに親しむ環境構築が求められると思います。

今後、学校部活動の地域展開や2030年「島根かみあり国スポ、全スポ」開催を控え、環境整備や市民の健康づくりへの関心を高められるように、健康に関する情報を分かりやすく発信していくことも求められると思います。

重点項目 6 人権の尊重の推進

人権・同和教育と人権啓発の促進を図る取組として学校や地域の団体、事業所などと連携し、研修会、学習会、講演会など計画して集客に努められたと感じています。

益田市差別のない人権尊重の社会づくり条例の周知を図り、様々な人権問題に対する理解と醸成に繋がれるように研修会、学習会、講演会など継続的に取り組んでいかれることを願います。

4 外部評価委員会を終えて

本年も7月と8月に開催しました外部評価委員会では、教育行政に係る具体施策である評価対象事業に関する自己評価について、令和7年度事業分の評価項目に対する目標、実績、達成率、評価点を令和6年度と比較できるようにまとめ、各年度との比較を進めながら評価を頂きました。また、令和8年度においては、益田市総合振興計画後期計画、益田市教育に関する大綱及び第2次益田市教育ビジョンの改定が完了したことを踏まえ、これらの計画の実現に向けて点検評価を進めることの重要性について、委員の皆様よりご意見を頂きました。

点検評価報告書の内容に関しては、学校教育の観点では、「主体的・対話的で深い学び」を重視した授業づくりについて、先進的な取組であるとのことの評価を頂きました。「『気づきと対話』のある授業づくり」や「対話プラス」など、益田市オリジナルの教育事業が着実に拡充されている点についても、高い評価を頂いたところです。一方、県学力調査における各教科の正答率については、引き続き多くの科目で県平均を下回っている状況にあり、継続的な取組が求められます。また、情報教育・メディアリテラシーの観点においては、ゲームやSNS依存、生成AIの活用など急速に変化するIT環境への対応が必要であるとのことご意見を頂きました。知識の習得にとどまらず、メディアコントロールを実際の行動として定着させるため、実態把握に基づいた取組が求められるとのことご意見を頂きました。

ライフキャリア教育においては、高校対話プラスや益田版・職場体験を通じて益田への愛着や魅力を実感できているとの評価を引き続き頂いており、各地域における公民館活動やつろうて子育て協議会などの取組を推進し、益田市未来の担い手コンソーシアムにて協働的な取組の展開を図っていくようにとのことご意見を頂きました。

文化振興においては、ふるさとを愛し誇りを持つ心を育てる教育の実践、民間主導・官民連携による歴史文化を活かした地域活性化の取組が着実に展開されているとの評価を頂きました。若年層への働きかけや囲碁文化への焦点化、有形・無形文化財のコラボレーションなど、新たなチャレンジが次々と生まれている点についても、将来性を強く感じるとのご意見を頂きました。

その他の多くの事業については、成果がきちんと現れている状況から、必要に応じて改善・拡充を検討するようにとのことご意見を受けたところです。

令和8年度からは、新たな大綱「わたしの学びが、ひととまちの未来を拓く」のもと、「つながり」「ひろがり」「ひととまち」の3本柱による教育行政を展開していきます。この節目となる点検・評価の成果を次の取組にしっかりと活かし、引き続き外部評価委員会を有効に活用しながら、本市の教育の振興に努めてまいります。

最後に、貴重なご意見・ご提言をいただきました外部評価委員の皆様にご心より感謝申し上げます。

資料編

【資料1】令和7年度益田市教育委員会事務事業別点検・評価シート

【資料2】令和8年度益田市教育委員会事務事業別点検・評価シート

【資料3】令和8年度益田市教育の概要

令和7年度
益田市教育委員会
事務事業別点検・評価シート

※評価点、自己評価の積算方法

これまで、評価対象事業目標の達成に向けた取組状況を進捗率として評価する進捗率評価点と評価対象事業目標に対する実績（達成状況）を達成率として評価する達成率評価点を算出し、その点数の合計点を自己評価としていましたが、令和5年度の点検評価より、下記に基づきシンプルに自己評価を行うこととします。

1 評価点の積算方法

評価対象事業目標毎に実績を考慮して評価点を算出します。

評価点	採点	達成状況
	4点	100%（標準点）
	3点	99.9%～80.0%
	2点	79.9%～50.0%
	1点	49.9%～1.0%
	0点	1.0%未満

※ 評価点の求め方

例) 評価対象事業目標数値が80%以上を設定し、当該年度の実績値として81%だった場合の評価点の求め方

A) 目標を達成しているので達成状況が100%であり4点を算出。

例) 評価対象事業目標数値が小学校80%以上、中学校75%以上を設定し、当該年度の実績値として小学校81%、中学校70%であった場合の評価点の求め方

A) 小学校80%+中学校75%=155・・・>（目標値総数）

小学校81%+中学校70%=151・・・>（実績値総数）

((実績値総数) / (目標値総数)) × 100 = 97.41・・・> 3点

2 自己評価の積算方法

上記により項目別に出した評価点の合計数値を分子とし、評価対象事業目標項目数×4点（標準点）を分母として、分子を分母で割って求めた値（自己評価計数）を基に下記の表に基づき自己評価の数値を積算します。

※ 自己評価の求め方

例) 目標項目数が4項目あり、3項目が3点、1項目が4点であった場合の自己評価の求め方

A) 4項目×4点=16点を分母

(3項目×3点) + (1項目×4点) = 13点を分子

よって、次の数式：13点/16点×100により「81.3（点）」※小数点第2位以下切り上げ」が自己評価計数となる。この数値を下記に照らし自己評価とします。

自己評価	自己評価計数	評価対象事業に対する自己評価
A	100点	目標どおりの成果があった
B	99.9点～80.0点	目標には届かないが高い成果があった
C	79.9点～50.0点	一定の成果があった
D	49.9点～25.0点	期待した成果が認められなかった
E	24.9点以下	見直しの必要性がある

※上記の場合、自己評価計数81.3点より、自己評価区分は「B」、自己評価は「目標には届かないが高い成果があった」となる。

基 本 施 策		1 次代を担う人を育てる教育環境の充実		
取 組 方 針		一人ひとりに着目した教育施策を充実させ、目指す18歳像を明らかにしながら、一人の子どもを校内・校外の双方で伸ばす仕組み（横のつながり）、保幼小中高が連携して伸ばす仕組み（縦のつながり）を構築します。		
具 体 施 策		地域ぐるみでの教育の推進 （保護者と連携したメディアコントロールの取組）	事業実施方法	学校指導
			事業実施方法での特記事項	
事業番号	①	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅱ1①	
施 策 内 容		児童・生徒、保護者などが正しい情報活用能力を身に付けられるよう、メディアコントロール、情報リテラシーに関する取組を強化する。		
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点
①	益田市児童生徒意識調査「平日、1日あたり4時間以上テレビゲームをしている」割合 小学生20%以下、中学生15%以下 （R6実績：小学生19.0%、中学生19.0%）	① 令和7年度実績 小学生21.0%、中学生25.0%	93.3%	3
②	益田市児童生徒意識調査「平日、1日当たり4時間以上携帯電話やスマートフォンを使用する」割合 小学生15%以下、中学生20%以下 （R6実績：小学生17.0%、中学生22.0%）	② 令和7年度実績 小学生12.0%、中学生21.0%	99.4%	3
③	市教委主催の情報モラル教育研修会の参加保護者のアンケートにて、「研修内容を今後の子どもとの関わりや取組等に活かしていきたいと思う」に関する肯定的回答95%以上（R6実績:100%）	③ 令和7年度実績 100%	100%	4
事 業 成 果		各小中学校で児童生徒、保護者へメディアコントロールの必要性について、工夫をしながら取組を行っている。それにより、①②の項目について微増はしているが、目標値に近い値で推移できている。		
改 善 事 項 又 は 課 題		児童生徒のみならず、保護者への啓発を行っていきたいと考え、情報モラル教育研修会を企画しているが、保護者の参加率が低い現状がある。		
今後の方向性		各小中学校で開催している情報リテラシー講座へ、保護者の参加を促し、理解啓発を行っていく機会を増やしていく。		
その他参考となるべき事項				

自己評価	評価対象事業自己評価
B	目標には届かないが高い成果があった

基 本 施 策		1 次代を担う人を育てる教育環境の充実			
取 組 方 針		一人ひとりに着目した教育施策を充実させ、目指す18歳像を明らかにしながら、一人の子どもを校内・校外の双方で伸ばす仕組み（横のつながり）、保幼小中高が連携して伸ばす仕組み（縦のつながり）を構築します。			
具 体 施 策		確かな学力の向上を目指した教育の推進	事業実施方法		学校指導
			事業実施方法での特記事項		
事業番号	②	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅱ1②		
施 策 内 容		「気付きと対話」のある授業づくり推進事業を進めながら、「主体的・対話的で深い学び」の視点から「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視した授業の実践を全ての小中学校で行う。			
評価対象事業目標			評価対象事業実績		評価点
①	全国学力・学習状況調査質問紙「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」の割合 小学生80%以上 中学生85%以上 (R6実績：小学生80.0%、中学生87.0%)	① 令和7年度実績 小学生80.0% 中学生86.0%	100%	4	
②	全国学力・学習状況調査質問紙「国語の勉強が好きだ」「算数・数学の勉強が好きだ」の割合 小学生55%以上 中学生65%以上 (R6実績：小学生53.0%、中学生61.0%)	② 令和7年度実績 小学生47.0% 中学生57.0%	86.7%	3	
③	全国学力・学習状況調査質問紙「国語の授業がよくわかる」「算数・数学の授業がよくわかる」の割合 小学校78%以上 中学校77%以上 (R6実績：小学校77.0% 中学校76.0%)	③ 令和7年度実績 小学校72.5% 中学校71.0%	92.6%	3	
④	益田市児童生徒徒意識調査「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦していますか」における割合 小学校80%以上 中学校80%以上 (R6実績：小学校81.0% 中学校79.0%)	④ 令和7年度実績 小学校77.0% 中学校72.0%	93.1%	3	
事 業 成 果		「気付きと対話」のある授業づくり推進事業で、年4回の研修会や学力育成に関する学校訪問などを通じて、授業づくりのポイントについて共有を図りながら、授業改善への働きかけを行った。			
改 善 事 項 又 は 課 題		全国学力・学習状況調査質問紙や、益田市児童生徒徒意識調査の結果では、目標値を達成できていない。教師が授業改善を図っていく中で、改めて子どもの実態を踏まえ、主体性を高めていく視点が必要である。			
今後の方向性		調査結果を踏まえ、授業改善の視点を明確にし、研修会や学校訪問などを通して、ていねいに説明を行いながら、市教委と学校で方向性を共有していく。			
その他参考となるべき事項					

自己評価	評価対象事業自己評価
B	目標には届かないが高い成果があった

所管課	学校教育課
-----	-------

基 本 施 策		1 次代を担う人を育てる教育環境の充実			
取 組 方 針		一人ひとりに着目した教育施策を充実させ、目指す18歳像を明らかにしながら、一人の子どもを校内・校外の双方で伸ばす仕組み（横のつながり）、保幼こ小中高が連携して伸ばす仕組み（縦のつながり）を構築します。			
具 体 施 策		確かな学力の向上を目指した教育の推進と子どもの可能性を伸ばす、個別最適化の推進	事業実施方法	学校指導	
			事業実施方法での特記事項		
事業番号	③	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅱ1②③		
施 策 内 容		電子黒板や一人一台端末等、ＩＣＴ機器を活用した学びの推進や、校種間連携等の多様な取組を通して、子どもの学力向上を図る。また、保幼こ小中高のつながりを一層深め、各年代の教育の充実を図る。			
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点	
①	授業におけるＩＣＴ機器の1日1回以上の活用している教員の割合 小学校95%以上 中学校100% (R6実績：小学校93.0%、中学校100%)	① 令和7年度実績 小学校100% 中学校88.9%	96.9%	3	
②	幼小連携協議会研修会におけるアンケート「幼児・児童個々の発達の特徴に応じた環境構成とかかわりができた」の肯定的回答 90%以上 (R6実績：88.0%)	② 令和7年度実績 95.0%	100%	4	
③	各中学校区相互授業交流に参加した教員の振り返り「取組は有意義であった」の肯定的評価90%以上	③ 令和7年度 86.0%	97.8%	3	
事 業 成 果		教職員を対象に、「気付きと対話」のある授業づくり研修会や1人1台端末操作・活用研修等を実施し、ICT機器を活用した学びの推進を図ることができた。			
改 善 事 項 又 は 課 題		授業におけるICT機器を活用した教職員の割合を評価するために、令和7年度から全国学力、学習状況調査を活用し、経年変化を評価していく。			
今後の方向性		授業におけるICT機器を活用した教職員の割合を増やしていくために、各校の実態に合った研修内容を吟味し、実施していく。			
その他参考となるべき事項					

自己評価	評価対象事業自己評価
B	目標には届かないが高い成果があった

所管課	学校教育課
-----	-------

基 本 施 策		1 次代を担う人を育てる教育環境の充実			
取 組 方 針		一人ひとりに着目した教育施策を充実させ、目指す18歳像を明らかにしながら、一人の子どもを校内・校外の双方で伸ばす仕組み（横のつながり）、保幼小中高が連携して伸ばす仕組み（縦のつながり）を構築します。			
具 体 施 策		子どもの可能性を伸ばす、個別最適化の推進 （いじめ未然防止の組織的な取組）	事業実施方法	学校指導	
			事業実施方法での特記事項		
事業番号	④	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅱ1③		
施 策 内 容		児童・生徒への個別支援に丁寧に取り組む			
評価対象事業目標		評価対象事業実績			評価点
①	全国学力・学習状況調査質問紙「先生はあなたの良いところを認めてくれている」における肯定的回答 小中学生ともに90%以上 （R6実績：小学生90.0%、中学生89.0%）	① 令和7年度実績 小学生91.1% 中学生92.8%	100%	4	
②	全国学力・学習状況調査質問紙「学校に行くのは楽しいと思う」における肯定的回答 小中学生ともに80%以上 （R6実績：小学生77.0%、中学生81.0%）	② 令和7年度実績 小学生80.1% 中学生81.9%	100%	4	
③	不登校及び不登校傾向児童生徒と関係諸機関との連携実績 95%以上 （R6実績：93.0%）	③ 令和7年度実績 85.0%	89.5%	3	
事 業 成 果		益田市主催の生徒指導研修会や校長会主催研修会等で、教職員の人間関係づくり能力向上や、いじめ基本方針の理解啓発、校内体制の充実を図ることができたことにより、児童生徒が安心して学校生活を送ることができるようになっている。			
改 善 事 項 又 は 課 題		今後も、いろいろな機会を捉えて、教職員の研修を充実させ、いじめの未然防止、早期発見、組織対応等ができるよう働きかけていく。			
今後の方向性		益田市生徒指導研修会や、各校の校内研修会の充実を図っていく。			
その他参考となるべき事項					

自己評価	評価対象事業自己評価
B	目標には届かないが高い成果があった

令和7年度益田市教育委員会事務事業別点検・評価シート				所管課	学校教育課
基 本 施 策		1 次代を担う人を育てる教育環境の充実			
取 組 方 針		一人ひとりに着目した教育施策を充実させ、目指す18歳像を明らかにしながら、一人の子どもを校内・校外の双方で伸ばす仕組み（横のつながり）、保幼こ小中高が連携して伸ばす仕組み（縦のつながり）を構築します。			
具 体 施 策		益田市型中高一貫教育の推進	事業実施方法	直接実施	
			事業実施方法での特記事項		
事業番号	⑤	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅱ1⑧		
施 策 内 容		理数教育の充実をはじめ確かな学力の育成等の中軸とする「益田市型中高一貫教育」の実現に向けた取組を推進する。			
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点	
①	中高連携学力育成推進事業における参加者アンケート「自ら進んで学習する意識が高まった」の肯定的回答 85%以上（R6実績：81.6%）	① 令和7年度実績 78.6%	92.5%	3	
②	島根大学と協働実施する「算数・数学パワーアップ教室」実施後の児童生徒アンケートにおいて、「難しい問題にもチャレンジしたい気持ちが、参加する前よりも強くなった」の肯定的回答 95%（R6実績：90.0%）	② 令和7年度実績 88.0%	92.6%	3	
③	「算数・数学パワーアップ教室」実施後の児童生徒アンケートにおいて、「大学生や学生に対するあこがれが強くなった」の肯定的回答95%以上（R6実績：93.0%）	③ 令和7年度実績 83.0%	87.4%	3	
事 業 成 果		算数・数学パワーアップ教室に参加した児童生徒にとっては、学校外での学びを充実させる機会となっている。また、大学生との交流を通して、学びに向かう意欲を向上させるきっかけにすることができた。中高連携学力育成推進事業については、目標には届かなかったものの8割近くの参加者が自ら進んで学習する意識を高めることができた。			
改 善 事 項 又 は 課 題		評価項目についての取組について、より意識できるように教室の運営や、児童生徒と大学生との関わり方について改善を図っていく。中高連携学力育成推進事業については、参加者のニーズを考慮したコースを設定する。			
今後の方向性		参加した大学生の意見をさらに取り入れながら、児童生徒や大学生にとって意味ある活動になるようにしていく。中高連携学力育成推進事業については、引き続き参加者の状況を把握しながら、事業実施に努める。			
その他参考となるべき事項					
		自己評価	評価対象事業自己評価		
		C	一定の成果があった		

令和7年度益田市教育委員会事務事業別点検・評価シート				所管課	文化振興課
基 本 施 策		1 次代を担う人を育てる教育環境の充実			
取 組 方 針		良好な学校施設環境を整えるとともに、地域の資源を活かし、地域に開かれた教育環境の中で学校教育と社会教育の往還（学校の学びを地域活動に活かす取組）を進めることで、子どもたちが地域を知り、地域を誇りに思う教育を推進します。			
具 体 施 策		ふるさとを愛し、誇りを持つ心を育てる教育の推進	事業実施方法	直接実施	
			事業実施方法での特記事項		
事業番号	⑥	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅱ1④		
施 策 内 容		日本遺産などの本市の重要な歴史・文化資源について、子どもたちが関心を持ち、さらに理解を深めるために社会科見学の受入れや出前授業などの学習支援を継続し、ふるさに誇りの持てる地域教育を実践する。			
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点	
①	「益田市の歴史文化は魅力的で誇りに思う」と回答した割合 小学生80%、中学生80% (R6実績：小学生83.7%、中学生81.4%)	① 令和7年度実績 小学生86.2%、中学生78.6%	100%	4	
②	市内小中学校の社会科見学の受入れや出前授業の件数 小中学校で30件 (R6実績：社会科見学12件、出前授業17件)	② 令和7年度実績 42件（社会科見学15件、出前授業27件）	100%	4	
事 業 成 果		出前授業やれきしーなの社会科見学の対応、歴史文化を教材として扱う社会科教員の研修会における対応で、地域の歴史を授業に取り入れる方法が検討されたり、実際に中世の益田など本市の歴史文化を題材とした授業が実践されるなどしたことにより、子どもたちの地域の歴史文化に対する関心や理解が深まってきている。			
改 善 事 項 又 は 課 題		「益田市の歴史文化は魅力的で誇りに思う」と回答した割合は、総合的には目標を達成できたものの、中学生は未達成であり、地域の歴史文化に触れ、学ぶ機会を充実させていく必要がある。アンケートなどにより出前授業や社会科見学などに対するフィードバックも必要である。			
今後の方向性		歴史文化の普及啓発を推進するために学校と連携して、社会科見学や出前講座等の学習支援を継続して行う。また、情報発信を継続し、本市の歴史文化の周知に努める。			
その他参考となるべき事項					
		自己評価	評価対象事業自己評価		
		A	目標どおりの成果があった		

基 本 施 策		1 次代を担う人を育てる教育環境の充実			
取 組 方 針		良好な学校施設環境を整えるとともに、地域の資源を活かし、地域に開かれた教育環境の中で学校教育と社会教育の往還（学校の学びを地域活動に活かす取組）を進めることで、子どもたちが地域を知り、地域を誇りに思う教育を推進します。			
具 体 施 策		教育環境の整備・活用	事業実施方法	直接実施	
			事業実施方法での特記事項		
事業番号	⑦	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅱ1⑥		
施 策 内 容		児童・生徒が安心して学校生活を送れるよう「学校施設整備計画」などに基づき、学校トイレの改修などを進め、老朽化の進む施設の計画的な整備を行う。			
評価対象事業目標			評価対象事業実績		評価点
			0%		
①	市内中学校2校の学校トイレ改修の実施による洋便器化率 57.0% (R6実績:56.4%) 対象箇所：高津中1階、東陽中2階		① 目標中学校2校に対し年度内完了0校 (高津中 R8繰越事業において実施 R8.7月末完了見込) (東陽中 交付金不採択のため取りやめ) (R7年度末小中学校洋便器化率57.2%。率増加は統廃合による学校数減による)		0
②	老朽化の進む屋外で使用する教具・遊具の計画的な更新 教具・遊具：3か所 対象校：益田小1基、豊川小3基、戸田小3基		② ・令和7年度発注教具・遊具 (益田小1基、戸田小3基：R7工事発注 R8年.5月完了済) ・令和8年度繰越へ（豊川小3基：R8.10月末完了見込）		2
			57.1%		
事 業 成 果		トイレ改修は、東陽中学校が学校施設環境改善交付金不採択のため取止め、高津中学校については1月交付決定となり適正な工期を確保するため次年度繰越を行った。教具遊具更新についても、次年度繰越となった。（理由 2箇所：納期等に時間を要したため、1箇所：校庭整備完了後発注となったため）			
改 善 事 項 又 は 課 題		学校トイレ改修は、学校施設環境改善交付金活用事業であることから採択の有無により事業執行遅れが懸念される。毎年度、各校1箇所施工のため計画完了に時間を要する。			
今後の方向性		学校トイレ改修については、整備計画に沿い継続的に実施する。			
その他参考となるべき事項					

自己評価	評価対象事業自己評価
D	期待した成果が認められなかった

基 本 施 策		1 次代を担う人を育てる教育環境の充実			
取 組 方 針		良好な学校施設環境を整えるとともに、地域の資源を活かし、地域に開かれた教育環境の中で学校教育と社会教育の往還（学校の学びを地域活動に活かす取組）を進めることで、子どもたちが地域を知り、地域を誇りに思う教育を推進します。			
具 体 施 策		ライフキャリア教育の推進による生きる力の育成	事業実施方法	その他	
			事業実施方法での特記事項	学校及び市内事業者等との連携・協働	
事業番号	⑧	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅱ1⑦		
施 策 内 容		「益田市ひとづくり協働構想」に基づき、多様な人との対話によるロールモデルとの出会いや、生き様・価値観に触れることで、自分の人生を能動的に生きていくことができる力を養うライフキャリア教育を推進し、子どもたちの生きる力の育成を図る。			
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点	
①	学校の学びを地域活動に活かす取組の実施地区数 20地区（R6実績:20地区）	令和7年度実績 20地区 ①（市内の公民館単位全地区において、ふるさと教育推進事業補助金を活用した取組を実施）	100%	4	
	② ライフキャリア教育に関わる大人の数 1,000人（R6実績:4,072人）	令和7年度実績 4,135人 ②（対話プラスキャスト286人、サードプレイス2,508人、益田版職場体験1,341人）	100%	4	
	③ 全国学力・学習状況調査質問紙「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」における肯定的回答 小中学生ともに70%以上 （R6実績：小学生73.7%、中学生79.0%）	令和7年度実績 ③ 小学生75.0% 中学生81.0%	100%	4	
事 業 成 果		公民館活動やつらうて子育て協議会などの取組で、地域を活動拠点とした体験教室や交流事業など、市内全域で学校の学びを地域活動に活かす取組が実施できた。また、ライフキャリア教育プログラムに多くの大人が関わったことで、様々な場面で多様な価値観に触れる機会を創出することができた。			
改 善 事 項 又 は 課 題		今後も関わる大人を増やしていくことが重要であり、益田市未来の担い手コンソーシアムにおいて、取組の共有と協働化を図る必要がある。			
今後の方向性		引き続き、各地域において公民館活動やつらうて子育て協議会などの取組を推進するとともに、ライフキャリア教育の充実を図るため、益田市未来の担い手コンソーシアムにおいて、協働的な取組の展開を図る。			
その他参考となるべき事項					

自己評価	評価対象事業自己評価
A	目標どおりの成果があった

基本施策		2 地域・世代を越えた学習機会の創出			
取組方針		各地域の多様な活動組織の連携を深め、知識や技術を持った人の能力を活かし、地域・世代を越えた学習機会と活動づくりを進めます。			
具体施策		地域間、団体間の連携による多様な学習機会の創出と指導者のネットワーク化	事業実施方法	その他	
			事業実施方法での特記事項	公民館及び地域団体等との連携・協働	
事業番号	⑨	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅱ2①		
施策内容		各地区の公民館や地区つろうて子育て協議会、地域の任意団体や中間支援組織が、地域の特性やそれぞれの専門性を活かしながら多世代が関わる学習プログラムをつくり、多様な活動や学習機会を提供する。			
評価対象事業目標			評価対象事業実績		評価点
①	公民館などの活動の参加者数 143,000人 (R6実績：公民館活動 128,419人)	令和7年度実績 ○公民館活動 125,578人 (益田地域 110,049人、美都地域 9,220人、 匹見地域 6,309人) ○ボランティアハウス 12,736人 合 計 138,314人	96.7%	3	
②	公民館などの活動の参加者数のうち高校生以下の数 31,000人 (R6実績：公民館活動 19,034人)	令和7年度実績 ○公民館活動 17,012人 (益田地域 14,450人、美都地域 1,927人、 匹見地域 635人) ○ボランティアハウス 9,618人 合 計 26,630人	85.9%	3	
③	公民館などが、多世代に関わることを意識した他団体との連携数 12件 (R6実績：24件)	令和7年度実績 24件 (益田地域 16件、美都地域 6件、匹見地域 2件)	100%		4
④	公民館などが、多世代に関わることを意識した学習プログラム実施数 80回 (R6実績：71回)	令和7年度実績 85回 (益田地域 68回、美都地域 15回、匹見地域 2回)	100%	4	
事業成果		公民館やつろうて子育て協議会を中心に、野外体験活動や放課後の地域交流、高齢者や小中高大学生などの異年代、異校種の交流活動を展開することができている。また、NPO法人やスポーツ団体など他団体との連携により、それぞれの専門性や強みを活かすことでプログラム内容の充実が図られ、多世代に関わることを意識したプログラム数も増加している。			
改善事項又は課題		公民館活動への参加者数が若干減少している。人口減少、少子高齢化が進んでいるが、地域を支える拠点として、魅力的な活動の創出、活動の情報発信など集客増を目指した取組が必要である。			
今後の方向性		引き続き公民館やつろうて子育て協議会が中心となり、地域団体や親子活動団体と連携した取組と情報発信を進めつつ、新たな人材・団体の育成・発掘を行う。また、公民館事業の充実を図るため、地域の特性や専門性を活かした取組で地域間・団体間での連携を図る。			
その他参考となるべき事項					

自己評価	評価対象事業自己評価
B	目標には届かないが高い成果があった

基 本 施 策		2 地域・世代を越えた学習機会の創出		
取 組 方 針		各地域の多様な活動組織の連携を深め、知識や技術を持った人の能力を活かし、地域・世代を越えた学習機会と活動づくりを進めます。		
具 体 施 策		社会教育の推進と活動拠点づくり	事業実施方法	業務委託等
			事業実施方法での特記事項	運営協議会を設置した小学校へ配置
事業番号	⑩	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅱ2③	
施 策 内 容		各地区の公民館が、「ひとづくり」や地域づくりの拠点となるよう、活動を牽引する人が必要とするスキルの習得をサポートするとともに、公民館の運営を支える体制づくりを行う。また、社会教育コーディネーターの配置を継続し、未来の担い手育成を意識した世代間交流の取組の充実を図る。		
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点
① 公民館職員スキルアップ研修参加者数 200人（R6実績：301人）	① 令和7年度実績 373人 （社会教育基礎講座11、公民館職員必修研修14、コーディネーター研修8、社会教育主事講習2、新任職員研修11、公民館職員研修等175、県公民館研究集会17、振興大会34、人権研修101）	100%		4
② 社会教育コーディネーター配置数 7名（R6実績：4名）	② 令和7年度実績 5名 （益田小、豊川小、西益田小、戸田小、桂平小）	71.4%		2
③ 社会教育コーディネーターが関わった世代間交流の取組数（平均） 68件（R6実績：77件）	③ 令和7年度実績 93件 （益田小94件、豊川小77件、西益田小75件、戸田小98件、桂平小119件）	100%		4
事 業 成 果		益田市公民館職員研修プログラム実施要項に基づき、計画的に研修に参加することができている。コーディネーターが関わった世代間交流については、各地区において地域の特色を踏まえた活動を企画し、地域住民や小中高大学生を巻き込みながら取り組むことが出来ている。		
改 善 事 項 又 は 課 題		ふるさと・ひとつなぎ（社会教育）コーディネーターについては、必要数を配置することができなかったため、配置に向けて情報発信等の取組が必要である。		
今後の方向性		職員研修については、市独自研修の他、社会教育研修センター等が実施する研修を活用し、経験年数に応じて必要な研修を履修できるよう計画する。コーディネーター確保については、ウェブサイト等を活用して広く公募するとともに、大学生の研修等の受け入れを通じて情報発信に努める。コーディネーターの活動については、引き続き地域の特色を踏まえ、地域住民や学生等を巻き込みながら取組を行う。		
その他参考となるべき事項				

自己評価	評価対象事業自己評価
B	目標には届かないが高い成果があった

基 本 施 策		3 歴史・文化の保存・継承・調査・活用や芸術活動の推進			
取 組 方 針		地域の歴史や文化の保存と調査研究を進めるとともに、その成果や日本遺産などの本市の重要な歴史・文化資源を活用することで、将来へ継承していく機運を醸成します。			
具 体 施 策		豊かな歴史・文化資源の保存・継承・調査・活用	事業実施方法		直接実施
			事業実施方法での特記事項		
事業番号	⑪	施策体系	第6次総合振興計画基本目標Ⅱ3①		
施 策 内 容		地域の歴史や文化の保存と調査研究を進め、それらの情報発信を行い、普及啓発を進める。三宅御土居跡の更なる利活用を図るために、主郭部の整備工事を行う。「益田市立雪舟の郷記念館」について、魅力向上、機能充実の為に改修工事を実施する。文化遺産活用パートナーを育成する。			
評価対象事業目標		評価対象事業実績			評価点
①	市と民間団体等が協働して歴史文化を活かした取組を実施した件数 20件/年（R6実績：19件）	①	令和7年度実績 25件/年	100%	4
②	島根県政世論調査に基づく「文化財の保存・継承・活用に関する市民の満足度」70%（R6実績：64.5%）	②	令和7年度実績 43.1% 調査における設問と回答の変更に伴い、集計数が減となる結果となった	61.6%	2
③	岩本薫記念益田杯決勝戦大盤解説会参加者数 200人	③	令和7年度実績 150人	75.0%	2
事 業 成 果		「益田市文化財保存活用地域計画」関連事業として、美濃地屋敷や萬福寺の歴史的建造物を活用しての舞台公演や伝統的食文化の普及啓発としての鮎だし雑煮づくり講座の実施など、歴史文化を活かした地域活性化の取組が、民間主導、官民連携で進んでいる。また、史跡整備の進展などにもよって、本市の歴史文化の普及も進んでいる。また、囲碁決勝戦の誘致により、益田市出身棋士の岩本薫の顕彰と囲碁文化の普及啓発が図られた。			
改 善 事 項 又 は 課 題		島根県政世論調査に基づく「文化財の保存・継承・活用に関する市民の満足度」については、目標値を大きく下回る結果となった。保存や継承は図られているものの、活用に課題がみられ、歴史文化に触れる機会や学ぶ機会の充実が必要である。			
今後の方向性		引き続き地域住民が史跡や歴史文化に触れる機会を創出し、史跡を知ってもらう普及啓発事業や歴史文化に関係する団体や協議会などと連携して協働の取組を進める。また、リニューアルオープンする雪舟の郷記念館において、機能充実した日本遺産情報や文化芸術の発信を推進する。			
その他参考となるべき事項					

自己評価	評価対象事業自己評価
C	一定の成果があった

基 本 施 策		4 食と農への理解の促進			
取 組 方 針		食への感謝の気持ちを醸成するとともに、地域の食文化への認識を高め、食の安心・安全と地産地消に関する理解促進のため、啓発活動などに取り組みます。			
具 体 施 策		安心・安全な食の提供	事業実施方法		その他
			事業実施方法での特記事項		
事業番号	⑫	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅱ4③		
施 策 内 容		市場関係者などと連携を深めながら、地元食材を活用した学校給食の提供による地産地消に取り組む。			
評価対象事業目標			評価対象事業実績		評価点
高津学校給食センター ① 地産地消比率40%維持(副食重量ベース) (R6高津実績:37.27%)			令和7年度実績 39.81% 益田市（高津・美都）計41.46%		99.5% 3
美都学校給食共同調理場 ② 地産地消比率60%維持(副食重量ベース) (R6美都実績:71.54%)			令和7年度実績 77.79% 益田市（高津・美都）計41.46%		100% 4
栄養教諭及び学校栄養士の食育指導を通じた児童生徒の学校給食献立作成への参加校10校 (R6実績:6校)			令和7年度実績 5校		50.0% 2
事 業 成 果		食育の取組としては、昨年度に引き続き国の財源や農林水産課の事業を活用し、益田産の果物、野菜等を積極的に食材として使用した。気象状況や生産者の減少などから地場産物の調達に苦慮したが前年より増の結果であった。また、関係者の協力により高津川産の鮎を使用した鮎飯の提供を行うなど新たな取組を行い、児童生徒が地元産物に触れる機会となった。児童生徒の献立作成については、7年度末で閉校となる中学校からの提案もあり記念行事となった。			
改 善 事 項 又 は 課 題		物価高騰により米、野菜、調味料を含む全ての食材費の高騰が続いている。関係機関との連携により地元食材の利用調整などを継続していく必要があるが、生産者の減少などにより給食における地元産食材確保が困難であるなど課題がある。			
今後の方向性		学校給食での地元食材利用については引き続き関係者や食材を扱う業者と連携し取り組む。また栄養教諭による食の指導や食の楽しみを感じるなど献立作成に繋がる授業展開、生産者と触れ合う機会を通し人と人とのつながるなど効果的に取り組む。			
その他参考となるべき事項					

自己評価	評価対象事業自己評価
C	一定の成果があった

基 本 施 策		5 生涯スポーツ社会の実現			
取 組 方 針		各施設を活用したスポーツ活動を推進し、地域間交流の機会を創出します。			
具 体 施 策		スポーツ環境の充実	事業実施方法	その他	
			事業実施方法での特記事項		
事業番号	⑬	施策体系	第6次総合振興計画Ⅱ5①		
施 策 内 容		生活に潤いをもたらすスポーツが日々の暮らしの中に取り入れられるように、多様な参加機会の拡充を図り、誰でも参加できる体制づくりを行う。また、スポーツ分野における中間支援組織として、一般社団法人益田市スポーツ協会の機能強化を図る。			
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点	
① スポーツ施設年間利用者数 220,000人（R6実績:201,974人）		① 令和7年度実績 200,233人 ・ 益田運動公園 149,658人 ・ ひだまりパーク 47,478人 ・ 匹見中央公園 3,097人	91.0%	3	
② 親子いきいき元気プログラムの参加人数 250人（R6実績：178人）		② 令和7年度実績 213人 （うち、子ども123人、大人90人） 7月から2月まで計7回開催	85.2%	3	
③ 一般社団法人益田市スポーツ協会の実施事業数 12件（R6実績：11件）		③ 令和7年度実績 12件 ・ 指導者講習会 ・ 高槻市都市交流事業 ・ サイクルスポーツ振興事業	100%	4	
事 業 成 果		「親子いきいき元気プログラム」について、アンケート結果を踏まえ、プログラム内容を見直したところ、利用者数が昨年度実績を上回る結果となった。スポーツ施設の利用者数については、人口減少等の影響により、目標値及び昨年度実績を下回った。			
改 善 事 項 又 は 課 題		学校部活動の地域展開や2030年「島根かみあり国スポ・全スポ」により、スポーツ施設の利用が高まることが予想されるため、計画的な施設修繕・改修を行い、スポーツ環境の充実を図っていく必要がある。			
今後の方向性		各施設を活用したスポーツ活動を推進し、地域間交流の機会を創出する。2030年「島根かみあり国スポ・全スポ」の開催に向けた体制の構築と環境整備に取り組み、競技スポーツの振興、スポーツを通じた市民の健康づくりを推進する。			
その他参考となるべき事項					

自己評価	評価対象事業自己評価
B	目標には届かないが高い成果があった

基 本 施 策		6 人権の尊重の推進			
取 組 方 針		人権や男女共同参画に対する意識を高め、個性や多様性を認め合うことで、差別や偏見をなくし、誰もが平等に社会参画できる環境をつくります。			
具 体 施 策		人権・同和教育と人権啓発の推進	事業実施方法	直接実施	
			事業実施方法での特記事項		
事業番号	⑭	施策体系	第6次益田市総合振興計画Ⅰ5①		
施 策 内 容		学校教育と社会教育との連携により、同和問題を始めたとした様々な人権問題についての学習会、講演会などを学校や地域、職場において実施し、広く市民の人権問題に対する理解と認識の醸成を図る。			
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点	
① 各地区における人権・同和教育研修会等への参加者数 3,200人（R6実績:3,210人）		① 令和7年度実績 3,127人 ・人権・同和教育合同研修会「いじめについて」「自分らしく生きるために」 ・人権・同和教育合同講演会「ネット人権侵害と部落差別の現実」 ・異文化教室 ほか	97.7%	3	
② 人権・同和问题研修会への参加者数 1,600人（R6実績:1,643人）		② 令和7年度実績 1,614人 ・人権・同和教育研究集会「私の想い〜出会いから学び得たもの〜」 ・夢ひきよせる！人権・同和教育2025「性的マイノリティってなに？〜楽しく学ぼう、LGBT、ジェンダー〜」 ほか	100%	4	
事 業 成 果		各地区では、小中学校や地域の団体等と連携し、様々な人権課題に関する学習会、講演会や人権啓発展示、集客が見込まれる地域行事に併せた人権啓発活動の取組を行っていただいた。また、人権・同和问题研修会については、益田市差別のない人権尊重の社会づくり条例制定記念事業の講演会や幅広い人権課題をテーマに取り上げることにより、多くの方に参加していただくことができた。			
改 善 事 項 又 は 課 題		地区からは、高齢化率が高い中、参加者が減少しており、集客が多い行事と併せたり自治会に出向くなど、無理のない計画を立て、実施にあたっては交通手段の確保が必須との課題が上がっている。また、人権・同和问题研修会については、複雑化・多様化している人権課題を幅広くテーマに取り上げ、繰り返し継続して人権教育・啓発に取り組む必要がある。			
今後の方向性		益田市差別のない人権尊重の社会づくり条例の周知を図るとともに、各地区人権・同和教育推進協議会事業、人権・同和问题研修会を実施し人権教育・啓発に努め、市民の様々な人権課題に対する理解と認識の醸成を図っていく。			
その他参考となるべき事項					

自己評価	評価対象事業自己評価
B	目標には届かないが高い成果があった

令和8年度
益田市教育委員会
事務事業別点検・評価シート

【教育ビジョン体系図】

シート作成対象項目

キーワード		大切にしたいこと	事業番号 (通し)	実現したいこと	取り組んでいくこと	所管課
【つながり】	ひととひとのつながりのなかで、どう生きるかを学ぶ	・学校、家庭、地域が連携し、ひととひとのつながりを育む学びの場をつくる ・互いの個性や多様性を尊重し、違いを認め、協力し合える地域をつくる	1	(1)地域とともにある学校づくりと学校を核とした地域づくりの推進	①つながりを大切にしたコミュニティ・スクールの推進	学校教育課、ひとづくり推進課
			2	(2)人生を能動的に生きていくライフキャリア教育の持続可能な発展	①ライフキャリア教育を推進し、子どもたちの生きる力を育成	ひとづくり推進課
					②ライフキャリア教育の体系的な推進	ひとづくり推進課
			3	(3)豊かな心を育む教育と安心して学べる環境づくりの推進	①かかわりあう集団づくり	学校教育課
					②不登校への対策	学校教育課
					③いじめ問題への対策	学校教育課
【ひろがり】	視野や可能性をひろげ、「なんだろう」「やってみよう」の気持ちを育てる	・主体的に考え、行動した結果を次の行動に活かせる力を育てる ・好奇心や探求心を育み、創意工夫と挑戦を後押しする環境をつくる	6	(1)主体的に行動することで得る確かな学力の向上を目指した教育の推進	④道徳教育の充実	学校教育課
					①学校教育と社会教育の連携による人権・同和教育と人権啓発の推進	ひとづくり推進課
					①学校部活動の地域展開の推進	学校教育課
					②「気付きと対話」のある授業づくりによる授業改善の推進	学校教育課
			7	(2)自らの可能性をひろげる益田市型中高一貫教育の推進	③学校図書館活用の推進	学校教育課
					④情報リテラシー育成と情報モラル教育の推進	学校教育課
			8	(3)「なんだろう」「やってみよう」の気持ちを育てる社会教育の推進と活動拠点づくり	①卒業後の選択肢の充実と将来の可能性を広げる取組	学校教育課
					②市内高等学校と中学校との連携強化を推進	ひとづくり推進課
			9	(4)ふるさとに誇りを持つ心を育てる教育の推進	①子どもと大人の主体的な学びの機会の創出	ひとづくり推進課
					②公民館の機能を活かした社会教育の推進	ひとづくり推進課
			10	(5)可能性を伸ばす個別最適化の推進	①歴史文化に親しむ機会の提供	文化振興課
					②地域資源を活かし、大人との対話を通じたふるさと教育の推進	ひとづくり推進課
					①就学支援の充実	学校教育課
			11	(6)読書に親しむことができる環境の整備	②小中学校の特別支援教育の充実	学校教育課
					③外国にルーツのある児童生徒への支援	学校教育課
			12	(7)創意工夫や挑戦を後押しする教育環境の整備・活用	①読書環境の充実	ひとづくり推進課
					②市立図書館と学校図書館の連携強化	ひとづくり推進課
					①学校の施設整備や環境改善の推進	教育総務課
			13	(8)地域間、団体間の連携と創意工夫による多様な学習機会の創出と指導者のネットワーク化	②奨学金制度の拡充	教育総務課
					③学校における働き方改革の推進	学校教育課
			14	(9)創意工夫を行う基となる知識・技術を持った人の能力を活かした学習プログラムづくり	①専門性を活かした学習プログラムの創出と指導者ネットワークの構築	ひとづくり推進課
					①社会教育士等の専門人材の育成	ひとづくり推進課
【ひととまち】	つながりとひろがりで、わたしたちのまち MASUDAの未来を拓く	・グローバル、ローカル両面の視野を育てる ・持続可能なまちづくりの担い手を育てる	15	(1)誰もがスポーツを楽しめる環境づくり	①スポーツ環境の充実	ひとづくり推進課
					②競技スポーツの推進	国スポ・全スポ推進課
			16	(2)MASUDAの未来に向け豊かな歴史・文化資源の保存・継承・調査・活用	①歴史文化の価値と魅力の顕在化の推進	文化振興課
					②情報発信による文化財愛護の推進	文化振興課
					③文化財保護に取り組む人々の活動支援	文化振興課
					④益田氏関連遺跡の整備推進による史跡の活用	文化振興課
			17	(3)安全安心な食の提供による持続可能なまちづくりの担い手の育成	①地元食材を活用した学校給食の提供	教育総務課
					②食育の推進	教育総務課
			18	(4)ふるさとの伝統文化を守り、継承する活動の支援	①伝統文化の継承	文化振興課
			19	(5)グローバルな人材育成を目指した島根県芸術文化センター「グラントワ」を核とした芸術・文化の振興	①文化施設の周遊促進	文化振興課
					②芸術、文化に親しむ機会の創出と参加機会の拡充	文化振興課

令和8年度
益田市教育委員会事務事業別点検・評価シート

事業 番号	1	所管課	学校教育課 ひとづくり推進課
----------	---	-----	-------------------

益田市教育に関する大綱	キーワード	【つながり】 ひととひとのつながりのなかで、どう生きるかを学ぶ		
	大切にしたいこと	・学校、家庭、地域が連携し、ひととひとのつながりを育む学びの場をつくる ・互いの個性や多様性を尊重し、違いを認め、協力し合える地域をつくる		
教育ビジョン	実現したいこと	(1)地域とともにある学校づくりと学校を核とした地域づくりの推進		
	取り組んでいくこと	①つながりを大切にしたコミュニティ・スクールの推進	事業実施方法	その他
	施策内容	学校と地域住民等が力を合わせて学校運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校づくり」を推進し、地域と一体となって、特色ある学校づくりを推進する。	事業実施方法での特記事項	学校及び市内事業者等との連携・協働
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点
① 学校運営協議会を設置した小学校数 8校／15校（R7実績：7校）		①		
② 「ふるさと・ひとつなぎコーディネーター」配置数 7名（R7実績：5名）		②		
事業成果				
改善事項 又は課題				
今後の方向性				
その他参考となるべき事項				

自己評価	

<第6次 益田市総合振興計画後期基本計画における施策体系>

総合振興計画	基本目標	Ⅱ ふるさとを想う心にあふれた人が育つまち【教育・歴史・文化】
基本施策	2 地域で子どもの成長を支える環境づくりの推進	
取組方針	コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を推進し、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校づくり」を目指します。	
具体施策	①コミュニティ・スクールの推進	

令和8年度
益田市教育委員会事務事業別点検・評価シート

事業 番号	2	所管課	ひとづくり推進課
----------	---	-----	----------

益田市教育に関する大綱	キーワード	【つながり】 ひととひとのつながりのなかで、どう生きるかを学ぶ		
	大切にしたいこと	・学校、家庭、地域が連携し、ひととひとのつながりを育む学びの場をつくる ・互いの個性や多様性を尊重し、違いを認め、協力し合える地域をつくる		
教育ビジョン	実現したいこと	(2)人生を能動的に生きていくライフキャリア教育の持続可能な発展		
	取り組んでいくこと	①ライフキャリア教育を推進し、子どもたちの生きる力を育成 ②ライフキャリア教育の体系的な推進	事業実施方法	その他
	施策内容	「益田市ひとづくり協働構想」に基づき、多様な人との対話によるロールモデルとの出会いなど、ライフキャリア教育を推進し、子どもの生きる力の育成を図る。益田市未来の育成コンソーシアムにおける体系的な取組を推進する。	事業実施方法 での特記事項	学校及び市内事業者等との連携・協働
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点
① 対話プラスへの参加者数 1,500人 (R7実績：1,446人)		①		
② 中学校・高校の対話プラスに参加生徒のうち 「将来に対して明るい希望を持っている」と 答えた割合 80％ (R7実績：83.3％)		②		
③ 益田版職場体験に参加した企業数 145事業所 (R7実績：149事業所)		③		
事業成果				
改善事項 又は課題				
今後の方向性				
その他参考と なるべき事項				

自己評価	

<第6次 益田市総合振興計画後期基本計画における施策体系>

総合振興計画	基本目標	Ⅱ ふるさとを想う心にあふれた人が育つまち【教育・歴史・文化】
基本施策	2 地域で子どもの成長を支える環境づくりの推進	
取組方針	コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を推進し、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校づくり」を目指します。 また、多様な主体が連携することにより、ライフキャリア教育を推進し、子ども達の生きる力を育みます。	
具体施策	②ライフキャリア教育（自分の人生を能動的に生きる力を育む）の持続可能な発展	

事業 番号	3	所管課	学校教育課
----------	---	-----	-------

益田市教育に 関する大綱	キーワード	【つながり】 ひととひとのつながりのなかで、どう生きるかを学ぶ			
	大切に したいこと	・学校、家庭、地域が連携し、ひととひとのつながりを育む学びの場をつくる ・互いの個性や多様性を尊重し、違いを認め、協力し合える地域をつくる			
教育ビジョン	実現 したいこと	(3)豊かな心を育む教育と安心して学べる環境づくりの推進			
	取り組んで いくこと	①かかわりあう集団づくり ②不登校への対策 ③いじめ問題への対策 ④道徳教育の充実	事業実施 方法	学校指導	
	施策内容	①生徒指導提要进行を踏まえ、学校訪問、研修会等を通して、生徒指導の充実を図る。	事業実施方法 での特記事項		
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点	
①	益田市児童生徒意識調査で「学校は好き ですか」における肯定的回答 児童生徒の割合85.0％ (R7実績：81.0％)	①			
②	全国学力・学習状況調査質問紙「先生はあなた の良いたところを認めてくれている」における 肯定的回答 児童生徒それぞれの割合90.0%以上 (R7実績：小学生80.1% 中学生81.9%)	②			
③	全国学力・学習状況調査質問紙「困りごとや 不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつ でも相談できますか」における児童生徒そ れぞれの割合 小中学生ともに80.0%以上 (R7実績：小学生67.9%中学生71.3%)	③			
事業成果					
改善事項 又は課題					
今後の方向性					
その他参考と なるべき事項					

自己評価	

<第6次 益田市総合振興計画後期基本計画における施策体系>

総合振興計画	基本目標 Ⅱ ふるさとを想う心にあふれた人が育つまち【教育・歴史・文化】
基本施策	1 次代を担う人を育てる教育環境の充実
取組方針	良好な学校施設環境を整えるとともに、地域の資源を活かし、地域に開かれた教育環境の中で学校教育と社会教育の往還（学校の学びを地域活動に活かす取組）を進めることで、子どもたちが地域を知り、地域を誇りに思う教育を推進します。
具体施策	④豊かな心をはぐくむ教育と安心して学べる環境づくりの推進

事業 番号	4	所管課	ひとづくり推進課
----------	---	-----	----------

益田市教育に 関する大綱	キーワード	【つながり】 ひととひとのつながりのなかで、どう生きるかを学ぶ		
	大切に したいこと	・学校、家庭、地域が連携し、ひととひとのつながりを育む学びの場をつくる ・互いの個性や多様性を尊重し、違いを認め、協力し合える地域をつくる		
教育ビジョン	実現 したいこと	(4)多様性を認め尊重する人権・同和教育と人権啓発の推進		
	取り組んで いくこと	①学校教育と社会教育の連携による人権・同和教育と人権啓 発の推進	事業実施 方法	直接実施
	施策内容	学校教育と社会教育との連携により、同和問題を始めた様々な 人権問題についての学習会、講演会などを学校や地域、職場におい て実施し、人権教育、人権啓発に取り組み、人権問題に対する理解 と意識の醸成を図る。	事業実施方法 での特記事項	
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点
① 人権・同和问题研修会への参加者数 1,700人（R7実績:1,614人）		①		
② 各地区における人権・同和教育研修会等 への参加者数 3,200人（R7実績:3,127人）		②		
事業成果				
改善事項 又は課題				
今後の方向性				
その他参考と なるべき事項				

自己評価	

<第6次 益田市総合振興計画後期基本計画における施策体系>

総合振興計画	基本目標 Ⅰ 子育てにやさしく、誰もが健やかに暮らせるまち
基本施策	5 人権の尊重と男女共同参画の推進
取組方針	人権や男女共同参画に対する意識を高め、個性や多様性を認め合うことで、差別や偏見をなくし、誰もが平等に社会参画できる環境をつくります。
具体施策	① 人権・同和教育と人権啓発の推進

事業 番号	5	所管課	学校教育課
----------	---	-----	-------

益田市教育に関する大綱	キーワード	【つながり】 ひととひとのつながりのなかで、どう生きるかを学ぶ		
	大切にしたいこと	・ 学校、家庭、地域が連携し、ひととひとのつながりを育む学びの場をつくる ・ 互いの個性や多様性を尊重し、違いを認め、協力し合える地域をつくる		
教育ビジョン	実現したいこと	(5)ひととひとのつながりを育む学校部活動の地域展開の推進		
	取り組んでいくこと	①学校部活動の地域展開の推進	事業実施方法	直接実施
	施策内容	将来にわたって子どもたちが継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保・充実するため、「益田市学校部活動の地域移行に係る基本方針」に基づき推進します。	事業実施方法での特記事項	
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点
① 文部科学省の新たなガイドライン（令和7年12月策定）を踏まえた地域展開に関する制度の確立（要綱制定等）		①		
事業成果				
改善事項又は課題				
今後の方向性				
その他参考となるべき事項				

自己評価	

<第6次 益田市総合振興計画後期基本計画における施策体系>

総合振興計画	基本目標 II ふるさとを想う心にあふれた人が育つまち【教育・歴史・文化】
基本施策	2 地域で子どもの成長を支える環境づくりの推進
取組方針	将来にわたって子どもたちが継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保・充実するため、「益田市学校部活動の地域移行に係る基本方針」に基づき、取組を進めていきます。
具体施策	③学校部活動の地域展開

事業 番号	6	所管課	学校教育課
----------	---	-----	-------

益田市教育に関する大綱	キーワード	【ひろがり】 視野や可能性をひろげ、「なんだろう」「やってみよう」の気持ちを育てる		
	大切にしたいこと	・主体的に考え、行動した結果を次の行動に活かせる力を育てる ・好奇心や探求心を育み、創意工夫と挑戦を後押しする環境をつくる		
教育ビジョン	実現したいこと	(1)主体的に行動することで得る確かな学力の向上を目指した教育の推進		
	取り組んでいくこと	①幼小接続と小中連携の深化 ②「気付きと対話」のある授業づくりによる授業改善の推進 ③学校図書館活用の推進 ④情報リテラシー育成と情報モラル教育の推進	事業実施方法	学校指導
	施策内容	①幼小接続、小中連携を通して目指す子ども像を共有し、子どもたちの学力の育成を推進する。 ②「気付きと対話」のある授業づくりによる授業改善を推進する。 ③各教科等の授業で学校図書館を活用を図る。 ④各小中学校で、情報リテラシー育成、情報モラル教育の充実を図る。	事業実施方法での特記事項	
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点
①	幼小中でめざす15歳像を共有している中学校区の割合 70%	①		
②	全国学力・学習状況調査質問紙「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」の割合 小学生85%以上 中学生90%以上 (R7実績：小学生80.0%、中学生86.0%)	②		
③	益田市学校図書館に関する調査で、年間図書館活用のクラス平均時間 小学校50時間 中学校40時間 (R7実績：小学校46.7時間 中学校37.3時間)	③		
④	「益田市情報リテラシー育成教室」実施後のアンケートで、児童生徒が「内容を理解できた」と肯定的に回答した割合 (R7実績はなし) 小学生 70%以上 中学生80%以上	④		
事業成果				
改善事項又は課題				
今後の方向性				
その他参考となるべき事項				

自己評価	

<第6次 益田市総合振興計画後期基本計画における施策体系>

総合振興計画	基本目標 II ふるさとを想う心にあふれた人が育つまち【教育・歴史・文化】
基本施策	1 次代を担う人を育てる教育環境の充実
取組方針	一人ひとりに着目した教育施策を充実させ、目指す18歳像を明らかにしながら、一人の子どもを校内・校外の双方での伸ばす仕組み（横のつながり）、保幼小中高特が連携して伸ばす仕組み（縦のつながり）を構築します。
具体施策	①確かな学力の向上目指した教育の推進 ②子どもの可能性を伸ばす、個別最適化の推進

事業 番号	7	所管課	学校教育課 ひとづくり推進課
----------	---	-----	-------------------

益田市教育に 関する大綱	キーワード	【ひろがり】 視野や可能性をひろげ、「なんだろう」「やってみよう」の気持ちを育てる		
	大切に したいこと	・主体的に考え、行動した結果を次の行動に活かせる力を育てる ・好奇心や探求心を育み、創意工夫と挑戦を後押しする環境をつくる		
教育ビジョン	実現 したいこと	(2) 自らの可能性をひろげる益田市型中高一貫教育の推進		
	取り組んで いくこと	①卒業後の選択肢の充実と将来の可能性を広げる取組 ②市内高等学校と中学校との連携強化を推進	事業実施 方法	業務委託等
	施策内容	「益田市未来の担い手コンソーシアム」などの仕組みを活用し、主に市内高等学校が取り組む高校魅力化や中学生との交流活動に対する取組を支援する。	事業実施方法 での特記事項	
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点
① 市内高校魅力化推進事業における交流活動 参加中学生の「当該高校の魅力が高まった」と回答した割合 75%以上		①		
② 中高連携学力育成推進事業における参加者アンケート「自ら進んで学習する意識が高まった」の肯定的回答 81.6%以上 (R7実績：78.6%)		②		
③ 島根大学等と協働実施する「算数・数学パワーアップ教室」実施後の児童生徒アンケートにおいて、「難しい問題にもチャレンジしたい気持ちが、参加する前よりも強くなった」の肯定的回答 90.0% (R7実績:88.0%)		③		
事業成果				
改善事項 又は課題				
今後の方向性				
その他参考となるべき事項				

自己評価	

<第6次 益田市総合振興計画後期基本計画における施策体系>

総合振興計画	基本目標	Ⅱ ふるさとを想う心にあふれた人が育つまち【教育・歴史・文化】
基本施策	1 次代を担う人を育てる教育環境の充実	
取組方針	良好な学校施設環境を整えるとともに、地域の資源を活かし、地域に開かれた教育環境の中で学校教育と社会教育の往還（学校の学びを地域活動に活かす取組）を進めることで、子どもたちが地域を知り、地域を誇りに思う教育を推進します。また、一人ひとりに着目した教育施策を充実させ、目指す18歳像を明らかにしながら、一人の子どもを校内・校外の双方で伸ばす仕組み（横のつながり）、保幼こ小中高特が連携して伸ばす仕組み（縦のつながり）を構築します。	
具体施策	⑥益田市型中高一貫教育の推進	

事業 番号	8	所管課	ひとづくり推進課
----------	---	-----	----------

益田市教育に 関する大綱	キーワード	【ひろがり】 視野や可能性をひろげ、「なんだろう」「やってみよう」の気持ちを育てる		
	大切に したいこと	・主体的に考え、行動した結果を次の行動に活かせる力を育てる ・好奇心や探求心を育み、創意工夫と挑戦を後押しする環境をつくる		
教育ビジョン	実現 したいこと	(3) 「なんだろう」「やってみよう」の気持ちを育てる社会教育の推進と活動拠点づくり		
	取り組んで いくこと	①子どもと大人の主体的な学びの機会の創出 ②公民館の機能を活かした社会教育の推進	事業実施 方法	直接実施
	施策内容	子どもも大人も「やってみたい」の気持ちを尊重し、誰もが安心して緩やかに参加できる機会を創出する。公民館が「つどう」「まなぶ」「むずぶ」「いかす」という機能を最大限に発揮して「ひとづくり」や地域づくりの拠点となるよう、活動を牽引する人が必要とするスキル習得のサポートや地域住民のチャレンジを支援する場づくりを行う。	事業実施方法 での特記事項	
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点
① 公民館活動の参加者数 130,000人 (R7実績：125,578人)		①		
② 公民館活動の参加者数（うち高校生以下の数）20,000人 (R7実績：17,012人)		②		
③ 公民館活動の事業数 3,600件 (R7実績：3,228件)		③		
④ 公民館事業に対する公民館運営委員からの評価 70点				
事業成果				
改善事項 又は課題				
今後の方向性				
その他参考となるべき事項				

自己評価	

<第6次 益田市総合振興計画後期基本計画における施策体系>

総合振興計画	基本目標	Ⅱ ふるさとを想う心にあふれた人が育つまち【教育・歴史・文化】
基本施策	3 世代を越えた学習機会の創出	
取組方針	各地域の多様な活動組織の連携を深め、知識や技術を持った人の能力を活かし、世代を超えた学習機会と活動づくりを進めます。	
具体施策	③社会教育の推進と活動拠点づくり	

事業 番号	9	所管課	文化振興課 ひとつくり推進課
----------	---	-----	-------------------

益田市教育に 関する大綱	キーワード	【ひろがり】 視野や可能性をひろげ、「なんでだろう」「やってみよう」の気持ちを育てる		
	大切に したいこと	・主体的に考え、行動した結果を次の行動に活かせる力を育てる ・好奇心や探求心を育み、創意工夫と挑戦を後押しする環境をつくる		
教育ビジョン	実現 したいこと	(4) ふるさとに誇りを持つ心を育てる教育の推進		
	取り組んで いくこと	①歴史文化に親しむ機会の提供 ②地域資源を活かし、大人との対話を通じたふるさと教育の推進	事業実施 方法	その他
	施策内容	各地区の多様な歴史文化を、子どもたちや市民が関心を持ち、さらに理解を深めるために、出前授業や現地見学などの学習支援を継続し、歴史文化に親しむ機会の提供と価値や魅力の発信を推進する。 地域の大人との対話を通して多様な価値観に触れることで、ふるさとへの愛着を深めるとともに、地域活動の実践を通して、ふるさに貢献したいと思える環境づくりを推進する。	事業実施方法 での特記事項	公民館、学校及び地域団体等との連携・協働
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点
①	「益田市の歴史文化は魅力的で誇りに思う」と回答した小学生・中学生の割合 小学生85％、中学生80％ (R7実績：小学生86.2％、中学生78.6％)	①		
②	市内小中学校の社会科見学の受け入れや出前授業の件数 小中学校で45件 (R7実績：社会科見学15件、出前授業27件)	②		
③	公民館等地域への出前講座や各種見学の受け入れ件数 25件 (R7実績：29件)	③		
④	将来、益田市に住みたいと思う高校生の割合 40％ (R7実績：36.8％)	④		
⑤	つろうて子育て協議会事業参加児童等延べ人数・大人延べ人数 〔児童等〕2,200人〔大人〕1,700人 (R7実績：〔児童等〕2,254人〔大人〕1,735人)	⑤		
事業成果				
改善事項 又は課題				
今後の方向性				
その他参考となるべき事項				

自己評価	

<第6次 益田市総合振興計画後期基本計画における施策体系>

総合振興計画	基本目標	Ⅱ ふるさとを想う心にあふれた人が育つまち【教育・歴史・文化】
基本施策	1 次代を担う人を育てる教育環境の充実	
取組方針	良好な学校施設環境を整えるとともに、地域の資源を活かし、地域に開かれた教育環境の中で学校教育と社会教育の往還（学校の学びを地域活動に活かす取組）を進めることで、子どもたちが地域を知り、地域を誇りに思う教育を推進します。また、一人ひとりに着目した教育施策を充実させ、目指す18歳像を明らかにしながら、一人の子どもを校内・校外の双方で伸ばす仕組み（横のつながり）、保幼こ小中高特が連携して伸ばす仕組み（縦のつながり）を構築します。	
具体施策	③ふるさとを愛し、誇りを持つ心を育てる教育の推進	

事業 番号	10	所管課	学校教育課
----------	----	-----	-------

益田市教育に 関する大綱	キーワード	【ひろがり】 視野や可能性をひろげ、「なんでだろう」「やってみよう」の気持ちを育てる		
	大切に したいこと	・主体的に考え、行動した結果を次の行動に活かせる力を育てる ・好奇心や探求心を育み、創意工夫と挑戦を後押しする環境をつくる		
教育ビジョン	実現 したいこと	(5) 可能性を伸ばす個別最適化の推進		
	取り組んで いくこと	①就学支援の充実 ②小中学校の特別支援教育の充実 ③外国にルーツのある児童生徒への支援 ④不登校への対策 <事業番号3(3)②再掲> ⑤いじめ問題への対策 <事業番号3(3)③再掲> ⑥情報リテラシー育成と情報モラル教育の推進<事業番号6(1)④再掲>	事業実施 方法	直接実施
	施策内容	①特別な支援が必要な児童生徒に対する就学支援や特別支援教育の充実を図る。 ②生徒指導提要进行、学校訪問、研修会等を通して、生徒指導の充実を図る。 <事業番号3(3)施策内容①再掲> ③各小中学校で、情報リテラシー育成、情報モラル教育の充実を図る。<事業番号6(1)施策内容②再掲>	事業実施方法 での特記事項	
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点
①	年中児保護者への「学校見学会」及び年長児保護者への「就学相談会」の実施	①		
②	特別支援教育を充実するための研修会の開催回数 2回／年	②		
③	日本語指導を必要とする児童生徒に対する指導のあり方を検討する協議会の開催回数 2回／年	③		
④	全国学力・学習状況調査質問紙「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたか」における肯定的回答割合 小学生77％、中学生85％ (R7実績：小学生75.0％ 中学生83.1％)	④		
⑤	<事業番号3(3)施策内容①再掲 評価対象事業目標①> 益田市児童生徒意識調査で「学校は好きですか」における肯定的回答 児童生徒の割合85.0％ (R7実績：81.0％)	⑤		
事業成果				
改善事項 又は課題				
今後の方向性				
その他参考となるべき事項				

自己評価	

<第6次 益田市総合振興計画後期基本計画における施策体系>

総合振興計画	基本目標	Ⅱ ふるさとを想う心にあふれた人が育つまち【教育・歴史・文化】
基本施策	1 次代を担う人を育てる教育環境の充実	
取組方針	良好な学校施設環境を整えるとともに、地域の資源を活かし、地域に開かれた教育環境の中で学校教育と社会教育の往還を進めることで、子どもたちが地域を知り、地域を誇りに思う教育を推進します。一人ひとりに着目した教育施策を充実させ、目指す18歳像を明らかにしながら、一人の子どもを校内・校外の双方で伸ばす仕組み、保幼子小中高特が連携して伸ばす仕組みを構築します。	
具体施策	②子どもの可能性を伸ばす、個別最適化の推進	

益田市教育に関する大綱	キーワード	【ひろがり】 視野や可能性をひろげ、「なんだろう」「やってみよう」の気持ちを育てる		
	大切にしたいこと	・主体的に考え、行動した結果を次の行動に活かせる力を育てる ・好奇心や探求心を育み、創意工夫と挑戦を後押しする環境をつくる		
教育ビジョン	実現したいこと	(6)読書に親しむことができる環境の整備		
	取り組んでいくこと	①読書環境の充実 ②市立図書館と学校図書館の連携強化	事業実施方法	業務委託等
	施策内容	読み聞かせや地域ボランティア団体と連携した活動等、特色ある図書館サービスを提供する。子どもの読書活動推進に関わる団体等に向け各種講座、研修会の開催や情報提供に取り組む。	事業実施方法での特記事項	
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点
① 市立図書館年間利用者数 125,000人 (R7実績：112,765人)		①		
② 市立図書館で開催される講座等の開催数 90回 (R7実績：89回)		②		
③ 図書館だよりの発行 12回 (R7実績：12回)		③		
④ 小中学校の図書配送サービス実施数 300回 (R7実績：287回)				
事業成果				
改善事項又は課題				
今後の方向性				
その他参考となるべき事項				

自己評価	

＜第6次 益田市総合振興計画後期基本計画における施策体系＞

総合振興計画	基本目標 Ⅱ ふるさとを想う心にあふれた人が育つまち【教育・歴史・文化】
基本施策	3 世代を越えた学習機会の創出
取組方針	各地域の多様な活動組織の連携を深め、知識や技術を持った人の能力を活かし、世代を越えた学習機会と活動づくりを進めます。
具体施策	④気軽に読書に親しめる環境の整備

益田市教育に 関する大綱	キーワード	【ひろがり】 視野や可能性をひろげ、「なんだろう」「やってみよう」の気持ちを育てる		
	大切に したいこと	・主体的に考え、行動した結果を次の行動に活かせる力を育てる ・好奇心や探求心を育み、創意工夫と挑戦を後押しする環境をつくる		
教育ビジョン	実現 したいこと	(7)創意工夫や挑戦を後押しする教育環境の整備・活用		
	取り組んで いくこと	①学校の施設整備や環境改善の推進 ②奨学金制度の拡充 ③学校における働き方改革の推進	事業実施 方法	直接実施
	施策内容	学校トイレ改修、特別教室へエアコン追加設置を計画的に進め良好な教育環境を推進します。奨学金について利用者が活用しやすい制度となるよう調整していきます。学校における「働き方改革」を一層推進します。	事業実施方法 での特記事項	
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点
①	小中学校特別教室エアコン設置率61.4% (R7実績：59.3%) R8対象校：益小1基、吉小1基、東陽中1基、益中2基	①		
②	小中学校トイレ改修による洋便器化率 58.7% (R7実績：57.2%) R8対象校：体育館（豊川小戸田小）、高津中1階	②		
③	奨学金貸付審議会開催回数 2回 (R7年度開催 1回)	③		
④	教職員ストレスチェック分析項目「働きがい」「仕事や生活の満足度」の肯定的回答割合 前年度比+5ポイント (R7実績：「働きがい」は、小学校58.9%・中学校57.8%、「仕事や生活の満足度」は、小学校56.9%・中学校55.4%)	④		
事業成果				
改善事項 又は課題				
今後の方向性				
その他参考と なるべき事項				

自己評価	

＜第6次 益田市総合振興計画後期基本計画における施策体系＞

総合振興計画	基本目標 Ⅱ ふるさとを想う心にあふれた人が育つまち【教育・歴史・文化】
基本施策	1 次代を担う人を育てる教育環境の充実
取組方針	良好な学校施設環境を整えるとともに、地域の資源を活かし、地域に開かれた教育環境の中で学校教育と社会教育の往還（学校の学びを地域活動に活かす取組）を進めることで、子どもたちが地域を知り、地域を誇りに思う教育を推進します。
具体施策	⑤教育環境の整備、活用

事業 番号	13	所管課	ひとづくり推進課
----------	----	-----	----------

益田市教育に 関する大綱	キーワード	【ひろがり】 視野や可能性をひろげ、「なんだろう」「やってみよう」の気持ちを育てる		
	大切に したいこと	・主体的に考え、行動した結果を次の行動に活かせる力を育てる ・好奇心や探求心を育み、創意工夫と挑戦を後押しする環境をつくる		
教育ビジョン	実現 したいこと	(8)地域間、団体間の連携と創意工夫による多様な学習機会の創出と指導者の ネットワーク化		
	取り組んで いくこと	①専門性を活かした学習プログラムの創出と指導者ネット ワークの構築	事業実施 方法	その他
	施策内容	公民館や地域の団体が専門性を生かし、多世代に関わるプロ グラムを作成し、学び続け、つながり続ける機会を創出す る。	事業実施方法 での特記事項	公民館及び地域団体 等との連携・協働
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点
① 公民館などが、多世代に関わることを意 識した他団体との連携数 24回 (R7実績：24回)		①		
② 公民館などが、多世代に関わることを意 識した学習プログラム実施数 72回 (R7実績：71回)		②		
③ 公民館等が「講座指導者リスト」を活用 し、新たな講座等を開催した件数 10件				
事業成果				
改善事項 又は課題				
今後の方向性				
その他参考と なるべき事項				

自己評価	

＜第6次 益田市総合振興計画後期基本計画における施策体系＞

総合振興計画	基本目標	Ⅱ ふるさとを想う心にあふれた人が育つまち【教育・歴史・文化】
基本施策	3 世代を越えた学習機会の創出	
取組方針	各地域の多様な活動組織の連携を深め、知識や技術を持った人の能力を活かし、世代を超えた学習機会と活動 づくりを進めます。	
具体施策	①地域間、団体間の連携による多様な学習機会の創出と指導者のネットワーク化	

事業 番号	14	所管課	ひとづくり推進課
----------	----	-----	----------

益田市教育に 関する大綱	キーワード	【ひろがり】 視野や可能性をひろげ、「なんだろう」「やってみよう」の気持ちを育てる		
	大切に したいこと	・主体的に考え、行動した結果を次の行動に活かせる力を育てる ・好奇心や探求心を育み、創意工夫と挑戦を後押しする環境をつくる		
教育ビジョン	実現 したいこと	(9)創意工夫を行う基となる知識・技術を持った人の能力を活かした 学習プログラムづくり		
	取り組んで いくこと	①社会教育士等の専門人材の育成	事業実施 方法	直接実施
	施策内容	地域で学習活動を進める団体等を育成するとともに、地域の 知識や技術を持った人材を発掘し、人材の蓄積を図る。社会 教育士等の資格取得を奨励し、多様な学習プログラムの作成 に活かす。	事業実施方法 での特記事項	
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点
① 社会教育主事講習受講者 3人 (R7実績：3人)		①		
② 公民館職員スキルアップ研修参加者数 300人 (R7実績：373人)		②		
③ 「ひとが育ち 輝くまち 益田フォーラム (仮)」のアンケートで「益田市のひとづ くりの取組が分かりましたか」における肯 定的回答 100% (R7実績：95.9%)				
事業成果				
改善事項 又は課題				
今後の方向性				
その他参考と なるべき事項				

自己評価	

＜第6次 益田市総合振興計画後期基本計画における施策体系＞

総合振興計画	基本目標	Ⅱ ふるさとを想う心にあふれた人が育つまち【教育・歴史・文化】
基本施策	3 世代を越えた学習機会の創出	
取組方針	各地域の多様な活動組織の連携を深め、知識や技術を持った人の能力を活かし、世代を超えた学習機会と活動 づくりを進めます。	
具体施策	②知識・技術を持った人の能力を活かした学習プログラムづくり③社会教育の推進と活動拠点づくり	

事業 番号	15	所管課	ひとづくり推進課 国スポ・全スポ推進課
----------	----	-----	------------------------

益田市教育に関する大綱	キーワード	【ひととまち】 つながりとひろがりで、わたしたちのまち MASUDAの未来を拓く			
	大切にしたいこと	・グローバル、ローカル両面の視野を育てる ・持続可能なまちづくりの担い手を育てる			
教育ビジョン	実現したいこと	(1)誰もがスポーツを楽しめる環境づくり			
	取り組んでいくこと	①スポーツ環境の充実 ②競技スポーツの推進	事業実施方法	業務委託等	
	施策内容	スポーツイベントの開催等、多様な主体におけるスポーツの機会創出を図る。また、競技スポーツ選手の競技力向上につながるよう地域一体となった持続可能な競技力の向上を目指します。	事業実施方法での特記事項		
評価対象事業目標		評価対象事業実績			評価点
①	スポーツ施設年間利用者数 223,000人 （益田運動公園、ひだまりパーク、匹見中央公園）（R7実績 200,233人）	①			
②	親子いきいき元気プログラムの参加人数 250人（R7実績 213人）	②			
③	サイクルスポーツ大会の開催数 1回／年 以上（R7実績：0回）	③			
④	益田市公式アカウント掲載実績数 10回／年 以上	④			
事業成果					
改善事項又は課題					
今後の方向性					
その他参考となるべき事項					

自己評価	

<第6次 益田市総合振興計画後期基本計画における施策体系>

総合振興計画	基本目標	Ⅱ ふるさとを想う心にあふれた人が育つまち【教育・歴史・文化】
基本施策	6 生涯スポーツ社会の実現	
取組方針	各施設を活用したスポーツ活動を推進し、地域間交流の機会を創出します。また、令和12年（2030年）に開催予定の「島根かみあり国スポ・全スポ」の開催に向けた体制の構築と環境整備に取り組みます。さらに健康づくりや余暇時間の活用などの視点でのスポーツ活動を推進します。	
具体施策	①スポーツ環境の充実②スポーツイベントなどを通じた地域間交流の推進③「島根かみあり国スポ・全スポ」の推進④市民の体力・競技力の向上⑤スポーツの指導者、スポーツボランティアの育成	

事業 番号	16	所管課	文化振興課
----------	----	-----	-------

益田市教育に 関する大綱	キーワード	【ひととまち】 つながりとひろがりで、わたしたちのまち MASUDAの未来を拓く			
	大切に したいこと	・グローバル、ローカル両面の視野を育てる ・持続可能なまちづくりの担い手を育てる			
教育ビジョン	実現 したいこと	(2)MASUDAの未来に向け豊かな歴史・文化資源の保存・継承・調査・活用			
	取り組んで いくこと	①歴史文化の価値と魅力の顕在化の推進 ②情報発信による文化財愛護の推進 ③文化財保護に取り組む人々の活動支援 ④益田氏関連遺跡の整備推進による史跡の活用	事業実施 方法	その他	
	施策内容	日本遺産をはじめとした特色ある中世の文化財や原始から近世までの多種多様な歴史文化の調査研究の継続、魅力の顕在化や情報発信に努め、地域の歴史文化への知識と理解を深めて愛着と誇りの醸成に取り組む。	事業実施方法 での特記事項	文化財管理団体及び地域団体等、地域住民との連携・協働	
評価対象事業目標		評価対象事業実績			評価点
①	市と民間団体等が協働して歴史文化を活かした取り組みを実施した件数 27件/年 (R7実績:25件/年)	①			
②	文化財が保存・継承され、活用もされていると思う市民の割合 46.0% (R7実績:43.1%)	②			
③	指定文化財の保存管理に取り組む団体等への支援件数 86件（市所有または管理を除く）	③			
④	史跡益田氏城館跡整備基本計画改定版の策定				
事業成果					
改善事項 又は課題					
今後の方向性					
その他参考と なるべき事項					

自己評価	

<第6次 益田市総合振興計画後期基本計画における施策体系>

総合振興計画	基本目標	Ⅱ ふるさとを想う心にあふれた人が育つまち【教育・歴史・文化】
基本施策	4 歴史・文化の保存・継承・調査・活用や芸術活動の推進	
取組方針	地域の歴史や文化の保存と調査研究を進めるとともに、日本遺産をはじめとした本市の重要な歴史・文化資源を活用することで、将来へ継承していく機運を醸成します。	
具体施策	①豊かな歴史・文化資源の保存・継承・調査・活用	

事業 番号	17	所管課	教育総務課
----------	----	-----	-------

益田市教育に関する大綱	キーワード	【ひととまち】 つながりとひろがり、わたしたちのまち MASUDAの未来を拓く		
	大切にしたいこと	・グローバル、ローカル両面の視野を育てる ・持続可能なまちづくりの担い手を育てる		
教育ビジョン	実現したいこと	(3)安全安心な食の提供による持続可能なまちづくりの担い手の育成		
	取り組んでいくこと	①地元食材を活用した学校給食の提供 ②食育の推進	事業実施方法	その他
	施策内容	生産者などと情報交換（生産物、収穫時期等）の機会を持つなどし、地元食材を活用した献立作成を行う。学校における食の指導などにより食育の推進を図る。	事業実施方法での特記事項	市場関係者等学校との調整
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点
① 高津学校給食センター 地産地消比率40%維持(副食重量ベース) (R7高津実績:39.81%)		①		
② 美都学校給食共同調理場 地産地消比率60%維持(副食重量ベース) (R7美都実績:77.79%)		②		
③ 栄養教諭等による食の指導、地元生産者による食材の提供過程を直接児童生徒に伝える機会など食育推進活動の実施回数 200回/年 (R7年度 309回)		③		
事業成果				
改善事項又は課題				
今後の方向性				
その他参考となるべき事項				

自己評価	

＜第6次 益田市総合振興計画後期基本計画における施策体系＞

総合振興計画	基本目標 Ⅱ ふるさとを想う心にあふれた人が育つまち【教育・歴史・文化】
基本施策	5 食と農への理解の促進
取組方針	安心・安全な地元食材を学校給食に取り入れることで、食への感謝の気持ちと生産者への親近感を醸成するとともに、地域の食文化への認識と食への愛着を深めるための啓発活動に取り組みます。
具体施策	① 食への感謝の気持ちや意識・知識の向上 ③安心・安全な食の提供

事業 番号	18	所管課	文化振興課
----------	----	-----	-------

益田市教育に関する大綱	キーワード	【ひととまち】 つながりとひろがり、わたしたちのまち MASUDAの未来を拓く		
	大切にしたいこと	・グローバル、ローカル両面の視野を育てる ・持続可能なまちづくりの担い手を育てる		
教育ビジョン	実現したいこと	(4)ふるさとの伝統文化を守り、継承する活動の支援		
	取り組んでいくこと	①伝統文化の継承	事業実施方法	補助金等
	施策内容	次世代への継承のために保護活動に取り組んでいる人や団体を支援する。また、継承の担い手の確保や支援を推進する。	事業実施方法での特記事項	文化財管理団体及び地域団体等との連携・協働
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点
① 指定無形民俗文化財の継承と伝承者養成に取り組む団体への支援件数 13件		①		
② 公演機会の少ない匹見地域の指定無形民俗文化財の公演機会の提供数 2回 (R7実績:1回)		②		
事業成果				
改善事項又は課題				
今後の方向性				
その他参考となるべき事項				

自己評価	

＜第6次 益田市総合振興計画後期基本計画における施策体系＞

総合振興計画	基本目標 Ⅱ ふるさとを想う心にあふれた人が育つまち【教育・歴史・文化】
基本施策	4 歴史・文化の保存・継承・調査・活用や芸術活動の推進
取組方針	地域の歴史や文化の保存と調査研究を進めるとともに、日本遺産をはじめとした本市の重要な歴史・文化資源を活用することで、将来へ継承していく機運を醸成します。
具体施策	②伝統文化を守り、継承する活動の支援

事業 番号	19	所管課	文化振興課
----------	----	-----	-------

益田市教育に関する大綱	キーワード	【ひととまち】 つながりとひろがりで、わたしたちのまち MASUDAの未来を拓く		
	大切にしたいこと	・グローバル、ローカル両面の視野を育てる ・持続可能なまちづくりの担い手を育てる		
教育ビジョン	実現したいこと	(5) グローカルな人材育成を目指した島根県芸術文化センター「グラントワ」を核とした芸術・文化の振興		
	取り組んでいくこと	①文化施設の周遊促進 ②芸術、文化に親しむ機会の創出と参加機会の拡充	事業実施方法	その他
	施策内容	グラントワのほか市内文化施設が連携して施設来館者の周遊を促進する。また、芸術・文化作品の鑑賞など、多様な芸術・文化に触れ、体験できる機会を提供する。	事業実施方法での特記事項	文化施設及び学校、公民館等との連携・協働
評価対象事業目標		評価対象事業実績		評価点
年間パスポート雪舟さん、益田散策チケット ① 雪舟小僧さん販売数 80枚、90枚 (R7実績：66枚、77枚)		①		
市の文化施設による芸術・文化活動の取組数 ② 13件 (R7実績：10件)		②		
事業成果				
改善事項又は課題				
今後の方向性				
その他参考となるべき事項				

自己評価	

<第6次 益田市総合振興計画後期基本計画における施策体系>

総合振興計画	基本目標	Ⅱ ふるさとを想う心にあふれた人が育つまち【教育・歴史・文化】
基本施策	4 歴史・文化の保存・継承・調査・活用や芸術活動の推進	
取組方針	グラントワを核とした芸術・文化交流の機会を創出します。	
具体施策	③島根県芸術文化センター「グラントワ」を核とした芸術・文化の振興	

令和8年度

益田市の教育の概要

益田市教育委員会

目 次

I 益田市「教育に関する大綱」	1
II 令和8年度 施政方針における教育行政の取組について	2

資料編Ⅰ（基本データ）

1 益田市教育委員会各種委員会	5
(1) 益田市教育委員会の状況	
(2) 総合教育会議の状況	
(3) 教育に関し、市長又は教育委員会が設置する審議会等	
2 令和8年度 益田市小中学校一覧	9
3 小中学校位置図	10
4 学校別学年別学級数・児童生徒数	10
5 令和8年度当初 益田市一般会計予算額（教育費）	11
6 益田市教育委員会事務局組織体制	13

資料編Ⅱ（施策・取組状況のデータ）

1 益田市奨学金事業の概要	15
2 益田市の児童生徒数・学校規模等について	16
(1) 児童生徒数の推移	
(2) 学校数の推移	
(3) 特別支援学級及び在籍児童生徒の推移	
(4) 学校施設の整備の状況	
3 一般会計（当初予算）に占める教育費の現状（他市との比較）について	18
4 令和7年度学力調査結果について	19
(1) 教科に関する調査の結果から	
(2) 生活・学習意識調査及び質問紙調査の結果から	
5 教育設備等について	20
(1) 学校における ICT 環境の整備	
(2) 益田市の教員の ICT 活用状況	
(3) 学校図書館の図書整備状況	
6 就学援助について	21
(1) 準要保護児童生徒の認定状況の推移	
(2) 特別支援教育就学奨励児童生徒の認定状況の推移	
(3) 特別支援教育支援員等の配置状況	

7	益田市立図書館について	23
	(1) 令和7年度 益田市立図書館蔵書等利用状況	
	(2) 令和7年度 資料等整備状況	
8	放課後子ども教室について	24
9	公民館活動実施状況について	25
10	スポーツ活動の推進について	26
	(1) 「する」スポーツの充実	
	(2) 「みる」スポーツの充実	
	(3) 「ささえる」スポーツの充実	
	(4) 「地域社会」との連携	
11	文化芸術の振興について	28
	(1) 協議会、実行委員会	
	(2) 令和7年度 文化施設の入館者数	
	(3) 令和7年度 偉人顕彰、後継者育成	
12	ライフキャリア教育の取組状況について	29
	(1) 「夢の教室」の開催	
	(2) 「対話プラス」の開催	
	(3) 「益田版・職場体験」の実施	
	(4) 「ロールモデル接続事業」の実施	
13	歴史・文化財等の調査研究、普及啓発について	30
	(1) 指定文化財一覧表	
	(2) 調査研究の推進	
	(3) 普及啓発の推進	
14	人権・同和教育の研修実績について	33
	(1) 教職員向け研修	
	(2) 人権・同和教育推進協議会委員、事務局員向け研修	

I 益田市「教育に関する大綱」

平成 27 年 6 月に策定された益田市教育に関する大綱は、10 年という歳月が経過し、この間の社会情勢や教育環境が大きく変革したことから、これからの本市の教育のあるべき姿を掲げる必要がありました。

そこで、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 1 条の 3 に基づき、地域の実情に応じ教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱として市の特色や他の市町村にない部分を盛り込むとともに、現在の時代性を反映した大綱として、令和 7 年 12 月に見直しが行われました。

新たな大綱では、「わたしの学びが、ひととまちの未来を拓く」をテーマに掲げ、「つながり」「ひろがり」「ひととまち」の 3 つのキーワードを軸に教育施策を進めていくこととしています。

益田市教育に関する大綱

目指す将来像をふまえた益田市の教育の姿

テーマ わたしの学びが、ひととまちの未来を拓く

「対話」が つなぎ 「対話」で ひろげる
ひととまちの多様性と可能性



- 学校、家庭、地域が連携し、ひととひとのつながりを育む学びの場をつくる
- 互いの個性や多様性を尊重し、違いを認め、協力し合える地域をつくる



- 主体的に考え、行動した結果を、次の行動に活かせる力を育てる
- 好奇心や探求心を育み、創意工夫と挑戦を後押しする環境をつくる



- グローバル、ローカル両面の視野を育てる
- 持続可能なまちづくりの担い手を育てる

本大綱の計画期間は 10 年とします。ただし、5 年経過時に一部見直しを行うこととします。

Ⅱ 令和 8 年度 施政方針における教育行政の取組について

1. 令和 8 年度の重点方針

「益田市型中高一貫教育の推進」です。「益田市教育に関する大綱」に掲げる「わたしの学びがひととまちの未来を拓く」というテーマに沿い、県内高等教育機関や市内高等学校などと連携し、学力育成と学校卒業後の選択肢の充実を図ることにより、魅力的な教育環境の創出を目指します。

2. 令和 8 年度の主要施策

ふるさとを想う心にあふれた人が育つまちについてです。

教育に関しては、「益田市教育に関する大綱」における 3 つのキーワード「つながり」、「ひろがり」、「ひととまち」に関連付けて策定した「第 2 次益田市教育ビジョン」に掲げる施策を推進してまいります。

未来の担い手育成については、「益田市の未来を担うひとづくり計画」に基づき、こどもの発達段階に応じた地域やひととの関わりを提供し、こどもたちが自分の人生を能動的に生きていくことができる力を育むために、引き続きライフキャリア教育を展開します。

益田市型中高一貫教育については、「市内高校魅力化推進事業」において市内高等学校と中学校との交流活動を創出し、「中高連携学力育成推進事業」において英語・数学講座に基本コースと応用コースを設けるなど充実を図るとともに、引き続き、算数数学パワーアップ教室に取り組みます。

幼児教育期の最年長である 5 歳児から小学校 1 年生にかけての学びの連続性を担保するため、市内の先進的な取組を共有するとともに、全小学校区での架け橋カリキュラムの作成を目指します。

地域と一体となった特色ある学校づくりのため、学校運営協議会の設置を推進するとともに、設置された学校には学校と地域をつなぐ「ふるさと・ひとつながりコーディネーター」を配置します。

「つどう」、「まなぶ」、「むすぶ」、「いかす」という公民館機能を発揮させ、各地区における「ひとづくり」や地域づくりの拠点としての活用を推進してまいります。

教育環境の充実については、小・中学校の特別教室へのエアコンの追加設置に取り組みます。

いじめ防止対策については、各小・中学校の「学校いじめ防止基本方針」に基づく、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組みます。

「益田市学校部活動の地域移行に係る基本方針」に基づき、令和 9 年度を目途とする「休日の部活動の完全移行」に向け、保護者や関係団体と情報共有及び連携を図り、受け皿づくりや指導者の確保など必要な準備を進めてまいります。

学校給食については、小学校においては、国及び県による新たな交付金に加え、一般財源を措置し、全額公費負担による「無償化」を実施し、中学校においては、給食費改定に伴う増額分の一部を本市が負担する激変緩和を引き続き実施することで、更なる子育て世帯への支援に取り組みます。

益田市立雪舟の郷記念館については、令和８年秋にリニューアルオープンすることから、これを記念し特別展「寧波と益田—もう一つの海のシルクロード」を開催します。また、益田市立歴史文化交流館「れきしーな」などの文化施設との連携により、日本遺産の構成文化財の周遊促進を図ります。

次世代を担う若手棋士の育成を目的とした棋戦「岩本薫記念益田杯」の決勝戦を、令和７年度に引き続き本市で開催し、本市の魅力を広く発信するとともに交流人口の拡大につなげます。

2030年の「島根かみあり国スポ・全スポ」の開催に向け、「国スポ・全スポ推進課」を設置し、大会が適切に実施されるよう益田市民球場などの競技施設の整備を行うとともに、自転車ロードレース大会の開催による機運醸成を図ってまいります。

また、効果的で効率的な大会運営に向けた運営組織の設立及び広報啓発にも取り組みます。

「益田市奨学金」については、令和７年度の制度拡充に引き続き、大学、高等専門学校及び専修学校の貸付上限額の引き上げや、奨学生認定審査の回数増により経済的な事情等により就学が困難な学生の支援に取り組みます。

（令和８年３月議会定例会において市長から表明）

資料編 I（基本データ）

1 益田市教育委員会各種委員会

(1) 益田市教育委員会の状況

① 教育委員会の構成

令和8年4月1日現在

氏 名	役 職	初任日	任 期
領 家 芳 明	教 育 長	令 和 6 年 4 月 1 日	令 和 9 年 3 月 31 日
原 田 笑	委 員	令 和 4 年 12 月 26 日	令 和 8 年 12 月 25 日
山 本 ひ と み	委 員	令 和 5 年 12 月 26 日	令 和 9 年 12 月 25 日
森 脇 達 也	委 員	令 和 6 年 12 月 26 日	令 和 10 年 12 月 25 日
大 谷 孝 司	委 員	令 和 7 年 12 月 26 日	令 和 11 年 12 月 25 日

② 令和7年度 教育委員会活動状況等

(ア) 教育委員会

定例会 12回（月1回）

臨時会 5回

教育委員出席率 99%

(イ) 教育委員会審議状況（主要なものを抜粋）

回（開催月）	分類	案 件
第 941 回 (R7 年 4 月)	議題	益田市教育委員会障がい者活躍推進計画（第3期）の策定について
		「益田市教育ビジョン」の見直しについて
		益田市教育支援委員会の委員の任命について
		史跡益田氏城館遺跡群整備検討委員会委員の委嘱について
	報告	「春休み！算数・数学パワーアップ教室」について
		市立中学校において発生した重大事態にかかる調査報告について
第 942 回 (R7 年 5 月)	議題	益田市立小・中学校の教職員の服務規則の一部を改正する規則の制定について
	報告	益田市立雪舟の郷記念館にかかる改修整備設計図（案）について
第 943 回 (R7 年 6 月)	議題	感謝状の贈呈について
	報告	第570回益田市議会定例会一般質問について
		令和7年度6月益田市一般会計補正予算について
第 944 回 (R7 年 7 月)	協議	令和7年度（令和6年度事業分）益田市教育委員会点検・評価報告書について
	報告	益田市教育に関する大綱の見直しについて
第 945 回 (R7 年 7 月)	報告	教育ビジョン見直しに係る教育審議会の状況について
第 946 回 (R7 年 8 月)	報告	学校遊具において発生した事故とその対応について
		「令和7年度全国学力・学習状況調査の結果」について
		「夏休み！算数・数学パワーアップ教室」について
第 947 回 (R7 年 8 月)	議題	令和7年度（令和6年度事業分）益田市教育委員会点検・評価報告書について

回（開催月）	分類	案 件
第 948 回 (R7 年 9 月)	報告	学校遊具において発生した事故にかかる損害賠償について
		「ひとが育ち輝くまち益田 夏フェス」開催報告について
		萩・石見空港マラソン全国大会の準備状況について
		令和 7 年度益田市二十歳の集い開催について
		二条地区における拠点整備（二条公民館移転）について
		令和 7 年度優良公民館及び公民館職員表彰（県教育長表彰）について
		第 5 7 2 回益田市議会定例会一般質問について
		令和 7 年度 9 月益田市一般会計補正予算について
第 949 回 (R7 年 10 月)	報告	高津学校給食センター学校給食調理業務事業者の選定結果について
第 950 回 (R7 年 10 月)	協議	市教育に関する大綱の見直し（ビジョンへ盛り込んでほしい内容）について
第 951 回 (R7 年 11 月)	議題	教育財産（益田東中学校敷地）の用途廃止について
	報告	戸田小学校校舎等の令和 8 年度からの活用に向けた改修について
		豊川公民館の供用開始及び豊川地区拠点整備の状況について
		益田市立雪舟の郷記念館改修整備事業について
第 952 回 (R7 年 12 月)	議題	益田市立学校給食共同調理場設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則の制定について
	報告	真砂小学校に配食する給食調理場の変更について
		益田市教育に関する大綱について
		市教育審議会からの答申について
		益田市いじめ防止基本方針の改訂について
		第 7 8 回優良公民館表彰（文部科学大臣表彰）について
		益田市立雪舟の郷記念館の管理運営等について
		第 5 7 3 回益田市議会定例会一般質問について
		令和 7 年度益田市一般会計補正予算について
第 953 回 (R8 年 1 月)	協議	益田市教育ビジョン（第 2 次）について
第 954 回 (R8 年 1 月)	報告	「冬休み！算数・数学パワーアップ教室」について
第 955 回 (R8 年 2 月)	議題	第 2 次 益田市教育ビジョンの策定について
	報告	市内小学校で発生した給食時における金属物の混入について
		益田市奨学金制度の拡充について
		学校給食費の抜本的な負担軽減について
		学校施設の整備に係る方向性について
		自転車ロードレース大会について
		二条地区拠点整備（二条公民館移転）について
		史跡益田氏城館跡整備基本計画の見直しについて
第 956 回 (R8 年 3 月)	協議	教育職員に関する業務量・健康確保措置実施計画について

回（開催月）	分類	案 件
第 957 回 (R8 年 3 月)	議題	益田市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則の制定について
		益田市立小学校及び中学校校区に関する規則の一部を改正する規則の制定について
		益田市学校給食共同調理場設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則の制定について
		学校給食における危機管理マニュアルの改訂について
		益田市教育支援センター設置条例施行規則の制定について
		益田市立小・中学校の教職員の服務規則の一部を改正する規則の制定について
		益田市立小中学校管理規則の一部を改正する規則の制定について
		益田市学校運営協議会規則の一部を改正する規則の制定について
		教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について
	報告	益田市立小中学校児童生徒遠距離通学費補助金交付要綱の一部改正について
		第 5 7 4 回益田市議会定例会一般質問について
		令和 7 年度 3 月益田市一般会計補正予算について
		令和 8 年度益田市一般会計予算について

(ウ) 会議外の主な教育委員会活動

種 別	活 動	開催月
研修会等	総合教育会議	令和 7 年 4 月
	総合教育会議	令和 7 年 5 月
	総合教育会議	令和 7 年 8 月
	益田鹿足市町教育委員会連合会第 1 回研修会	令和 7 年 8 月
	総合教育会議	令和 7 年 10 月
	益田鹿足市町教育委員会連合会第 2 回研修会	令和 7 年 11 月
	益田鹿足市町教育委員会連合会第 3 回研修会	令和 7 年 2 月
	総合教育会議	令和 8 年 3 月

(2) 総合教育会議の状況

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 1 条の 4 の規定に基づいて市長が設置する総合教育会議では、市長と教育委員会が執行機関同士、対等な立場で協議・検討する場として位置づけられています。総合教育会議では、主に次の事項を協議することと規定されています。

① 協議・調整すべき事項

(ア) 教育に関する大綱の策定

(イ) 教育を行うための諸条件の整備その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき措置

(ウ) 児童・生徒等の生命または身体に現に被害が生じ、又はまさに被害が生ずるおそれがあると見込まれる場合等の緊急の場合に講ずべき措置

② 令和 7 年度 総合教育会議開催状況

開 催 月	場 所	案 件
令和 7 年 4 月	益田市役所第 1 会議室	市内中学校で起きた重大事態を踏まえた再発防止策について
令和 7 年 5 月	益田市役所第 2 会議室	「市教育に関する大綱」の見直しについて
令和 7 年 8 月	保健センター大ホール	「市教育に関する大綱」の見直しに向けた骨子(案)について
		大綱の計画期間について
		3つのキーワードとそのキーワードから広がる視点について
令和 7 年 10 月	益田市役所第 1 会議室	益田市教育審議会における審議状況について
		「市教育に関する大綱」の見直しについて
		「市教育に関する大綱」のデザインについて
令和 8 年 3 月	保健センター大ホール	教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について

(3) 教育に関し、市長又は教育委員会が設置する審議会等

令和 8 年 4 月 1 日現在

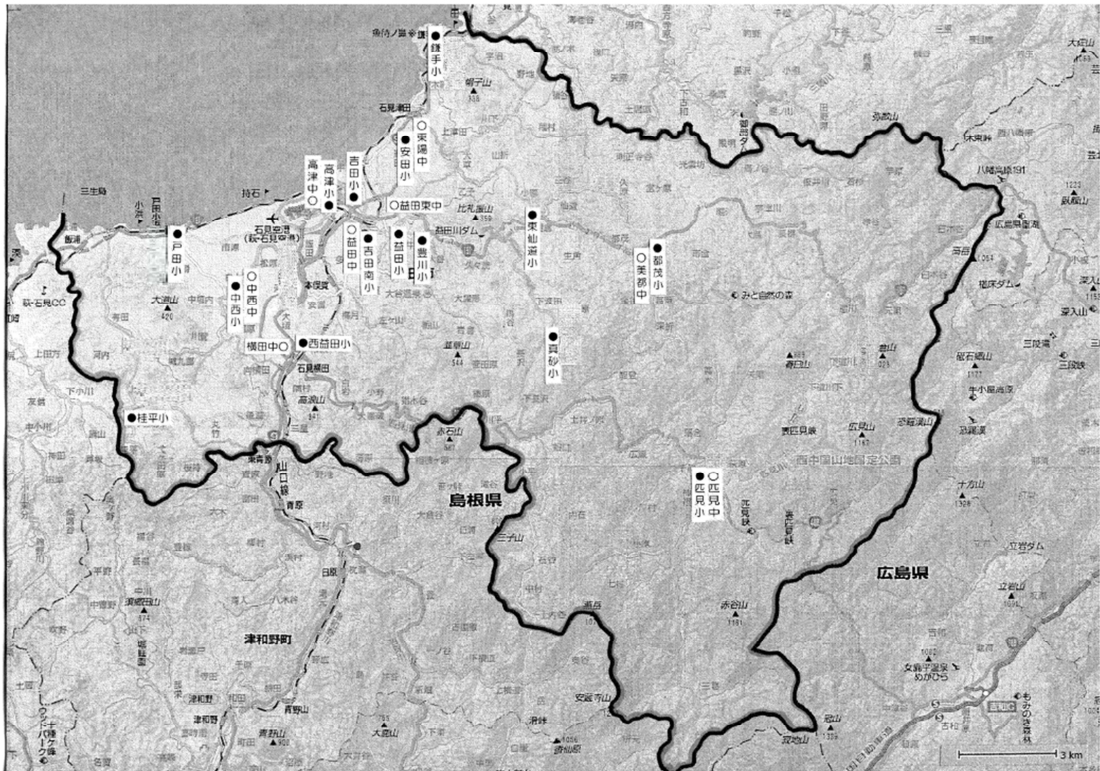
名 称	設置根拠法令	委員数	実人数	任命権者
益田市教育審議会	益田市教育審議会条例	20 人以内	12 人	教育委員会
益田市奨学金貸付審議会	益田市奨学金貸付条例	10 人以内	8 人	市 長
益田市教育委員会外部評価委員会	益田市教育委員会外部評価委員会設置規則	5 人以内	4 人	教育委員会
益田市立学校給食共同調理場運営委員会	益田市立学校給食共同調理場設置及び管理に関する条例	15 人以内	12 人	教育委員会
益田市教育支援委員会	益田市教育支援委員会条例	17 人以内	14 人	教育委員会
益田市特別支援教育連携協議会	益田市特別支援連携協議会設置要綱	16 人	15 人	教育委員会
益田市いじめ問題対策連絡協議会	益田市いじめ問題対策連絡協議会等設置条例	15 人以内	15 人	市 長
食物アレルギー対応検討委員会	食物アレルギー対応検討委員会設置要綱	8 人以内	7 人	教育委員会
益田市スポーツ推進審議会	益田市スポーツ推進審議会条例	10 人以内	8 人	教育委員会
図書館協議会	益田市図書館設置条例	5 人以内	5 人	教育委員会
社会教育委員	益田市社会教育委員条例	13 人	13 人	教育委員会
秦佐八郎博士顕彰委員会	秦佐八郎博士顕彰委員会設置条例	6 人	5 人	市 長
益田市文化財保護審議会	益田市文化財保護条例	7 人	7 人	教育委員会
史跡益田氏城館遺跡群整備検討委員会	史跡益田氏城館遺跡群整備検討委員会設置規則	15 人以内	5 人	教育委員会
益田市部活動地域移行推進協議会	益田市部活動地域移行推進協議会設置要綱	9 人以内	9 人	教育委員会

2 令和8年度 益田市小中学校一覧

学 校 名	住 所	電 話	校 長	教 頭	教職員数 (人)
益田小	本町 7-17	22-2395	河 野 直 樹	福 原 奈 美	31
高津小	高津一丁目 34-1	22-0733	田 中 茂 秋	江 角 し の ぶ	37
吉田小	中吉田町 272	22-2385	瀬 戸 洋	岩 崎 真 人	54
吉田南小	水分町 11-3	23-2321	大 島 義 紹	中 島 美 千	21
安田小	遠田町 758-1	27-0019	中 尾 瑞 紀	中 村 浩 志	21
鎌手小	西平原町 584	27-0504	松 本 徹	島 田 謙 一	12
真砂小	波田町イ 481	26-0543	稲 田 章 一	勝 部 尚	9
豊川小	大谷町 347-2	22-2368	品 川 智 成	福 島 淳 次	10
西益田小	横田町 147	25-2555	大 田 謙 二	富 澤 孝 輔	19
桂平小	桂平町 427	29-0019	田 原 昭 久	大 石 一 則	5
戸田小	戸田町イ 1332-1	28-0009	山 根 崇 志	谷 上 元 織	8
中西小	白上町イ 802	28-0507	杉 原 貴 宏	石 橋 功 子	14
東仙道小	美都町仙道 125	52-2225	房 野 伸 枝	三 口 由 香	11
都茂小	美都町都茂 1887-1	52-2547	坂 野 智 之	奥 田 洋 介	9
匹見小	匹見町匹見イ 1324	56-0017	大 庭 匡 史	大 畑 博 明	12
益田中	栄町 14-6	22-2390	齋 藤 和 宏	宮 田 茂 樹	44
高津中	高津三丁目 14-1	22-1001	和 田 政 幸	石 川 利 久	34
益田東中	東町 14-48	22-5011	寺 戸 和 泉	渡 邊 純 一	24
東陽中	津田町 740	27-0027	豊 田 邦 昭	村 上 大 樹	23
横田中	横田町 8-6	25-2001	村 上 剛	沖 田 憲 彦	17
中西中	白上町イ 1022	28-0510	藤 下 泰 之	田 原 俊 輔	15
美都中	美都町都茂 1947	52-2525	木 原 栄 彦	國 近 英 永	16
匹見中	匹見町匹見イ 1324	56-0034	大 庭 匡 史	大 畑 博 明	13

小学校合計	273
中学校合計	186
総計	459

3 小中学校位置図



4 学校別学年別学級数・児童生徒数

令和8年度児童生徒数（R8年5月1日現在）															
学年・生徒数	1年		2年		3年		4年		5年		6年		計		
学校名	児童数	通学学級数	児童数	通学学級数	児童数	通学学級数	児童数	通学学級数	児童数	通学学級数	児童数	通学学級数	児童生徒数	学級数	特学学級数
益田小学校	39	2	41	2	57	2	53	2	41	2	53	2	284	12	4
高津小学校	56	2	50	2	47	2	70	2	60	2	61	2	344	12	4
吉田小学校	95	4	124	4	130	4	110	3	114	4	104	3	677	22	7
吉田南小学校	14	1	18	1	20	1	23	1	24	1	33	1	132	6	2
安田小学校	25	1	19	1	21	1	26	1	18	1	35	1	144	6	4
鎌手小学校	4	1	9	1	1	1	7	0	8	1	5	0	34	4	2
真砂小学校	3	1	1	0	1	1	1	0	0	0	4	1	10	3	1
豊川小学校	1	1	6	0	4	1	6	0	7	1	4	0	28	3	2
西益田小学校	14	1	18	1	21	1	21	1	17	1	23	1	114	6	3
桂平小学校	1	1	2	0	2	1	3	0	0	0	1	1	9	3	0
戸田小学校	0	0	2	1	2	1	6	0	6	1	8	0	24	3	0
中西小学校	12	1	17	1	9	1	5	0	14	1	12	1	69	5	2
東仙道小学校	3	1	3	0	2	1	3	0	4	1	1	0	16	3	1
都茂小学校	5	1	1	0	3	1	2	0	7	1	2	0	20	3	0
匹見小学校	0	0	5	1	5	1	5	0	5	1	1	0	21	3	0
計	272	18	316	15	325	20	341	10	325	18	347	13	1,926	94	32
益田中学校	143	4	142	4	149	4							434	12	4
高津中学校	59	2	87	3	72	2							218	7	3
益田東中学校	72	2	66	2	76	2							214	6	2
東陽中学校	32	1	34	1	48	2							114	4	3
横田中学校	22	1	30	1	31	1							83	3	4
中西中学校	15	1	25	1	10	1							50	3	2
美都中学校	6	1	5	1	3	1							14	3	2
匹見中学校	2	1	2	1	2	1							6	3	1
計	351	13	391	14	391	14							1,133	41	21

5 令和8年度当初 益田市一般会計予算額（教育費）

（歳 入）

（単位：千円）

款	項	目	令和8年度	令和7年度	比 較
使用料及び手数料	使用料	教育使用料	8,720	8,002	718
国庫支出金	国庫補助金	教育費国庫補助金	115,405	142,874	△27,469
県支出金	県補助金	教育費県補助金	212,189	217,702	△5,513
	委託金	教育費委託金	22,835	3,768	19,067
財産収入	財産売払収入	生産物売払収入	34	38	△4
寄附金	寄附金	教育費寄附金	2,100	2,100	
繰入金	基金繰入金	斎藤驍育英基金繰入金	710	530	180
		小中学校施設整備基金繰入金	436	836	△400
		秦佐八郎博士顕彰記念事業基金繰入金	297	462	△165
諸収入	貸付金元利収入	教育費貸付金元利収入	4,600	605	3,995
	雑入	教育雑入	19,445	25,281	△5,836
市債	市債	教育債	148,400	588,400	△440,000
合 計			535,171	990,598	△455,427

(歳 出)

(単位：千円)

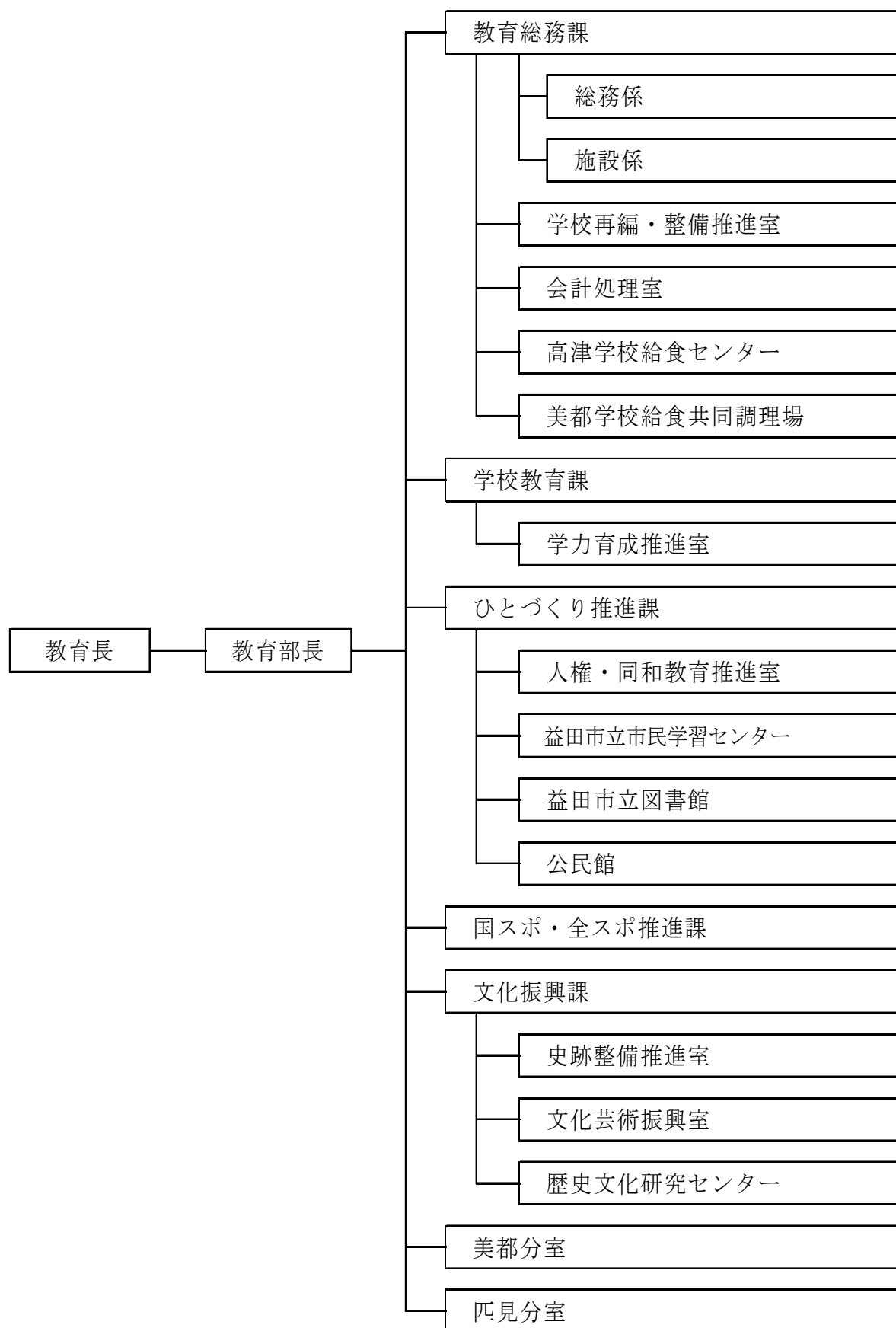
項	項	目	令和8年度	令和7年度	比 較
教育費	教育総務費		317, 271	279, 546	37, 725
		教育委員会費	3, 122	3, 440	△318
		事務局費	314, 149	276, 106	38, 043
	小学校費		510, 644	660, 997	△150, 353
		学校管理費	262, 000	218, 723	43, 277
		教育振興費	248, 644	442, 274	△193, 630
	中学校費		290, 291	487, 489	△197, 198
		学校管理費	130, 305	148, 678	△18, 373
		教育振興費	159, 986	267, 171	△107, 185
		学校建設費	0	71, 640	△71, 640
	社会教育費		804, 684	1, 214, 681	△409, 997
		社会教育総務費	216, 143	380, 956	△164, 813
		市民学習センター費	40, 523	38, 697	1, 826
		文化財費	39, 863	15, 232	24, 631
		文化振興費	7, 314	6, 691	623
		文化施設費	60, 774	384, 418	△323, 644
		人権・同和教育費	1, 179	1, 180	△1
		公民館費	324, 989	280, 233	44, 756
		図書館費	113, 899	107, 274	6, 625
	保健体育費		653, 172	468, 739	184, 433
		保健体育総務費	35, 194	29, 416	5, 778
		体育施設費	135, 365	127, 678	7, 687
		学校給食施設費	482, 613	311, 645	170, 968
合 計			2, 576, 062	3, 111, 452	△535, 390

(単位：千円)

	令和8年度	令和7年度	比 較
一般会計歳出総額	29, 150, 000	27, 903, 000	1, 247, 000
一般会計総額に占める教育費の割合	8. 8%	11. 2%	

6 益田市教育委員会事務局組織体制

令和8年4月1日現在



資料編Ⅱ（施策・取組状況のデータ）

1 益田市奨学金事業の概要

(令和8年3月31日現在)

【奨学金制度】

貸付金額	高校	月額 16,000 円 以内
	高専・専修	月額 20,000 円 以内
	大学	月額 25,000 円 以内
貸付期間	在学する学校の正規の修業期間	
据置期間	貸付終了後1年間	
返還期間	6年以内。2校にわたり貸付を受けた場合は8年以内。	
返還免除	返還金が半額免除。 (免除の要件) 貸付け終了後、5年以上継続して益田市内に居住し、かつ、市内または市内から通勤可能な地域で就労されていること。	

【奨学基金の運用状況】

(単位：円)

年度	基金額	貸付額	返還金	貸付残額	基金残額
R 3	159,962,818	6,396,000	9,775,000	52,437,800	107,525,018
R 4	162,762,255	5,112,000	8,521,500	49,028,300	113,733,955
R 5	163,173,255	4,617,000	7,708,500	45,576,800	117,596,455
R 6	161,696,755	3,792,000	6,687,000	40,468,800	121,227,955
R 7	162,593,015	4,200,000	4,569,400	39,811,400	122,781,615

【奨学基金の収入状況】

(単位：円)

年度	一般財源	寄附金		利 息	合 計
R 3	0	660,000	(個人4)	18,804	678,804
R 4	0	2,797,453	(団体2、個人6)	1,984	2,799,437
R 5	0	768,956	(個人4)	2,044	771,000
R 6	0	640,000	(団体1、個人2)	96,500	736,500
R 7	0	930,000	(団体1、個人3)	254,260	1,184,260

【貸付者数】

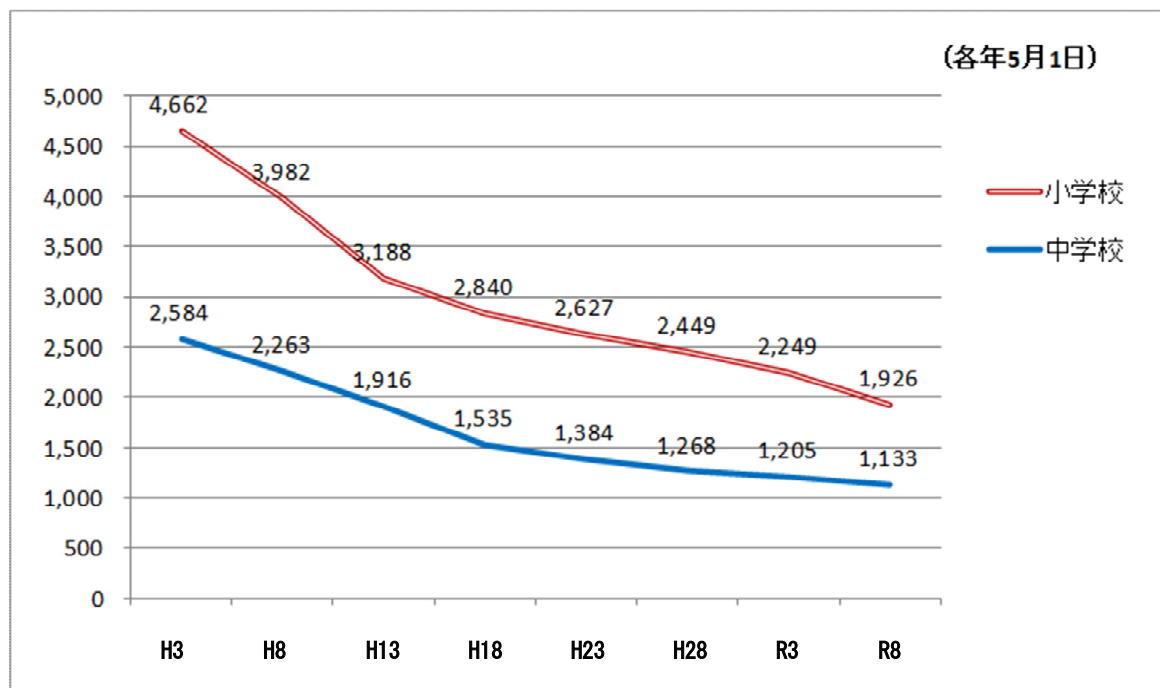
(単位：人)

年度	貸付者数 (うち新規貸付者数)			
	高 校	高専・専修	大 学	合 計
R 3	8 (4)	4 (1)	13 (2)	25 (7)
R 4	6 (3)	4 (2)	10 (3)	20 (8)
R 5	6 (2)	2 (1)	11 (4)	19 (7)
R 6	6 (1)	1 (0)	8 (0)	15 (1)
R 7	5 (2)	1 (1)	10 (4)	16 (7)
R 8	9 (7)	2 (1)	13 (6)	24 (14)

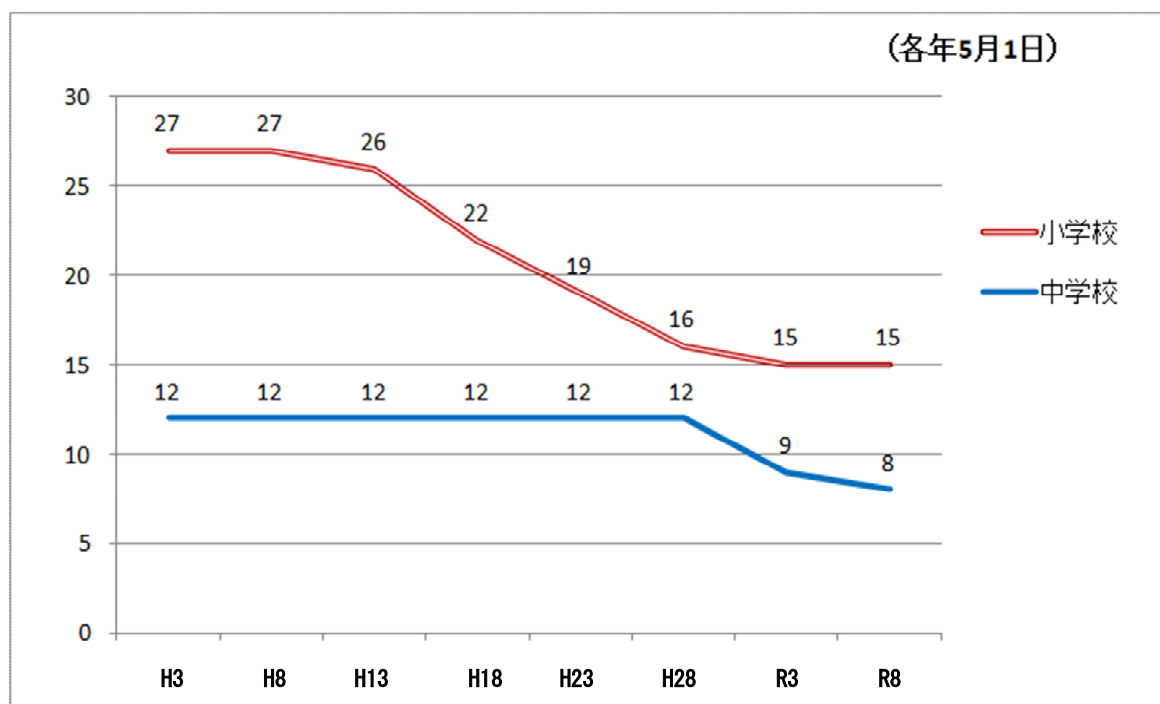
注) 途中、貸付を停止した者も含む

2 益田市の児童生徒数・学校規模等について

(1) 児童生徒数の推移（平成3年度～令和8年度）



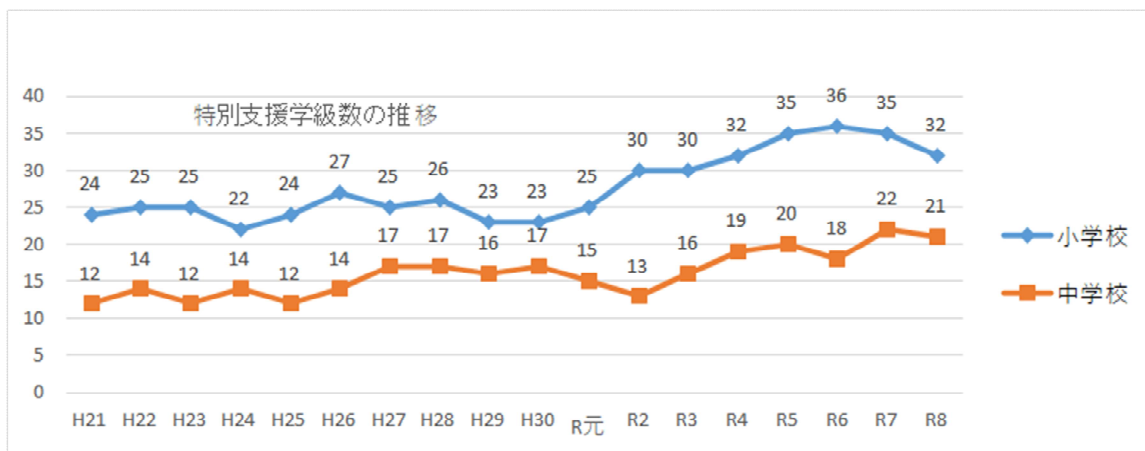
(2) 学校数の推移（平成3年度～令和8年度）



(3) 特別支援学級及び在籍児童生徒の推移

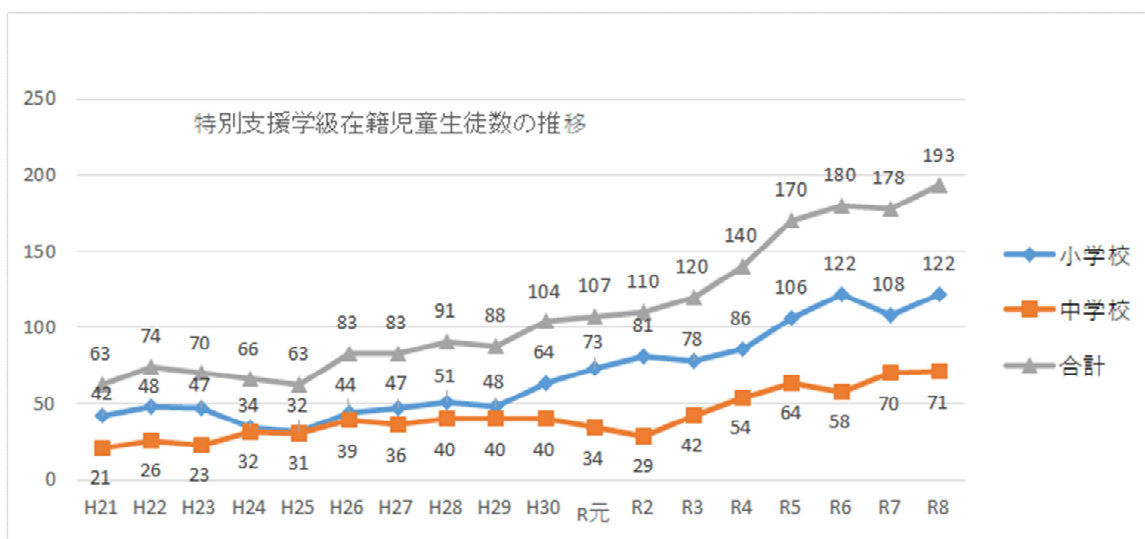
特別支援学級数 (毎年度5月1日現在) (単位:学級)

区分	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
小学校	24	25	25	22	24	27	25	26	23	23	25	30	30	32	35	36	35	32
中学校	12	14	12	14	12	14	17	17	16	17	15	13	16	19	20	18	22	21
合計	36	39	37	36	36	41	42	43	39	40	40	43	48	51	55	54	57	53



特別支援学級在籍児童生徒数 (毎年度5月1日現在) (単位:人)

区分	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
小学校	42	48	47	34	32	44	47	51	48	64	73	81	78	86	106	122	108	122
中学校	21	26	23	32	31	39	36	40	40	40	34	29	42	54	64	58	70	71
合計	63	74	70	66	63	83	83	91	88	104	107	110	120	140	170	180	178	193



(4) 学校施設の整備の状況 (令和8年3月末現在)

① 本市の学校施設耐震化状況 (非木造及び木造)

○耐震化率 98.5%

○未耐震化施設数 1校1棟 (木造:1棟)

② 本市の学校トイレ整備状況

○洋便器化率: 57.2% (昨年:56.4%) 基数: 299/523基

3 一般会計（当初予算）に占める教育費の現状（他市との比較）について

益田市

（単位：千円）

年 度	一般会計総額	教育費	割合 (%)
令和 8 年度	29,150,000	2,576,062	8.8
令和 7 年度	27,903,000	3,111,452	11.2
令和 6 年度	27,070,000	2,413,124	8.9
令和 5 年度	26,395,000	2,190,800	8.3
令和 4 年度	26,631,000	2,100,417	7.9

松江市（松江市ホームページより）

年度	一般会計総額	教育費	割合 (%)
令和 8	119,391,000	14,826,450	12.4
令和 7	112,990,000	11,095,852	9.8
令和 6	106,415,000	11,355,367	10.7
令和 5	103,515,000	12,798,563	12.4
令和 4	103,578,000	11,260,119	10.9

出雲市（出雲市ホームページより）

年度	一般会計総額	教育費	割合 (%)
令和 8	97,570,000	13,893,767	14.2
令和 7	91,960,000	12,468,331	13.6
令和 6	89,770,000	14,586,381	16.2
令和 5	89,300,000	16,850,914	18.9
令和 4	80,250,000	10,647,879	13.3

安来市（安来市ホームページより）

年度	一般会計総額	教育費	割合 (%)
令和 8	28,520,000	3,258,926	11.4
令和 7	28,870,000	2,734,744	9.5
令和 6	27,070,000	2,953,810	10.9
令和 5	26,150,000	2,664,327	10.2
令和 4	25,150,000	2,139,015	8.5

雲南市（雲南市ホームページより）

年度	一般会計総額	教育費	割合 (%)
令和 8	32,280,000	3,613,718	11.2
令和 7	31,120,000	3,484,483	11.2
令和 6	32,930,000	3,655,485	11.1
令和 5	31,570,000	2,515,219	8.0
令和 4	31,530,000	2,846,631	9.0

大田市（大田市ホームページより）

年度	一般会計総額	教育費	割合 (%)
令和 8	26,760,000	2,141,303	8.0
令和 7	25,980,000	2,355,182	9.1
令和 6	24,150,000	1,935,028	8.0
令和 5	22,530,000	1,816,525	8.1
令和 4	23,170,000	1,590,544	6.9

浜田市（浜田市ホームページより）

年度	一般会計総額	教育費	割合 (%)
令和 8	42,740,000	5,174,577	12.1
令和 7	43,305,986	3,947,425	9.1
令和 6	39,142,675	3,287,954	8.4
令和 5	37,390,000	3,187,042	8.5
令和 4	38,910,000	2,893,047	7.4

江津市（江津市ホームページより）

年度	一般会計総額	教育費	割合 (%)
令和 8	19,845,000	3,446,088	17.4
令和 7	18,751,000	1,735,820	9.3
令和 6	18,474,000	1,702,352	9.2
令和 5	15,665,000	1,169,536	7.5
令和 4	15,436,000	1,198,351	7.8

4 令和7年度学力調査結果について

【全国学力・学習状況調査について】

(1) 教科に関する調査の結果から

- ・全国学力調査では、小学校は国語・算数ともに全国平均及び県平均を下回った。中学校は国語・数学ともに全国平均及び県平均を下回った。

(2) 生活・学習意識調査及び質問紙調査の結果から

①家庭学習の充実

- ・全国学力・学習調査の児童生徒質問紙において、学校の授業時間以外に普段（月～金）1日1時間以上勉強する割合は、小学校は、全国平均より10ポイント、県平均より10ポイント下回った。中学校は全国平均より25ポイント、県平均よりも11ポイント下回った。特に、全国学力・学習状況調査において「家庭学習を全くしない」と回答した生徒の割合が中学校平均で13%となっている。10人に1人は家庭学習をほとんど行っていない状況である。また、1月に実施した益田市児童生徒意識調査において、「家庭学習を全くしない」と回答した児童生徒の割合は、小学4～6年生は14%、中学1～3年生は25%であった。
- ・小中学校共に、メディア依存の傾向が強い。益田市児童生徒意識調査において、「平日のテレビゲーム利用が4時間以上」と回答した児童生徒の割合が小学4～6年生は21%、中学1～3年生は25%、「平日の携帯電話・スマートフォンの利用が4時間以上」と回答した児童生徒の割合が、小学4～6年生は12%、中学1～3年生は21%であった。

②ICT活用の一層の充実

- ・すべての小中学校で、「気付きと対話」のある授業づくりを推進し、1人1台端末活用を図ったことで、授業におけるICT機器活用率は高まっている。端末の活用は学校だけにとどまらず、家庭・地域等でも積極的な活用している。
- ・児童生徒の端末活用を推進するには、指導者である教職員の活用能力を高めることやICT機器への抵抗感の軽減も必要になる。「気付きと対話」のある授業づくりを通し、推進校7校の効果的な実践を市内全体で共有し、教職員のICT機器活用能力の向上を図った。

【教科正答率一覧】

小6国語・算数、中3国語・数学は全国学力・学習状況調査（4月実施）の結果による

（○＝県平均より3ポイント以上上回るもの▽＝県平均より3ポイント以上下回るもの）

学年	教科	益田市	島根県	比較	学年	教科	益田市	島根県	比較
小6	国語	59	64	▽	中3	国語	51	53	
	算数	52	55	▽		数学	41	46	▽

5 教育設備等について

(1) 学校における ICT 環境の整備

(令和 7 年 3 月 1 日現在)

項 目	益田市	島根県平均	全国平均
児童生徒一人当たりの学習者用コンピューター台数 (台/人)	1.0 台	1.0 台	1.1 台
無線 LAN 又は移動通信システム (LTE 等) によりインターネット接続を行う普通教室の割合	100.0%	99.4%	98.3%
普通教室の大型提示装置整備率	94.0%	91.8%	89.6%
統合型校務支援システム整備率	62.5%	83.5%	94.8%

※「令和 6 年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果」より

(2) 益田市の教員の ICT 活用状況

(令和 8 年 3 月末現在)

① 授業において週 1 回以上 ICT 機器を活用している教員の割合

	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
小学校	100.0%	100.0%	100.0%
中学校	100.0%	100.0%	100.0%
全 体	100.0%	100.0%	100.0%

② 授業において 1 日 1 回以上 ICT 機器を活用している教員の割合

	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
小学校	80.0%	93.3%	100.0%
中学校	100.0%	100.0%	88.9%
全 体	90.0%	96.7%	94.5%

(3) 学校図書館の図書整備状況

図書購入費の推移 (当初予算)

(単位：千円)

区分	H30	R 元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
小学校	382	386	372	362	382	1,140	1,140	2,100	2,100
中学校	509	471	475	446	465	1,500	1,500	3,140	3,140
合 計	891	857	847	808	847	2,640	2,640	5,240	5,240

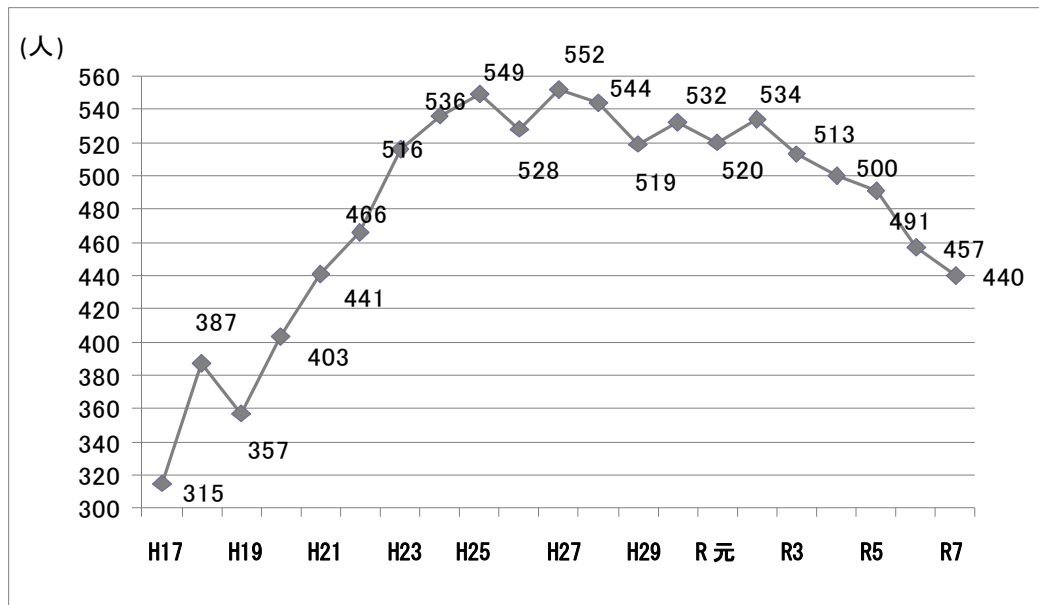
6 就学援助について

(1) 準要保護児童生徒の認定状況の推移

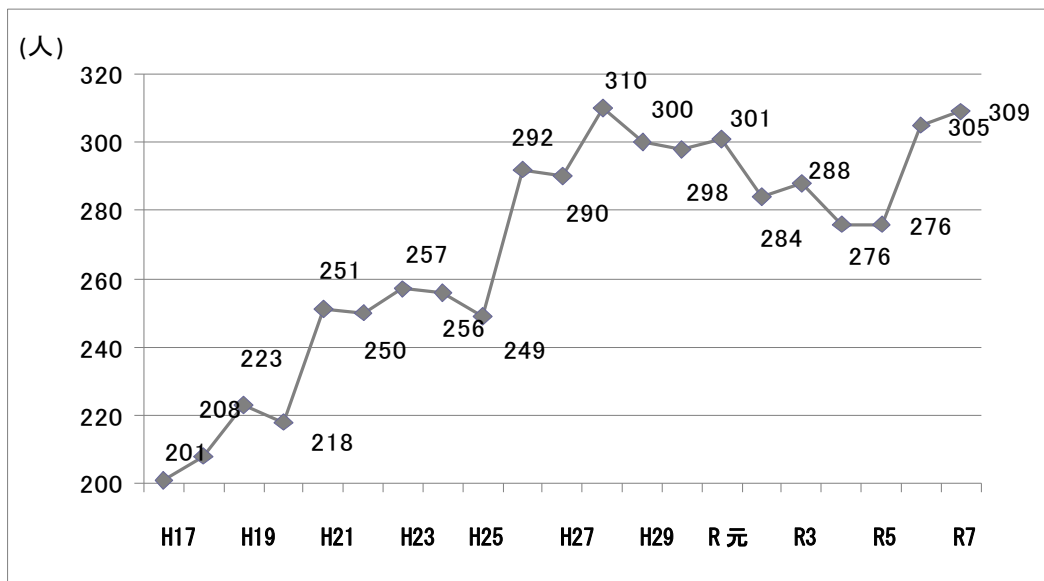
令和7年度末の小学校の認定数は440人と全体の21.9%を占めている。

また、中学校の認定数が309人と全体の27.0%を占めている。

小学校の年度別認定状況



中学校の年度別認定状況



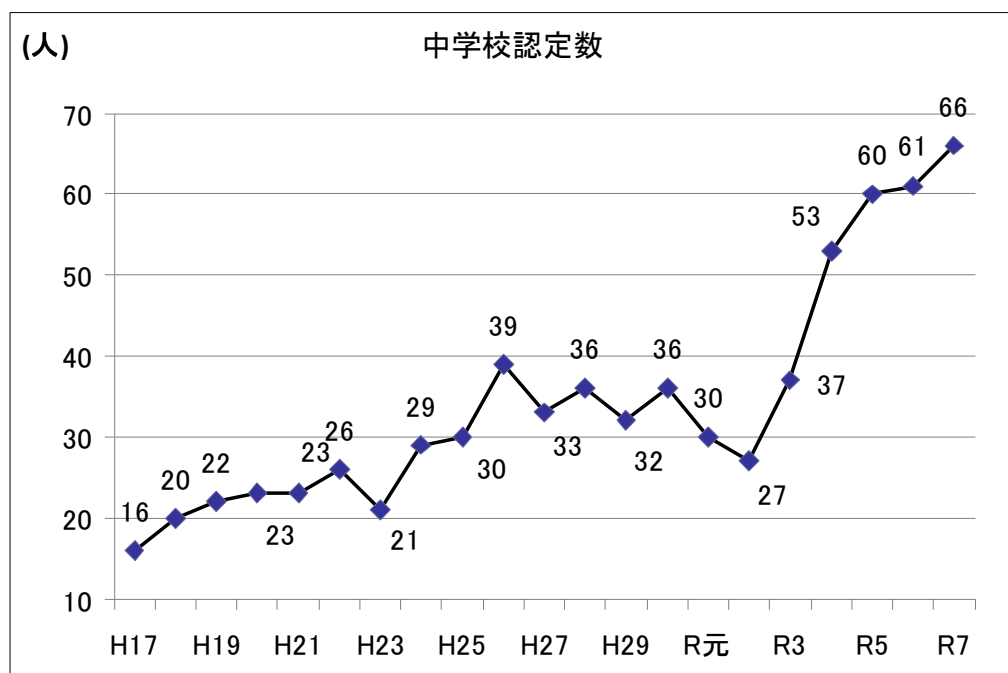
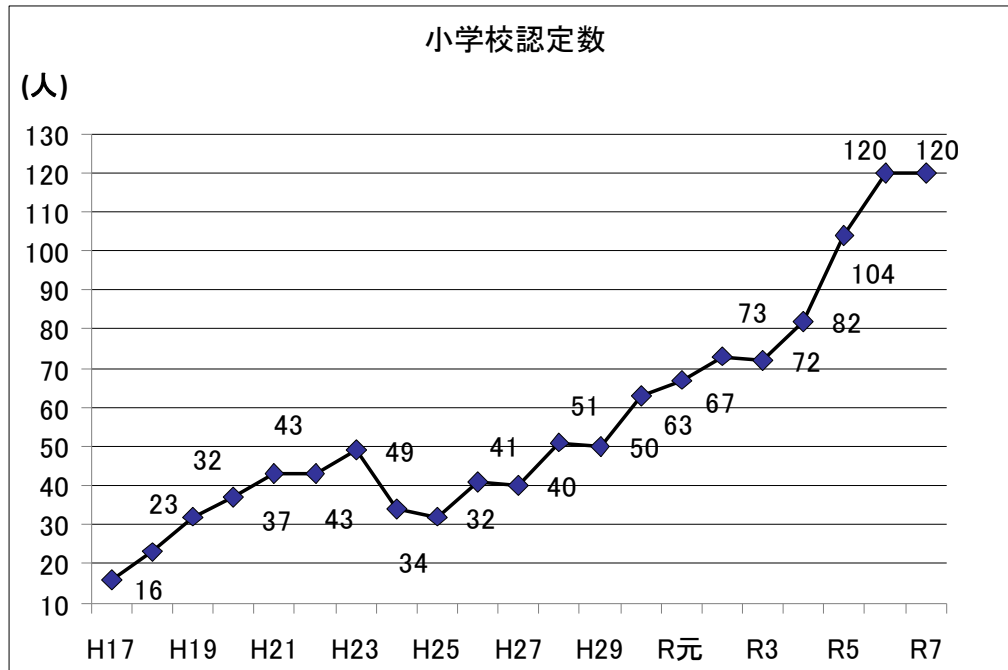
※援助の対象となる世帯は

前年度または当年度において

- ・ 市民税が非課税または減免になっている。
- ・ 児童扶養手当法による手当の支給を受けている。
- ・ 家族の休職・離職・離婚・病気などで経済的に不安定な状況にある。

その他一定の基準により所得状況等を勘案のうえ、教育委員会が認定する。

(2) 特別支援教育就学奨励児童生徒の認定状況の推移



(3) 特別支援教育支援員等の配置状況 (4月1日現在)

区分	令和7年度			令和8年度		
	学校教育支援員	特別支援学級支援員	日本語支援員	学校教育支援員	特別支援学級支援員	日本語支援員
小学校	17	8	6	17	9	5
中学校	0	9	2	0	6	2
計	17	17	8	17	15	7

学校教育支援員 : 通常学級に在籍する児童生徒に支援を行う。

特別支援学級支援員 : 特別支援学級の在籍児童生徒に支援を行う。

日本語支援員 : 日本語指導が必要な児童生徒に支援を行う。

※介助員・看護師は除く。

7 益田市立図書館について

(1) 令和7年度 益田市立図書館蔵書等利用状況

【益田市立図書館】入館者及び利用者（下段(参考)令和6年度)

開館 日数	入館者数 (人)	利用者数 (人)	図書資料および視聴覚資料貸出状況						
			一般書 (冊)	児童書 (冊)	学校資料 (冊)	雑 誌 (冊)	A V資料 (点)	郷土資料 (冊)	計
342	111,598	32,602	54,803	55,089	172	9,934	2,992	4	122,994
335	106,420	31,968	55,990	51,040	283	10,257	2,568	1	120,139

【益田市立美都図書館】入館者及び利用者（下段(参考)令和6年度)

開館 日数	入館者数 (人)	利用者数 (人)	図書資料および視聴覚資料貸出状況						
			一般書 (冊)	児童書 (冊)	学校資料 (冊)	雑 誌 (冊)	A V資料 (点)	郷土資料 (冊)	計
277	1,167	872	1,266	1,135	-	105	64	4	2,574
272	1,414	1,000	1,339	1,266	-	134	117	12	2,868

(2) 令和7年度 資料等整備状況

【益田市立図書館】

① 図書資料（下段(参考)令和6年度)

年間蔵書内訳				令和7年度末蔵書数		
一 般		児 童		一 般	児 童	計
受入冊数	除籍冊数	受入冊数	除籍冊数			
1,898	1,368	1,141	435	136,299	53,311	189,610
2,284	1,576	1,051	390	135,738	52,591	188,329

② 視聴覚資料（下段(参考)令和6年度)

年間タイトル内訳				令和7年度末タイトル数		
一 般		児 童		一 般	児 童	計
受入数	除籍数	受入数	除籍数			
2	0	19	7	5,370	1,475	6,845
19	0	0	0	5,368	1,463	6,831

【益田市立美都図書館】

① 図書資料（下段(参考)令和6年度)

年間蔵書内訳				令和7年度末蔵書数		
一 般		児 童		一 般	児 童	計
受入冊数	除籍冊数	受入冊数	除籍冊数			
186	113	68	31	17,190	10,973	28,163
212	175	76	127	17,128	10,934	28,062

② 視聴覚資料（下段(参考)令和6年度)

年間タイトル内訳				令和7年度末タイトル数		
一 般		児 童		一 般	児 童	計
受入数	除籍数	受入数	除籍数			
0	0	0	0	644	277	921
1	0	0	0	644	277	921

8 放課後子ども教室について

＜放課後子ども教室（益田市では「ボランティアハウス」と称す）の目的＞

小学校の子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちの勉強やスポーツ・文化活動、交流活動等に取り組むことにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。

【対象者】小学生（1年生～6年生）

【指導員】地域住民のボランティアなど

【活動内容】各教室が独自の内容で運営

令和7年度 教室実施状況

子ども教室名	活動日数	参加児童 延べ人数	子育て パートナー 延べ人数	活 動 内 容
高 津 ボランティアハウス	147	5,208	1,034	自由遊び、自主学習など バスケットボール、ブロック、おやつづくりなど
吉 田 ボランティアハウス	104	898	331	開催日ごとに内容を決めて活動（お花、お抹茶、将棋、おやつづくりなど）
安田ボランティア ハウス千鳥園	203	1,161	774	自由遊び（プレーパーク千鳥園で自由に遊ぶ、山菜の天ぷら、さつまいも苗植え等）
益 田 ボランティアハウス	78	727	254	開催日ごとに内容を決めて活動（将棋、お琴、工作など）
西益田 ボランティアハウス	16	416	228	季節の行事にあった活動（稚鮎の放流、七夕飾り作り、七夕会、川釣りなど）
真 砂 ボランティアハウス	27	223	115	開催日ごとに内容を決めて活動（季節の行事など）、ちぎり絵、魚釣りなど
東仙道 ボランティアハウス	19	356	44	本の読み語り、防災クッキー、レクリエーション
ひとまる 小 野 ハ ウ ス	41	271	220	自由遊び、ボール遊び、花植え、かしわ餅作り、さつま芋苗植え、モルックなど
都 茂 ボランティアハウス	9	111	47	バケツ稲作り、柏餅作り、水遊び、映画、バスツアー、お楽しみ会など
二 条 ボランティアハウス	28	247	73	自由遊び、クレープ作り、田んぼ草刈、生け花、柏餅作りなど
合 計	672	9,618	3,120	

※年間活動日数には、休日の活動日数も含む

9 公民館活動実施状況について

公民館活動を通じて、住民同士が「つどう」「まなぶ」「むすぶ」「いかす」という機能を発揮し、地域住民の拠点、ひとつづくりの拠点として現役世代はもちろん、その世代と次世代をつなぎ、未来の担い手を育成のための世代間交流を意識した活動を行っている。

令和7年度 公民館活動実施状況

地区名	事業数	幼児	小学生	中学生	高校生	20歳未満	20歳以上 65歳未満	65歳以上	不明	合計	前年実績	割合
益田	821	132	497	167	97	5	6,726	3,730		11,354	9,655	118%
吉田	698	80	876	232	36	22	1,516	5,915		8,677	8,786	99%
高津	1,455	180	1,184	359	97	50	6,782	8,855		17,508	16,622	105%
安田	1,056	93	524	262	105	29	2,382	8,139		11,534	10,839	106%
鎌手	703	198	1,001	229	30	39	2,657	5,273		9,427	9,010	105%
種	173	2	26	28	3	34	1,224	326		1,643	1,796	91%
北仙道	517	183	957	147	821	143	2,210	1,569		6,267	9,475	66%
豊川	366	30	241	305	22	4	23	190		809	1,308	62%
真砂	177	107	354	174	43	22	593	960		2,770	1,539	180%
豊田	781	92	487	237	72	49	2,792	5,340		9,069	12,343	73%
西益田	534	128	172	400	62	18	2,005	4,343		7,128	6,721	106%
二条	365	32	204	58	9	12	1,170	1,970		3,477	3,985	87%
美濃	203	18	82	8	0	4	280	754		2,317	1,802	129%
小野	975	37	707	139	26	11	2,907	5,456	1,940	9,283	8,705	107%
中西	656	183	662	469	82	53	2,608	4,782		8,786	10,178	86%
東仙道	391	103	483	90	19	32	1,144	3,281		5,152	4,616	112%
都茂	392	91	825	109	7	0	644	1,030		2,667	2,315	115%
二川	186	2	182	13	3	12	428	756		1,401	2,056	68%
匹見上	198	63	171	93	0	5	1,166	1,058		2,628	3,380	78%
匹見下	556	2	47	17	0	0	115	1,813		1,963	1,869	105%
道川	281	14	145	81	2	0	537	939		1,718	1,419	121%
	11,484	1,770	9,827	3,617	1,536	544	39,909	66,479	1,940	125,578	128,419	98%

10 スポーツ活動の推進について

市民生活におけるスポーツの果たす役割の重要性を考慮し、スポーツで人と人をつなぎ、誰もがスポーツに親しめる環境づくりを進めます。

(1) 「する」スポーツの充実

① 事業名 令和7年度エンジョイ・スポーツますだ

《事業内容》

市民の健康増進と体力向上に向け、スポーツ等を通して健康で豊かなスポーツライフの実現を目的として、スポーツ・レクリエーション団体等により市民の生涯スポーツの普及と健康増進、体力向上に向けた事業を実施。ニュースポーツをはじめとする12種目を開催。

○開催期日 令和7年8月30日（土）～12月7日（日）

○開催場所 益田運動公園内各施設

○種目別参加者実績 12種目 501名

② 事業名 益田運動公園主催事業（各種教室、イベント等）

《事業内容》

益田運動公園主催により、様々なスポーツやレクリエーション等の教室やイベントを開催し、子どもから高齢者、障がい者の方々と楽しく体を動かすことができる場を提供。

○開催回数 教室・・・594回 6,497人参加

教室訪問型・・・33回 518人参加

イベント・・・30回 1,974人参加

○開催場所 教室・イベント・・・益田運動公園施設、公民館

教室訪問型・・・益田運動公園施設、公民館、学校

(2) 「みる」スポーツの充実

① 事業名〈高体連関係〉

第101回島根県高等学校野球益田地区選手権大会 5/17～5/18

第102回島根県高等学校野球益田地区選手権大会 8/23～8/24

〈中体連関係〉

第47回益田鹿足中学校バレーボール選手権 5/3

第53回石西中学校優勝野球大会 5/3～5/4

第3回島根県中学校益田・浜田ブロック陸上競技大会 5/27～5/28

益鹿ブロック中学校総合体育大会（卓球） 5/29

第3回益田ブロック軟式野球大会 6/4～6/5

第3回島根県中学校益田ブロックサッカー大会 6/4～6/5

第59回島根県中学校総合体育大会（サッカー） 7/19～7/22

〈社会人関係〉

第22回益田市障がい者スポーツ大会 6/15

《事業内容》

現在、プロスポーツを誘致できる施設が少なく、市内の子ども達にプロスポーツを見せる機会がないのが現状。しかし、県内の高校生の大会や、中学校県大会、また、全国大会につながる社会人の大会を小学生や中学生が見ることで、スポーツへの関心や意欲を高めると同時に、県内の競技力の向上にもつながる。

(3)「ささえる」スポーツの充実

① 事業名 一般社団法人益田市スポーツ協会との連携

《事業内容》

益田市の競技スポーツの振興、またスポーツを通した市民の健康づくりに取り組む一般社団法人益田市スポーツ協会への支援を行う。

○スポーツ協会参画団体数 28 団体

(4)「地域社会」との連携

① 事業名 令和7年度地域で取り組む生涯スポーツ推進事業

《事業内容》

児童、未就学児を対象に運動好きな子どもを育てるために、学校やその他の地域団体と連携し地域ぐるみで、学校教育活動外の時間を活用しながら様々なスポーツやレクリエーションなどを開催。また、市内の小学生親子を対象とした教室を年間通して開催。

○開催期日 令和7年7月～令和8年2月

【訪問型】5回

【教室型】7回

○開催場所 【訪問型】中西小学校

【教室型】内田交流センター、益田市民体育館、高津中学校、市民学習センター、美都さくらドーム

○講師 【訪問型】益田市スポーツ推進委員

【教室型】益田市スポーツ推進委員、益田市体操協会、スポーツチャンバラ協会、益田東高校野球部、益田市サッカー協会、ピラティスインストラクター

○参加者実績 【訪問型】参加児童等 70 名（延べ人数）

【教室型】参加親子 213 名（延べ人数）

1 1 文化芸術の振興について

(1) 協議会、実行委員会

① 令和7年度芸術文化とふれあう協議会事業

(ア) グラントワ利用支援事業（バス代等交通費助成）

- ・ 益田市 26 件 1,437,390 円
- ・ 津和野町 2 件 40,600 円
- ・ 吉賀町 1 件 44,000 円

(イ) 意識啓発事業（いつでもどこでも音楽祭実施・地域や学校へ出かけてのアウトリーチ演奏会及び講座）

- ・ いつでもどこでも音楽祭 4 回
- ・ アウトリーチ演奏会等 3 回

(ウ) 小中学校石見美術館入館無料化事業（圏域の小中学生を対象に、無料で美術館へ入館可能とする。また同伴保護者1名につき半額減免する。）

※令和7年度についてはグラントワ開館20周年で小中学生の入場料は常時無料となっていたため実績は0人となった。

- ・ 小学生 0 人
- ・ 中学生 0 人
- ・ 同伴者 35 人

(エ) 夢と未来創造事業

- ・ セロ弾きのゴーシュ（劇団あしぶえ） 児童生徒 710 人

(2) 令和7年度 文化施設の入館者数

① 雪舟の郷記念館 休館中のため実績なし

② 歴史文化交流館 令和6年度展示ルーム入館者数

	開館日数（日）	入館者数（人）
R6	274	8,195

歴史文化交流館 令和7年度展示ルーム入館者数

	開館日数 （日）	有料入館者 （人）	無料入館者（人） ※年間パレード、散策イベント等含む		入館者数合計（人）		
		個人	小中高	その他	有料	無料	合計
R7	287	一般 960	861	3,594	960	4,455	5,415

(3) 令和7年度 偉人顕彰、後継者育成

① 秦佐八郎博士顕彰学校等出前講座（記念館見学含む）

市内小学校 5 校 市内団体 1 団体

② 糸操り人形後継者育成事業

益田の伝統芸能である益田糸操り人形にふれて、理解を深めてもらうため、学校や公民館、市民学習センター等で出前公演およびワークショップを開催する。

市内小学校 3 校 公民館・高齢者施設 5 団体

12 ライフキャリア教育の取組状況について

令和7年度 ライフキャリア教育の取組状況

(1) 「夢の教室」の開催

- 概 要 世界で活躍しているトップアスリートと小学生による交流プログラムである。子どもたちが、トップアスリートが日々の生活で大切にしている考えに触れ、日々の生活においての目標を持つきっかけを提供する。(公財)日本サッカー協会の社会貢献事業として実施している「夢の教室」を活用する。
- 開 催 日 令和7年6月24日～令和7年9月5日
- 実 施 校 益田市内 小学校5年生(13校)、中学校(1校)
児童生徒 382名
- 夢 先 生 鏑木毅(トレイルランニング)、高橋良輔(ボクシング)、菅和範(サッカー)、安斉雄虎(野球)、久光邦明(フットサル)、松本弥生(野球)、福田俊介(サッカー)、法師人美佳(サッカー)

(2) 「対話プラス」の開催

- 概 要 子どもと地域の大人が、1対1で対等に自分自身のことを語り合う授業で、成功者による講演や職業講話ではなく、地域で前向きに生活している大人と子どもが、これまでの人生について失敗談を含めて等身大で語り合います。2時間の授業を本音で語り合うことによって、子どもと地域の大人が繋がり、その後も気軽に話し合える関係になります。
- 実 施 校 小学校 13校(益田、高津、吉田、吉田南、安田、豊川、真砂、西益田、桂平、戸田、中西、東仙道、都茂)
中学校 9校(益田、高津、益田東、東陽、横田、小野、中西、美都、匹見)
高等学校 4校(益田、翔陽、明誠、益田東、)
養護学校 1校
※参加者数:1,446名、参加キャスト482名(延べ人数)

(3) 「益田版・職場体験」の実施

- 概 要 市内の中学3年生が、市内の事業所で職場体験を行う。ワークキャリア(職業観)のみに偏った単なる仕事の体験ではなく、そこで働く「ひと」や「生き方」との出会いの体験を大切にした職場体験である。働いている人との対話などの交流を通して、職業観や人生観を育む。また、「求人票」の発行や「面接」の実施など、これまでより中学生が主体的に職場体験に臨むことができる工夫をしている。
- 実 施 校 中学校 8校
※参加者 358名、事業所149社

(4) 「ロールモデル接続事業」の実施

- 概 要 高校生等と多様なロールモデルを接続し、高校生等が多様なライフキャリアに触れる場を構築する。それにより、高校生等に新たな価値観が芽生え、学校外の活動が創出されることを目的とする。
- 実 施 数 ロールモデル 28名 ※18プロジェクト(高校生37名の1団体)

1 3 歴史・文化財等の調査研究、普及啓発について

(1) 指定文化財一覧表

(令和8年4月1日現在)

種別／区分		指定区分						合計
		国宝	重要文化財	国指定	登録文化財	県指定	市指定	
有形文化財	建造物		2		10	3	5	20
	絵画		3			2	7	12
	彫刻					5	12	17
	工芸品						4	4
	書跡							
	古文書					3	8	11
	考古資料					1	5	6
	歴史資料						1	1
無形文化財	工芸技術							
民俗文化財	有形民俗文化財					2	2	4
	無形民俗文化財					2	11	13
記念物	史跡			4		4	41	49
	名勝					1		1
	史跡及び名勝			2			1	3
	天然記念物			1		2	9	12
	特別天然記念物							
合計			5	7	10	25	106	153
			12					

※この他、「重要美術品等ノ保存ニ関スル法律」(昭和8年4月1日法律第43号)による認定重要美術品として「柿本神社御法楽御短冊」がある。

○ 時代別指定文化財一覧

(令和8年4月1日現在)

	国宝	重要文化財	国指定	登録文化財	県指定	市指定	合計
原始					1	11	12
古代			2		2	12	16
中世		5	4		14	37	60
近世				4	2	25	31
近代				6	3	11	20
その他			1		3	10	14
合計		5	7	10	25	106	153

(2) 調査研究の推進

① 共同研究

市内の歴史や文化財について、他の研究組織と連携して調査研究を実施した。

研究名	研究主体	備考
16 世紀西日本港町の構造と相関	東京大学史料編纂所	R 5 ～ R 8
国衙文書と本拠から解き明かす国衙系領主の統治技術と実態	日本大学	R 6 ～ R 9

② 講師派遣

研究機関等からの要請により、シンポジウム等に講師を派遣し、調査・研究の成果を発表した。

実施日	講座名等	主催者	参加者数
令和 7 年 5 月 11 日 (日)	シンポジウム「近世益田家と須佐の歴史文化」	萩市立須佐歴史民俗資料館	250 人
6 月 11 日 (水)	しまねの古代文化連続講座「中世石見の山城」(オンライン)	島根県古代文化センター	—
7 月 6 日 (日)	公開講座「御四人体制-元就が輝元に遺した仕組み」	安芸高田市歴史民俗博物館	100 人
8 月 3 日 (日)	シンポジウム「中世港町の諸相」	福井県立一乗谷朝倉氏博物館	100 人
9 月 17 日 (水) ～19 日 (金)	明治大学フィールドワーク	石見空港利用拡大促進協議会	5 人
10 月 21 日 (火)	「しまねの古代文化探訪ツアー」	島根県教育庁文化財課	14 人
12 月 7 日 (日)	例会「中世山陰の湊と交易」	石見銀山研究会	30 人
令和 8 年 2 月 3 日 (火) 2 月 4 日 (水)	慶應義塾大学フィールドワーク	慶應義塾大学	7 人
3 月 6 日 (金)	「日本遺産と石見のものづくりツアー」	島根県文化財課世界遺産室	16 人
3 月 11 日 (水) ～13 日 (金)	慶應義塾大学フィールドワーク	石見空港利用拡大促進協議会	6 人
3 月 18 日 (水) 3 月 19 日 (木)	慶應義塾大学フィールドワーク	石見空港利用拡大促進協議会	2 人

(3) 普及啓発の推進

① 企画展示

歴史や文化財に親しむきっかけ作りのため、市内の温泉施設を会場とし、遺跡から出土した土器などを展示する企画展を開催した。

名称	期間	会場
匹見の縄文時代－発掘調査 40 年の成果から	令和 7 年 8 月 13 日～ 令和 8 年 3 月 29 日	匹見峡温泉やすらぎの湯

② 学校との連携

子どもたちが地域の歴史文化に対する理解や関心を深めることができるよう、益田の古墳や日本遺産の説明、社会科見学の受け入れなどの学習支援を行った。

実施日	学校名	内容	参加者数
令和7年 6月12日（木）	益田市立中西小学校6年生	心に残る文化財子ども塾	15人
7月1日（火）	益田市教研社会科部会	研修会「日本遺産中世益田について」	40人
7月2日（水）	益田市立益田中学校1年生	総合的な学習「益田市の魅力を発信」	10人
7月7日（月）	島根県立益田養護学校高等部 2年生	歴博キャラバンでの出前講座	19人
9月11日（木）	益田市立益田小学校6年生	歴博キャラバンでの出前講座	50人
10月3日（金）	益田市立豊川小学校5・6年生	社会科「地域の歴史を学ぼう」	14人

③ 地域との連携

益田市の歴史文化や日本遺産の魅力・価値について理解を深めてもらい、地域に対する誇りの向上につなげるため、講演会や現地見学などに対して講師の派遣を行った。

実施日	講座名等	主催者	区分	参加者数
令和7年 5月14日（水）	「津田と遠田の山城」	高齢者サロン津田さざなみ会	講師	16人
5月21日（水）	島根県立石見美術館企画展「石見の祈りと美」及び萩市須佐の見学	かひめ敬神婦人会	講師	15人
6月4日（水）	歴史探訪「れきしーな企画展」	益田公民館	展示解説	20人
6月6日（金）	歴史教室「豊かで深い美濃地区の歴史」	美濃公民館	講師	25人
6月7日（土）	「益田氏の歴史&ゆかりの地の日本酒を味わう会」	益田「中世の食」再現プロジェクト	講師	13人
6月8日（日）	島根県立石見美術館企画展「石見の祈りと美」	萬福寺婦人会	展示解説	20人
6月29日（日）	山陰ブロック研修会「益田家の至宝とその伝来」	茶道裏千家淡交会青年部	講師	60人
7月12日（土）	「益田氏の足跡をたずねるー宗像大社編」	石西の文化を学ぶれんげ草の会	講師	40人
7月16日（水）	ふるさと歴史教室「益田兼堯とその時代」	安田公民館	講師	15人
7月29日（火）	れきしーな展示案内	日本種苗協会	展示解説	10人
9月4日（木）	定例会講演「日本遺産について」	益田あけぼのライオンズクラブ	講師	15人
9月6日（土）	「石見地区の歴史を学ぶ」	KT Yoga promotion	講師	27人
10月4日（土）	歴史探訪「市内散策 高津地区を歩こう」	益田公民館	現地案内	7人
10月10日（金）	「青春と日本遺産の街・益田をめぐる道草バスツアー」	益田高校15期生喜寿記念同窓会	現地案内	47人
11月27日（木）	日本遺産バスツアー	高津地区ボランティア協議会	現地案内	16人
12月4日（金）	「益田の歴史と文化探索」	益田市老人クラブ連合会	講師	10人
12月7日（日）	「益田の古墳を学ぼう」	一社）益田市観光協会	講師	16人
12月12日（金）	都茂の歴史講座	都茂公民館	講師	5人
12月17日（水）	けやき学園「古墳巡りツアー」	NPO - MASUDA	現地案内	13人

12月17日（水）	高津川流域地域通訳案内士研修	益田地区広域市町村圏事務組合	講師	8人
12月22日（月）	「三宅御土居跡について」	石西の文化を学ぶれんげ草の会	講師	16人
12月27日（土）	「100年フード・益田「中世の食」再現プロジェクトについて」	吉田公民館	講師	15人
令和8年 2月11日（水）	「櫛代賀姫神社の神像が解き明かす歴史」	櫛代賀姫神社	講師	25人
3月17日（火）	ふるさと歴史教室「益田藤兼・元祥とその時代」	安田公民館	講師	20人
3月28日（土）	美濃地屋敷	ひきみ田舎体験推進協議会	現地案内	13人

14 人権・同和教育の研修実績について

（1）教職員向け研修

① 令和6年度

	日 程	演 題	講 師	参加者数
1	8月7日（水） 9:30～11:40 人権センター	研修 「人権を守るために行動を 起こそう」（同和問題）	椿 孝二 （部落解放同盟島根県連合会 元石西支部長）	103人 （134人）
2	8月9日（金） 13:30～16:30 人権センター	実践報告 ①「誰もが安心して暮らせる地域づくり～子ども食堂の取組から～」 ②「一歩を踏み出せる子供を育てるために」	永本 鶴枝 （高津子ども食堂） 立石 智美 （島根県高等学校・特別支援学校 人権教育研究協議会石西地区島 根県立益田翔陽高等学校教諭）	176人 （250人）
3	8月20日（火） 10:15～12:00 人権センター	講演 「世界はもっと豊かだし、人はもっと優しい」	森 達也 （映画監督・作家）	196人 （274人）
4	11月12日（火） 13:30～15:00 保健センター	研修 「ご家族のケアを担う子どもたちへの支援について」	宮本 恭子 （島根大学教授）	50人 （154人）
5	11月27日（水） 14:00～16:00 人権センター	研修 「引きこもり支援の動きと島根県内の状況」 「いっぽの紹介と益田圏域の状況」	小原 圭司 （社会医療法人正光会 松ヶ丘病院 医師） 吉田 幸枝 （社会医療法人正光会 松ヶ丘病院 精神保健福祉士）	32人 （54人）
6	12月21日（土） 13:30～15:30 人権センター	講演 「今ここにある部落差別～差別を許さない生き方を選ぶことができるように～」	吉岡 綾 （部落解放同盟福岡市協議会青年部）	19人 （125人）

（ ）は参加者総数 計 576 人

② 令和7年度

	日 程	演 題	講 師	参加者数
1	6月28日(土) 13:00～15:00 人権センター	講演 「部落問題を通して考える日常の中 の差別」	上川 多実 (BURAKU HERITAGE 運営メンバ ー)	11人 (144人)
2	7月24日(木) 13:30～15:30 人権センター	講演 「性的マイノリティってなに?～楽 しく学ぼう、LGBT、ジェンダー～」	仲岡 しゅん (うるわ総合法律事務所 弁護士)	153人 (219人)
3	8月8日(金) 9:45～12:00 保健センター	講演 「私の思い～出会いから学び得たも の～」	森下 光泰 (NHK 大坂拠点放送局コンテンツ センター シニアディレクター チーフ・プロデューサー)	241人 (348人)
4	11月4日(月) 10:00～11:45 人権センター	講演 「みんなが幸せになるために考えよ う～あなたの人権は守られています か～」	奥田 均 (近畿大学名誉教授)	15人 (71人)
5	12月6日(土) 12月7日(日) 総合福祉セン ター	映画上映 ・「普通に生きる～自立をめざして～」 ・「破戒」	第12回「いのち・愛・人権」展	11人 (137人)
6	12月7日(日) 13:30～15:30 総合福祉セン ター	講演 「今ここにある部落差別～差別を許 さない生き方を選ぶことができるよ うに～」	吉岡 綾 (部落解放同盟福岡市協議会青年 部)	40人 (95人)

() は参加者総数 計 471 人

(2) 人権・同和教育推進協議会委員、事務局員向け研修

① 令和6年度

	日 程	内容・テーマ	講 師	参加者数
1	10月28日(月) 13:30～15:30 四見タウンホール	研修 「アンコンシャス・バイアス(無意 識の偏見)について」	尾村 幸行 (島根県西部人権啓発推進 センター啓発指導講師)	25人
2	11月28日(木) 13:00～15:30 東仙道公民館	研修 「災害と人権～避難所における人権 問題～」	岡田 香織 (益田市人権・同和教育推進員)	37人
3	12月21日(土) 13:30～15:30 グラントワ	講演 「今ここにある部落差別～差別を許 さない生き方を選ぶことができるよ うに～」	吉岡 綾 (部落解放同盟福岡市協議会青 年部)	125人

計 187 人

② 令和7年度

	日 程	内容・テーマ	講 師	参加者数
1	10月8日(水) 13:00～15:00 人権センター	研修 「インターネットと人権」 (パネルディスカッション)	川谷 幸弘 (浜田警察署 生活安全課 生活安全係長) 福本 章弘 (島根県人権啓発推進センター 啓発指導講師) 若槻 徹 (松江市教育委員会学校教委貴課 教育指導講師)	25 人
2	12月7日(日) 13:30～15:30 総合福祉センター	講演 「今ここにある部落差別～差別を許さない生き方を選ぶことができるように～」	吉岡 綾 (部落解放同盟福岡市協議会青年部)	95 人
3	12月6日(土) 12月7日(日) 総合福祉センター	映画上映 ・「普通に生きる～自立をめざして～」 ・「破戒」	第12回「いのち・愛・人権」展	137 人

計 257 人